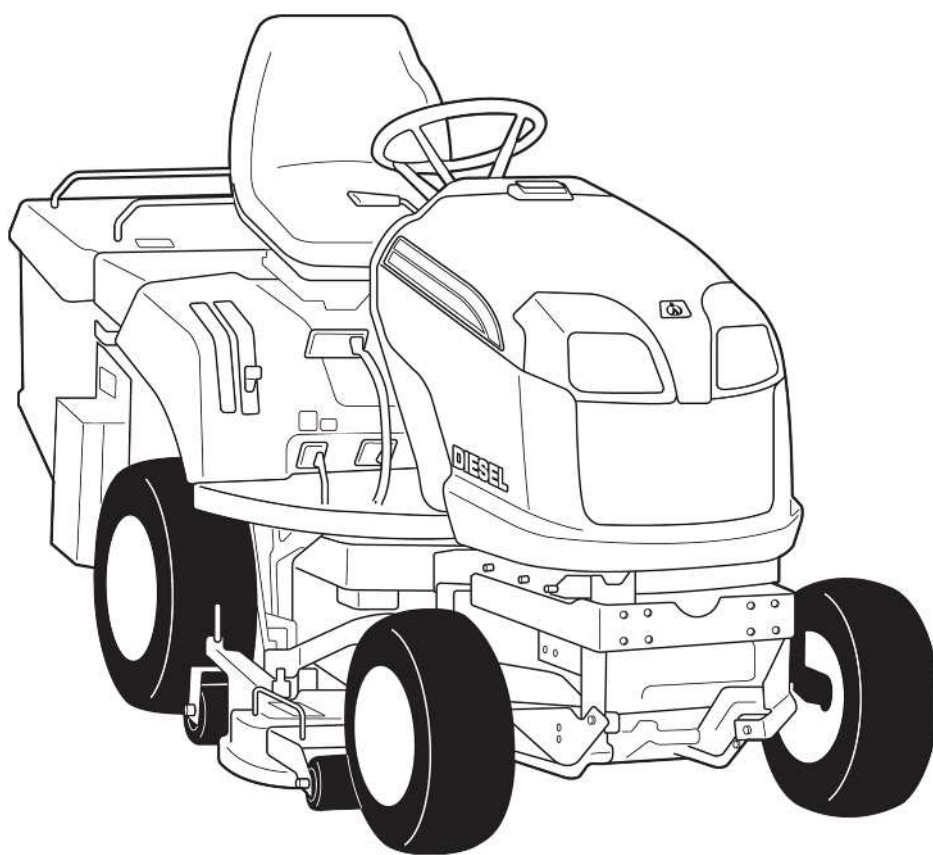


SHIBAURA

取扱説明書

GT216



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず
本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、
事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

乗用2連ロータリーモア GT216 を

お買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、**乗用2連ロータリーモア**の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載してあります。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱い頂き、最良の状態でご使用ください。
- お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社または当社の販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付きのことございましたら、お買い上げいただきましたお店、またはお近くの特約店・販売店にご相談ください。
- 通常のご使用で、万一故障・破損等が発生した場合は、その状態のまま販売店にご相談ください。お客様で分解等をなされた場合、保証期間内であっても保証ができない場合があります。
- 下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので、必ずお守りください。この説明書の中の「危険」「警告」「注意」については次の危険状況を意味します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業するために」を記載してあります。使用前に必ずお読みください。

目次

安全に作業をするために	4	運転のしかた	39
1) 一般的な注意事項.....	4	エンジンの始動前.....	39
2) ロータリーモアを運転する前に.....	5	エンジンの始動.....	39
3) ロータリーモアの運転.....	8	エンジンの停止.....	40
4) 傾斜地での運転.....	11	走行.....	41
5) 点検や整備をするとき.....	12	停止.....	42
6) トラックへの積み降ろし.....	18	ロータリーモアの保守・点検・調整	43
7) 移動や圃場へ出し入れするとき.....	20	エンジンオイル量.....	43
8) 長期保管するとき.....	23	トランスミッションオイル量.....	44
9) 安全銘板の貼り付け位置.....	25	オイルチェック.....	44
サービスと保証について	30	冷却水量.....	45
仕様	31	燃料残量.....	46
乗用2連ロータリーモア		エアクリーナ.....	46
各部のなまえ	33	燃料フィルタ.....	47
制御装置、メータ	34	燃料ホースの点検.....	47
制御盤.....	34	ファンベルト.....	47
スタータスイッチ.....	35	ミッドPTOの保守.....	48
スロットルレバー.....	35	ブレーキの調整.....	48
モニタランプ.....	35	HSTの中立位置.....	48
PTOレバー.....	35	速度の調整.....	48
アワメータ.....	36	ホイール締付ボルトの点検.....	49
ヘッドライトスイッチ.....	36	バッテリー.....	49
フェンダー（ウイング）パネル.....	36	タイヤ空気圧.....	50
モア昇降レバー.....	36	ハンドルの点検.....	51
燃料計.....	36	エンジンオイルの交換.....	51
制御ペダル.....	36	エンジンオイルフィルタの交換.....	52
ブレーキペダル.....	36	トランスミッションオイルの交換.....	52
HST前進ペダル.....	37	トランスミッションオイルの交換.....	52
HST後進ペダル.....	37	エア抜き.....	52
その他の制御装置.....	37	吸気口の点検、清掃.....	54
セーフティスイッチ.....	37	ラジエータの清掃.....	54
高さ調整ダイヤル.....	37	冷却水の交換.....	54
作業前点検	38	ヒューズ、配線の点検.....	55
点検項目.....	38	油圧系統の部品の保守.....	56
点検、保守方法.....	38	セーフティスイッチの点検.....	56
		給油・給水一覧表.....	57
		定期点検一覧表.....	57

目次

機械の洗浄.....	59	コレクタ	
主要消耗品一覧表.....	60	コレクタの主要コンポーネントの名称.....	85
ロータリーモアの保管.....	61	アシストシリンダ付き	
ロータリーモアの不調診断について.....	63	ローダンプコレクタ.....	85
エンジン.....	63	コレクタの取付け、取外し.....	86
ブレーキシステム.....	65	ローダンプコレクタの取外し.....	86
昇降システム.....	65	ローダンプコレクタの取付け.....	86
ステアリング装置.....	66	コレクタの操作.....	87
HST（油圧トランスミッション）.....	66	操作前.....	87
電装品.....	66	グラスリミットセンサの調整.....	87
モアデッキ		作業前点検.....	87
モアの主要コンポーネントの名称.....	68	コレクタの操作.....	87
モアデッキの取付け、取外し.....	69	コレクタの主要部品の点検、保守.....	89
モアデッキの取付け.....	70	給油・給脂一覧.....	89
モアデッキの取り外し.....	70	定期点検一覧表.....	89
モアの操作.....	71	コレクタの保管.....	90
操作前.....	71	コレクタの不調診断について.....	91
刈高さ調整.....	71	電気配線.....	92
草刈り作業の開始.....	72		
モアデッキ、草が詰まったシュートの清掃.....	73		
緊急停止.....	74		
草刈り作業の中止.....	74		
効率的な草刈り.....	74		
モアの主要部品の点検、保守.....	76		
ベベルギヤケースの点検、交換.....	76		
刃の点検、交換.....	77		
ゲージホイールの点検.....	78		
ローラーの点検.....	78		
モアデッキの清掃.....	79		
給油・給脂一覧.....	80		
定期点検一覧表.....	81		
モアの保管.....	82		
モアの不調診断について.....	83		

安全に作業をするために

ここに記載されている注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守って下さい。記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。ロータリーモアの所有者や作業者は、事故やけがを防ぐ責任を負います。

1) 一般的な注意事項



警告

以下に当てはまる人にはロータリーモアを
運転させないでください

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない人
- 本書および注意銘板に記載された指示を理解できない人
- ロータリーモアの運転方法について、適切な研修を受けていない人
- 酒をのんだとき
- 妊娠中の女性
- 18才未満の人

【守らないと】

思わぬ事故の原因となります。



警告

作業に適した服装をする

ロータリーモアの運転、調整、点検整備時は、ヘルメット、安全靴、安全眼鏡、長ズボン、手袋、防音保護具など、適切な保護服、装備を着用してください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



警告

ロータリーモアの点検

ロータリーモアを定期的に点検してください。

【守らないと】

ロータリーモアの寿命が短くなるだけでなく、安全で効率的な運転ができなくなるおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

芝草刈り以外での使用禁止

本書に記載されていない場合でも、通常の使用以外でロータリーモアを絶対に使用しないでください。特にトレーラなどを牽引しないでください。ロータリーモアは牽引作業用に設計されていません。

【守らないと】

思わぬ事故の原因となります。

2) ロータリーモアを運転する前に



警告

運転者以外に人を乗せない

この機械の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



警告

エンジン始動時は必ず運転席に座り、周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席に座り、シートの位置と周囲の安全を確認してください。それから HST ペダルを中立位置にして、駐車ブレーキを掛け、PTO が OFF であることを確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



警告

エンジン始動時はスタータスイッチを使用する

エンジンは、必ずスタータスイッチを使用して始動してください。端子を短絡させてエンジンを始動しないでください。

【守らないと】

ロータリーモアが不意に動き、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

安全に作業をするために

警告 機械の改造禁止

純正以外や指定以外のアタッチメントを取り付けしないでください。改造をしないでください。
純正以外のモアデッキ、コレクタが取り付けられている場合は販売店に問い合わせてください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

警告 運転前点検の実施を行う

ロータリーモアを始動する前に、指示に従ってブレーキの運転前点検を行い、刃や刃のナットに摩耗、破損、緩みがないことを目視で確認してください。刃やナットが摩耗、破損している場合は、刃のバランスを保つため、アセンブリごと交換してください。ブレーキのききが悪くなったり、破損した刃が飛散して、非常に危険です。

【守らないと】

事故、機械の故障をまねくおそれがあります。

注意 無理のない作業計画を立ててください

十分な時間的余裕がある運転計画を立ててください。特に猛暑、極寒、超高湿度環境でロータリーモアを運転する場合は、運転の安全性を確保した運転スケジュールや方法を設定してください。また作業は日中または十分に明るい照明下でのみ行ってください。

【守らないと】

思わぬ事故を招くおそれがあります。

注意 圃場の状態の確認を行う

圃場を入念に調べ、石、玩具、棒きれ、針金など、重大な事故を招くおそれのある物をすべて取り除いてください。また、人やペットが圃場に入らないようにしてください。子供が圃場に近づかないように、大人が責任を持って見守ってください。

【守らないと】

機械の故障をまねくだけでなく飛散物で事故・ケガをするおそれがあります。

安全に作業をするために



注意

ガード類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。また、セーフティスイッチ、ガードが適切に取り付けられ、機能している場合以外は、絶対にロータリーモアを運転しないでください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意

点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず、点検・整備をしてください。特にハンドル・ブレーキ・レバーなどの操縦装置、車輪などの走行装置および電気部品、コードは確実に作動するように点検・整備してください。また、刃など摩耗している部品がないか点検し、摩耗した部品があれば交換してください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



注意

定期点検整備を受ける

年毎に定期点検を受け、各部の保守をしてください。特にパワーステアリングのホースは、年毎に交換し、電気配線は年毎点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



注意

標準品のモアデッキ、コレクタを使用

ロータリーモアの運転は、標準のモアデッキ、コレクタを取り付けた状態で行ってください。コレクタを取り付けずに草刈りをしないでください。ロータリーモアによって芝、石などが飛散し、非常に危険です。刈り取った草をコレクタに集めない場合は、オプションのモア用マルチングキットを取り付けてください。

【守らないと】

石などが飛散し、事故をまねくおそれがあります。

安全に作業をするために

3) ロータリーモアの運転

警告 運転中は周囲に気を付ける

ロータリーモアの作業中に第三者は、排出口、刈刃、すべての可動部に近づかないでください。特に子供や動物をロータリーモアの周囲に近づけないでください。排出口を人に向けしないでください。

また、周囲に作業者がいる場合は、新しい動作に入る前に必ず他の人に警告してください。

【守らないと】

飛散物により重大な事故をおこすおそれがあります。

警告 わき見運転をしない

ロータリーモアを運転するときは、運転席にきちんと座り、ハンドルを両手で持ち、ロータリーモアの進行方向を見てください。わき見運転をしたり、ハンドルを片手で操作したりしないでください。また、後進する前に、下や後ろを見て、進行方向に障害物がないことを確認してください。

【守らないと】

障害物や人などに接触し重大な事故をおこすおそれがあります。

警告 段差、溝等または見通しの悪い場所での注意

溝、穴、崩れやすい段差がある場所では絶対にロータリーモアを運転しないでください。走行が必要な時は刈刃を停止し、モアデッキを持ち上げてゆっくり走行してください。また、見通しの悪い角や障害物に近づくときは注意してください。穴、わだち、段差に注意してください。高く伸びた草に障害物が隠れているおそれがあります。

【守らないと】

転倒するおそれがあります。

警告 旋回時は減速する

旋回前にロータリーモアを十分減速してください。

【守らないと】

転倒するおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

障害物にぶつかった時は作業をやめ点検する

障害物にぶつかったり、ロータリーモアが異常に振動する場合は、すぐにロータリーモアを停止し、すべての可動部品が停止してから、エンジンを停止させ、機械を点検してください。すべての修理を終えてから、運転を再開してください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



警告

濡れた草地で作業しない

濡れた草地で草を刈らないでください。

【守らないと】

ロータリーモアが滑り事故を起こす可能性があります。



警告

後進での作業はしない

やむを得ない場合以外は、後退中に草刈りを行わないでください。

PTO の動作中は、最高後進速度は 1 km/h 未満に制限されます。切断幅が 1500mm 未満のロータリーモアでは、後退運転は制限されています。

【守らないと】

事故を起こす可能性があります。



警告

道路付近での移動では車、歩行者に注意する

道路付近を移動するときや、道路を横断するときは、車や歩行者に注意してください。

【守らないと】

衝突により事故を引き起こすおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

ロータリーモアから離れる際は安全が確保できる状態で離れる

何らかの理由によりロータリーモアから離れるときは、必ず以下を行ってください。

- ロータリーモアを平らな場所で停止します。
- PTO を OFF し刈刃を停止させ、モアデッキを下げます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- エンジンを止め、すべての可動部が停止するまで待ちます。

【守らないと】

機械が勝手に動き出し事故を引き起こすおそれがあります。



警告

保護具は必ず着用する

保護メガネ・ヘルメット・滑り止めのついた靴を必ず着用してください。

【守らないと】

傷害事故を負うおそれがあります。



警告

作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったとき、傷害事故を負うおそれがあります。



注意

カバー類は必ず取り付ける

カバーは必ず取り付けてください。特に排出口カバーは取り付け、開けた状態で草刈りを行わないでください。

【守らないと】

機械に巻き込まれや飛散物などで事故を引き起こすおそれがあります。

安全に作業をするために

4) 傾斜地での運転

傾斜地は、ロータリーモアの事故にかかわる主要因で、重大な事故を引き起こします。



警告

極力傾斜地での使用は避ける

傾斜地ではモアデッキを作動させた状態でロータリーモアを運転することはお勧めできません。傾斜地では細心の注意が求められます。傾斜地には常に危険が伴います。ロータリーモアを傾斜地で使用する必要がある場合でも、 12° を超える傾斜地では絶対に使用しないでください。たとえ 12° 未満の傾斜地で使用する場合でも、以下の指示を厳守してください。

12° の傾斜地で使用する場合でも、ロータリーモアには標準のモアデッキとグラスキャッチャー以外は取り付けしないでください。

【守らないと】

転倒するおそれがあります。



警告

急斜面、溝、盛り土の近くでは草刈りを行わない

急斜面、溝、盛り土の近くでは草刈りを行わないでください。

車輪が急斜面に乗り上げたり、縁が崩落した場合、ロータリーモアが転倒するおそれがあります。不整地では、ロータリーモアが横転するおそれがあります。

【守らないと】

転倒するおそれがあります。



警告

濡れた草地での草刈り作業は行わない

絶対に濡れた草の上で草刈り作業を行わないでください。

【守らないと】

スリップや転倒するおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

傾斜地で旋回、急発進、急停止をしない

傾斜地で旋回しないでください。もし旋回する場合は、可能な限り下り坂でゆっくり行ってください。急発進、急停止は避けてください。

【守らないと】

転倒するおそれがあります。



警告

操作に不安があるときは傾斜地作業をしない

傾斜地でのロータリーモアの操作に不安があるときは、草刈りを行わないでください。

【守らないと】

転倒等事故をおこすおそれがあります。



警告

等高線刈りは行わない

傾斜地では上り下りにて草刈り作業を行ってください。等高線刈りを行わないでください。

また、ゆっくりと移動してください。速度や方向を急に变更しないでください。

【守らないと】

転倒等事故をおこすおそれがあります。

5) 点検や整備をするとき



危険

機械の改造禁止

ロータリーモアを不正に改造しないでください。非常に危険です。破損、摩耗した部品は、正規のスペアパーツと交換してください。また、エンジン制御設定を変更したり、エンジンを過回転させないでください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。また、保証が無効になるおそれがあります。

安全に作業をするために

危険 マフラー・エンジン・燃料系周りのゴミは取り除く

マフラー・エンジン・バッテリー・燃料タンク周辺に、草・ゴミ・燃料などが付着していないか確認してください。ゴミ等付着している場合は必ず取り除いてください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

危険 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

燃料に引火して、火災をおこすおそれがあります。

危険 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火して、火災をおこすおそれがあります。

危険 バッテリー点検時は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。バッテリーの充電中は、水素、酸素といった爆発性ガスが発生します。バッテリーを火花や火気に近づけないでください。

【守らないと】

バッテリーに引火、爆発してヤケドなどを引き起こすおそれがあります。

安全に作業をするために

危険 バッテリ交換時はエンジン停止する

バッテリーを交換、点検するときは、エンジンを停止し、メインスイッチを切ってください。

バッテリーケーブルを外すときは、必ずアース線（-）を最初に外してください。バッテリーケーブルを接続するときは、正極ケーブル（+）を最初に接続してください。誤った順番での脱着は、ショートや火花を引き起こすおそれがあります。

【守らないと】

ショートや火花を引き起こし火災の原因となるおそれがあります。

危険 燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

危険 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

危険 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災をおこすおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



警告

電気部品点検整備時はエンジン停止し、バッテリーアース線を外す

電気部品、配線の点検整備を行うときは、確実にエンジンを停止してください。また、必ずバッテリーのアース線（-）を外してください。

【守らないと】

感電したり、火花により傷害を負うおそれがあります。



警告

バッテリー液は体につけないようにする

エンジンを始動する前にバッテリーを点検してください。電解液が皮膚や衣服に触れないように注意し、万一付着したときはすぐに水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

【守らないと】

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。



警告

室内作業では換気を十分にする

閉め切った室内では絶対にエンジンを始動しないでください。排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれているため、室内でエンジンを始動する場合は十分換気をしてください。

【守らないと】

一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

**タイヤには、規定の最大空気圧以上に空気を
いれない**

タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気をいれないでください。

【守らないと】

タイヤが破損して、傷害事故をおこすおそれがあります。



警告

排気ガスには十分に注意する

閉め切った室内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、通風しのよい
室外で始動してください。やむを得ず室内で始動する場合は、十分に換気をしてくださ
い。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



警告

ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行う

ブレーキの効きが悪かったり片効きがないように、またハンドルに著しいガタや遊びが
ないように、点検してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



警告

点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ず PTO レバーを OFF 位置にし、刈刃
が完全に停止していることを確認し、エンジンを停止してください。また第三者が誤っ
てエンジンを始動しないようにキーを抜き（キーがある場合）、駐車ブレーキを掛けて
ください。

【守らないと】

機械の下敷きになる、回転物に巻き込まれるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意

高圧オイルに注意

油圧装置を備えたロータリーモアでは、圧力によって漏れ出たオイルが皮膚に浸透し重傷を負うおそれがあり、その場合は救急措置が必要です。オイル漏れの確認は、手ではなく、ボール紙片を使用して行ってください。油圧系統、燃料噴射装置の障害については、必ず販売店にご相談ください。継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をひき起こすおそれがあります。



注意

バッテリーの取り付け取り外しは正しい手順で行う

バッテリーを取り付けるときは+側を先に取り付け、取り外すときは-側から取り外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故をおこすおそれがあります。



注意

点検整備は高温部分が十分冷めてから行う

マフラーやエンジン、ラジエータなどの高温部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

安全に作業をするために



注意

ラジエータキャップは十分冷めてから取り外す

エンジンが高温、または作動しているときは、絶対にラジエータキャップを取り外さないでください。エンジンが冷却するまで待ってから、ラジエータキャップを外して、ラジエータの圧力を開放してください。

【守らないと】

高温の蒸気が吹き出し、重傷を負うおそれがあります。



注意

目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を使用してください。また点検調整に必要な工具は機械に常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。



注意

刃の点検整備は皮手袋等を使用する

刃は鋭利なため、けがをするおそれがあります。点検整備を行うときは、刃を包むか、革手袋を着用してください。2 つ以上の刃が取り付けられているロータリーモアでは、一方の刃を回転させると、もう一方の刃も回転する場合があります。

【守らないと】

鋭利な刃でケガするおそれがあります。

6) トラックへの積み降ろし



警告

トラックの安全確保を行う

ロータリーモアをトラックに積み込むときは、トラックのエンジンを切り、トラックの駐車ブレーキを掛け、トラックが不意に移動しないように車輪止めをしてください。

【守らないと】

トラックが不意に移動し、転落などの事故をまねくおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

トラックへの積み降ろし時の安全確保を行う

積み降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所でロータリーモアの周囲の安全に十分に注意し、誘導してもらいながら運転してください。ロータリーモア付近、特にロータリーモアの前後に人を近づけないでください。トラックに積み込むときは、モアデッキは一番上まで持ち上げ、十分な低速でまっすぐに後退させてください。トラックから降ろすときは、前進させてください。

あゆみ板でエンストした場合は、すぐにブレーキペダルを踏み、ブレーキをゆっくりと離しながらロータリーモアを地面まで動かしてください。それからエンジンを始動し、やり直してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



警告

強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

以下の仕様を満たすあゆみ板を使用してください。以下の仕様に含まれていないアタッチメントをロータリーモアに取り付ける場合は、販売店にご相談ください。

積み降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。

あゆみ板の仕様

- 長さ.....トラックの荷台の高さの4倍以上
- 幅（有効幅）.....30cm以上
- 必要数量.....2台
- 可搬重量（あゆみ板1台あたり）.....750kg以上
- あゆみ板の表面には滑り止めが必要です。
- 上記の仕様は、以下の構成を持つロータリーモアで有効です。
 - ロータリーモアに標準のモアデッキ、コレクタ以外のアタッチメントやキャビンが取り付けられていない。
 - ロータリーモアに標準のモアデッキ、コレクタが取り付けられている。

【守らないと】

転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

安全に作業をするために



ロープでトラックに確実に固定する

トラックに乗せて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、強度の十分あるロープでトラックに機械を固定してください。

【守らないと】

荷台から機械が転落したりして、事故を引き起こすおそれがあります。

7) 移動や圃場へ出し入れするとき



一般道路走行禁止

特殊自動車の型式認定を取得していませんので一般道路は走行できません。

【守らないと】

道路交通違反により罰せられることがあります。



周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

傷害事故をおこすおそれがあります。



移動時は路肩に注意

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

【守らないと】

転落事故をおこすおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときはスピードを落としてください。また凹凸道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。



警告

暖機運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

機械が自然に動きだし、事故を引きおこすおそれがあります。



警告

高速走行時、急激なブレーキ、ペダル操作はしない

【守らないと】

転倒・転落事故をおこすおそれがあります。



警告

作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったとき、傷害事故を負うおそれがあります。



警告

急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止は、ゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分スピードを落としてください。

また傾斜地や凹凸のあるところでは、速度を落としてゆっくりと移動してください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

作業前に、圃場内にある石などの障害物を取り除く

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。



警告

巻き付き、詰まり点検は必ずエンジン停止

刈刃（ブレード）に巻き付いた草を取ったり、作業機の詰まりを見るときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

巻き込まれ事故をおこすおそれがあります。



警告

子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故引きおこすおそれがあります。



警告

異常な振動が出たら、直ちに点検・修理を行う

異常な振動が出たら直ちにエンジンを停止し、原因を調べて修理してください。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

安全に作業をするために



警告

ロータリーモアの排出口には、人を近づけないこと

草やホコリが飛び出します。石などが飛び出すことがあります。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

機械から離れるときは平坦地に置き、エンジンを止める

機械から離れるときは平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。また作業機は地面に接地してください。

【守らないと】

機械が動き出し、事故をおこすおそれがあります。

8) 長期保管するとき



危険

燃料タンクは極力空にする

燃料をタンクに入れたまま、ガスが火気や火花に届くおそれがある建物内にロータリーモアを保管しないでください。また燃料漏れを防ぐため燃料コックは閉じてください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。



危険

シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラーやエンジンが十分に冷めてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

安全に作業をするために

危険 マフラー・エンジン・燃料系周りのゴミは取り除く

マフラー・エンジン・バッテリー・燃料タンク周辺に、草・ゴミ・燃料などが付着していないか確認してください。ゴミ等付着している場合は必ず取り除いてください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

危険 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを確認してください。

【守らないと】

ショートして、火災をおこすおそれがあります。

危険 長期格納時はバッテリーとキーを外す

ネズミにかまれて短絡が発生するのを防ぐため、長時間使用しないで格納する場合は、バッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。
バッテリーを外すときは負極（-）ケーブルを最初に外し、バッテリーを接続するときは正極（+）ケーブルを最初に接続してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

警告 保管中は作業機を下げる

モアデッキを取り付けた状態でロータリーモアを保管する場合は、必ずモアデッキを地面まで下げてください。

【守らないと】

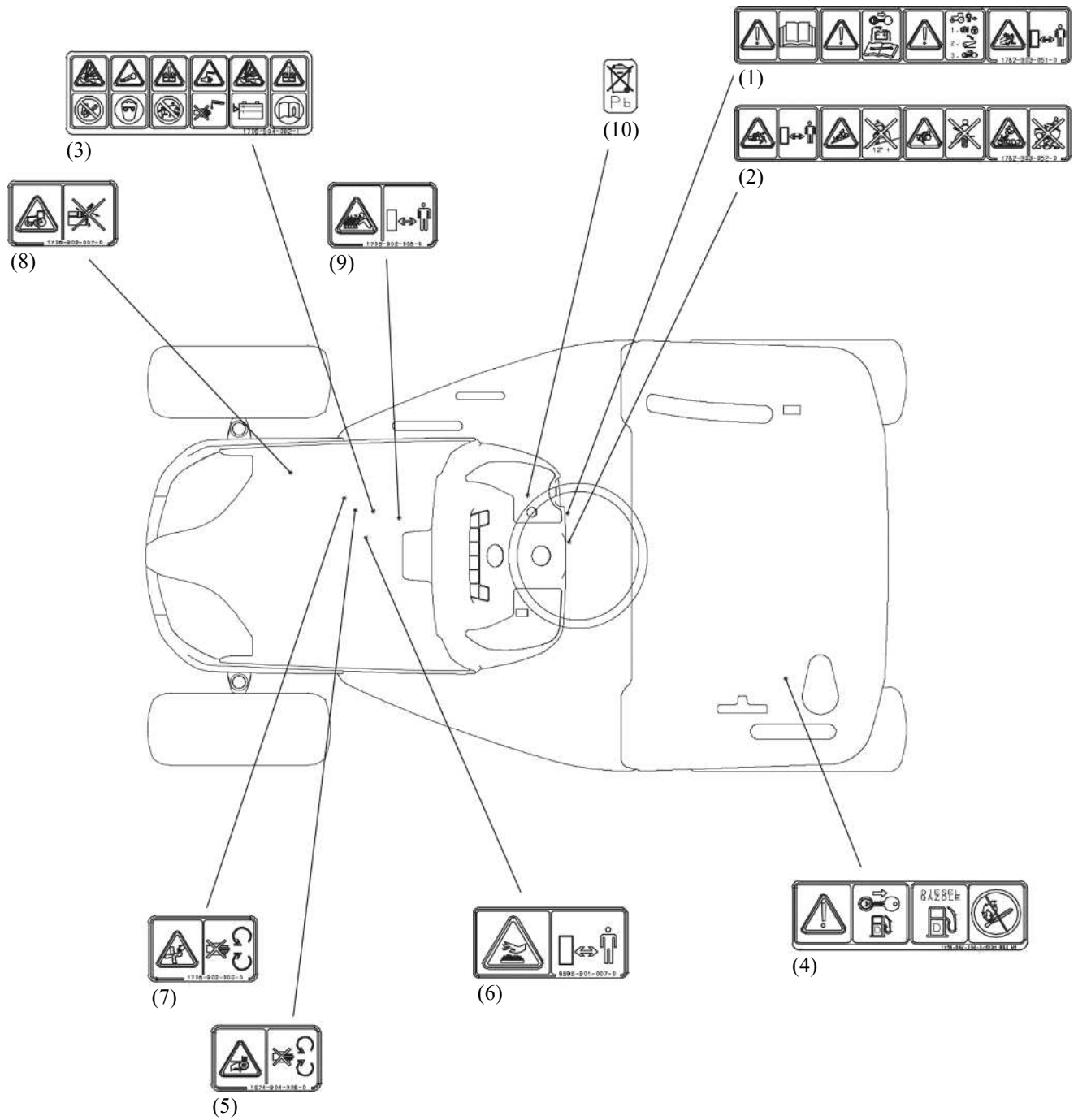
研修を受けていない人や子供がエンジンを作動し、思わぬ事故が引き起こされるおそれがあります。

安全に作業をするために

9) 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損しないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼りなおしてください。

本機



安全に作業をするために

(1) 注意銘板 A



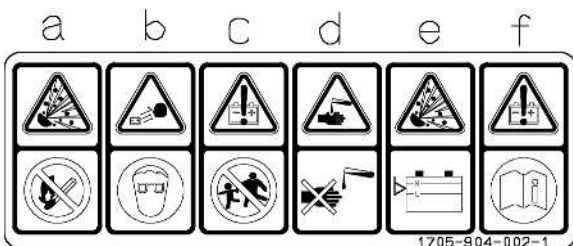
- 取扱説明書をよく読んでください。
- エンジンを切り、スタータキーを抜いてから、機械の点検整備、修理を行ってください。
- 機械から離れるときは、駐車ブレーキを掛け、エンジンを切り、エンジンキーを抜いてください。
- 傷害を負うおそれ
機械を始動する前に、刃にぶつかって飛散するおそれがある物を機械の周辺から取り除き、機械から人を遠ざけてください。

(2) 注意銘板 B



- 人をひくおそれ
機械を後進させる前に後ろを確認し、機械を始動する前に機械から人を遠ざけてください。
- 転倒、衝突のおそれ
12° を超える傾斜地で機械を運転することは避けてください。
- 人をひくおそれ
ホイールフェンダなど、機械の運転席以外の場所に人を乗せないでください。
- 転倒、衝突のおそれ
横滑りや転倒のおそれのある場所では機械を運転しないでください。

(3) バッテリーの銘板



- 火花や火気を避けてください。
- 保護眼鏡を着用してください。
- バッテリーは子供の手の届かないところに保管してください。
- 硫酸に注意してください。
- 破裂に注意してください。
- 取扱説明書をよく読んでください。バッテリーは慎重に取り扱ってください。

- バッテリーを不適切に取り扱った場合、破裂を招くおそれがあります。電極を短絡しないでください。火花や火気を近づけないでください。充電、使用時は、十分換気してください。ブースタケーブルを使用するときは注意してください。
- 電解液（硫酸）によって失明したり、ヤケドを負うおそれがあります。電解液が目、皮膚、衣服に触れないようにしてください。万一付着したときはすぐに大量の水で洗い流してください。硫酸が目に入ったときは、大量の水ですすぎ、医師の診断を受けてください。
- 電解液が最低液面（「LOWER」）を下回っているバッテリーは絶対に使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電解液を規定液面（「UPPER」）よりも上まで補充しないでください。電解液があふれるおそれがあります。

(4) 燃料の銘板



- エンジンを切り、スタータキーを抜いてから、燃料を補充してください。
 - 軽油以外は使用しないでください。火気厳禁です。
- (5) ベルトの注意銘板
動作中はベルトから離れてください。



(6) 高温部の注意銘板

加熱部には近づかないでください。



安全に作業をするために

- (7) ファンの注意銘板
動作中はファンから離れてください。



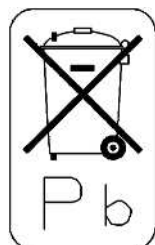
- (8) スタータの注意銘板
必ず運転席に座り、キーを使用してエンジンを始動してください。



- (9) ラジエータの注意銘板
ラジエータは高温で加圧されています。ラジエータが高温のときは、キャップを開けないでください。



- (10) バッテリ廃棄の銘板



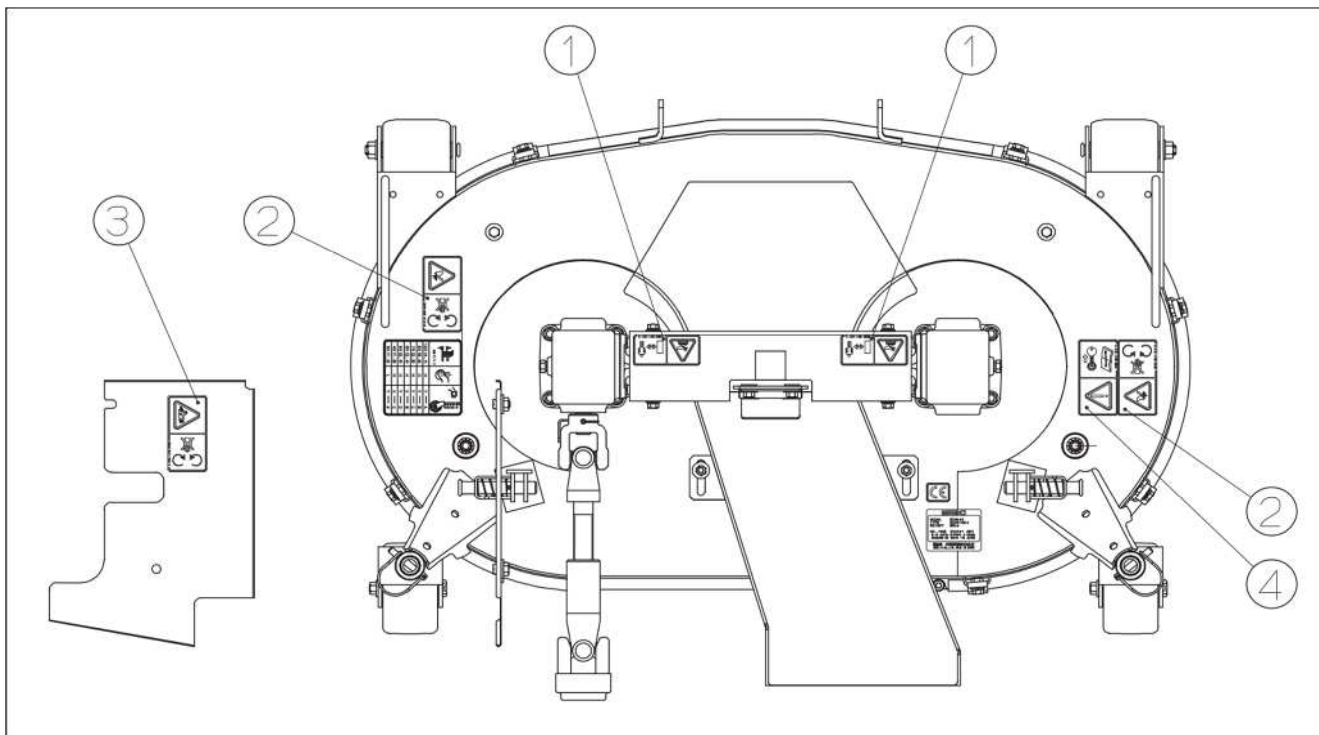
- 注意：** バッテリの廃棄
バッテリーをごみ箱に入れないでください。自治体の法律に従って、リサイクルしてください。

• 注意銘板の保守

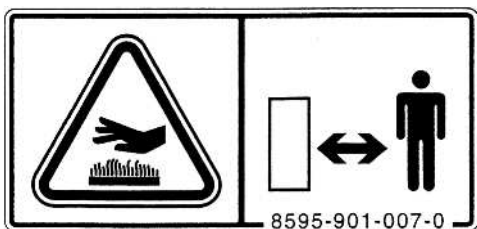
- 銘板は常にはっきりと見えるようにし、覆い隠されることがないようにしてください。
- 汚れたときは、石けん水で洗い、柔らかい布で拭き取ってください。
- 銘板を破損、紛失した場合は、新しい銘板を販売店にご注文ください。
- 新しい銘板は、古い銘板と同じ場所に貼り付けてください。
- 新しい銘板を貼り付けるときは、表面をきれいにして銘板を接着させ、気泡がなくなるように押し付けてください。
- 注意銘板を貼り付けた部品を交換するときは、新しい注意銘板と一緒に注文してください。

安全に作業をするために

モアデッキ



(1) 高温部の注意銘板



加熱部には近づかないでください。

(3) PTO の銘板



エンジンの作動中は、PTO 軸から離れてください。

(2) 危険銘板



エンジンの作動中は、刈刃から離れてください。

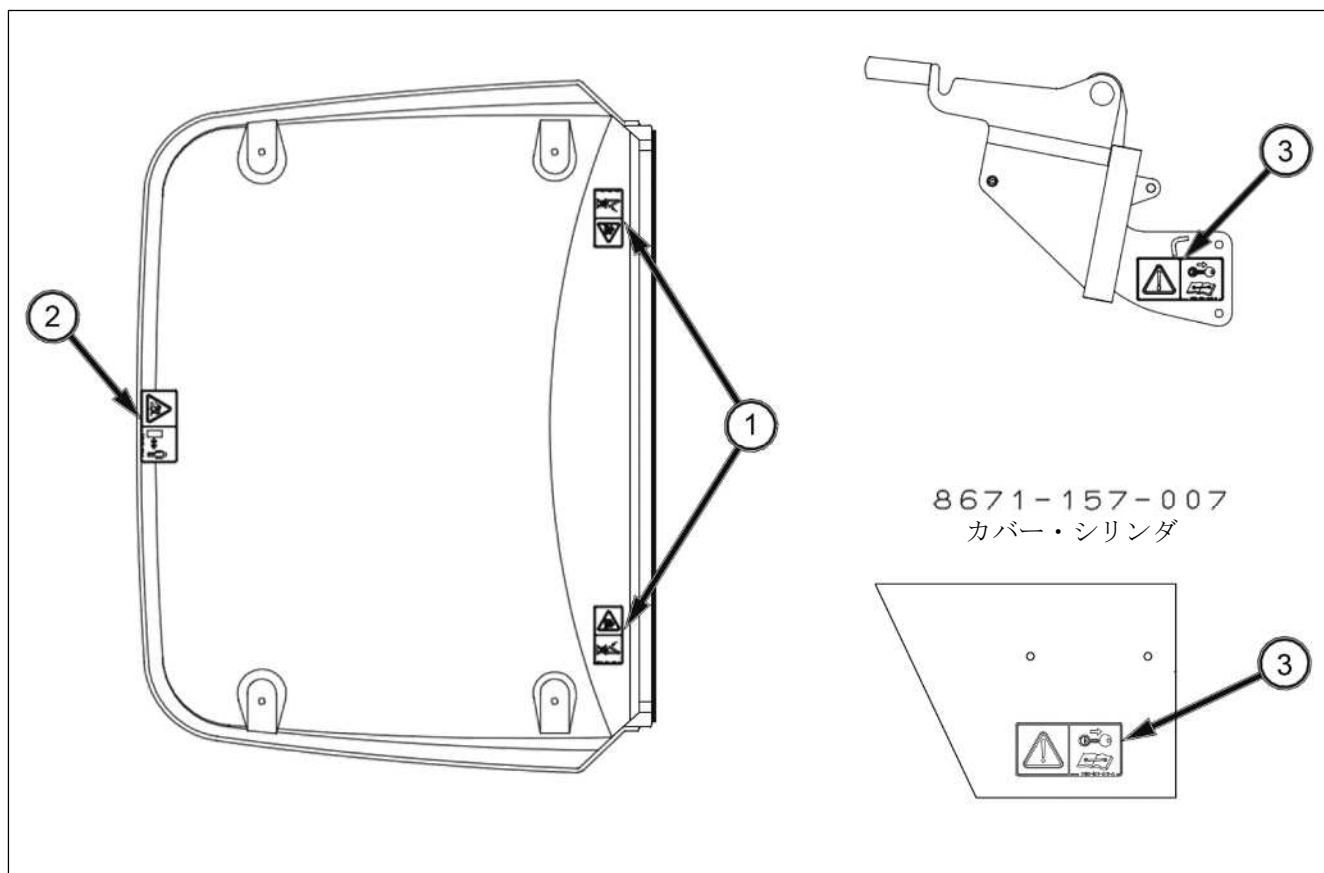
(4) 保守銘板



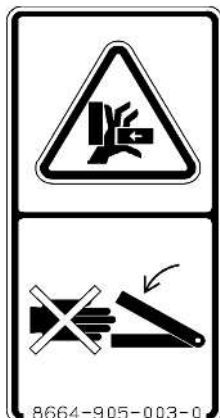
エンジンを切り、スタータキーを抜いてから、保守、修理作業を行ってください。

安全に作業をするために

コレクタ



(1) 連結部の注意銘板



コンテナのダンプ中はコレクタフレームから離れてください。

(2) 排出口の銘板



石などの硬い物体がモアから排出され、ぶつかるおそれがあるため、モアデッキの排出口には近づかないでください。

(3) 保守銘板



エンジンを切り、スタータキーを抜いてから、保守、修理作業を行ってください。

サービスと保証について

保証

この機械およびモアデッキの保証については、販売店にお問い合わせください。

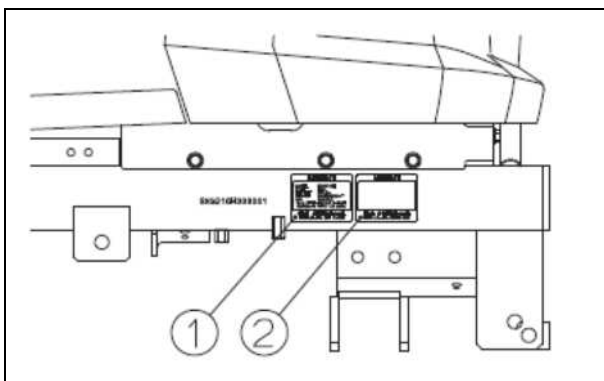
アフターサービス

機械およびモアデッキの故障、質問については、販売店にご相談ください。その際は、機種名、製造番号をご連絡ください。

機械

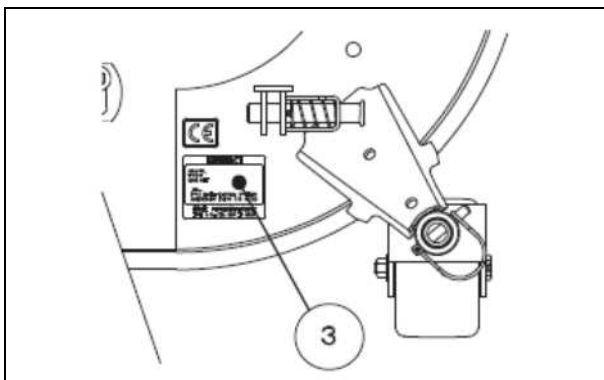
ロータリーモア本体

①②ロータリーモアのモデル名と製造番号



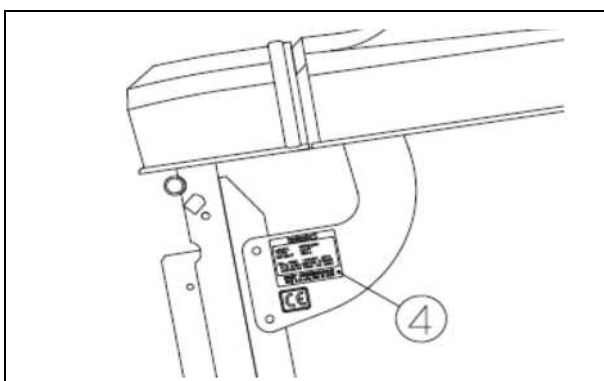
モアデッキ

③モアデッキの名称と製造番号



コレクタ

④コレクタの名称と製造番号



補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限については販売店にご相談ください。

仕様

本機

機種			GT216	備考
寸法	全長	1770mm		
	全幅	990mm		
	全高	1220mm		
重量	燃料タンクが空の場合	330kg		
	燃料タンクが満タンの場合	345kg		
エンジン	機種	E269-G		
	型式	縦型水冷4サイクルディーゼル		
	燃焼室	渦流室式		
	気筒数	2		
	総排気量	688cc		
	出力 (有効)	10.0kw (13.6ps) 2800min ⁻¹ (rpm)		
燃料			軽油	
燃料タンク容量			18.0リットル	
変速装置	主変速	HST (油圧トランスミッション)		
	走行速度	前進	0~11km/時	
後進		0~6km/時		
軸距			1220mm	
輪距	前輪	767mm		
	後輪	790mm		
駆動装置			2WD	
かじ取装置			マニュアルステアリング	
制動装置			湿式ディスクブレーキ	
ブレーキ数			1 (差動装置前)	
タイヤサイズ	前輪	16×6.50-8		
	後輪	20×8.00-10		
PTO	ミッド	2367min ⁻¹ (rpm)		
PTOクラッチ			ベルトテンションクラッチ	
最低地上高	本機	135mm		
	モアリフト	135mm		

モアデッキ

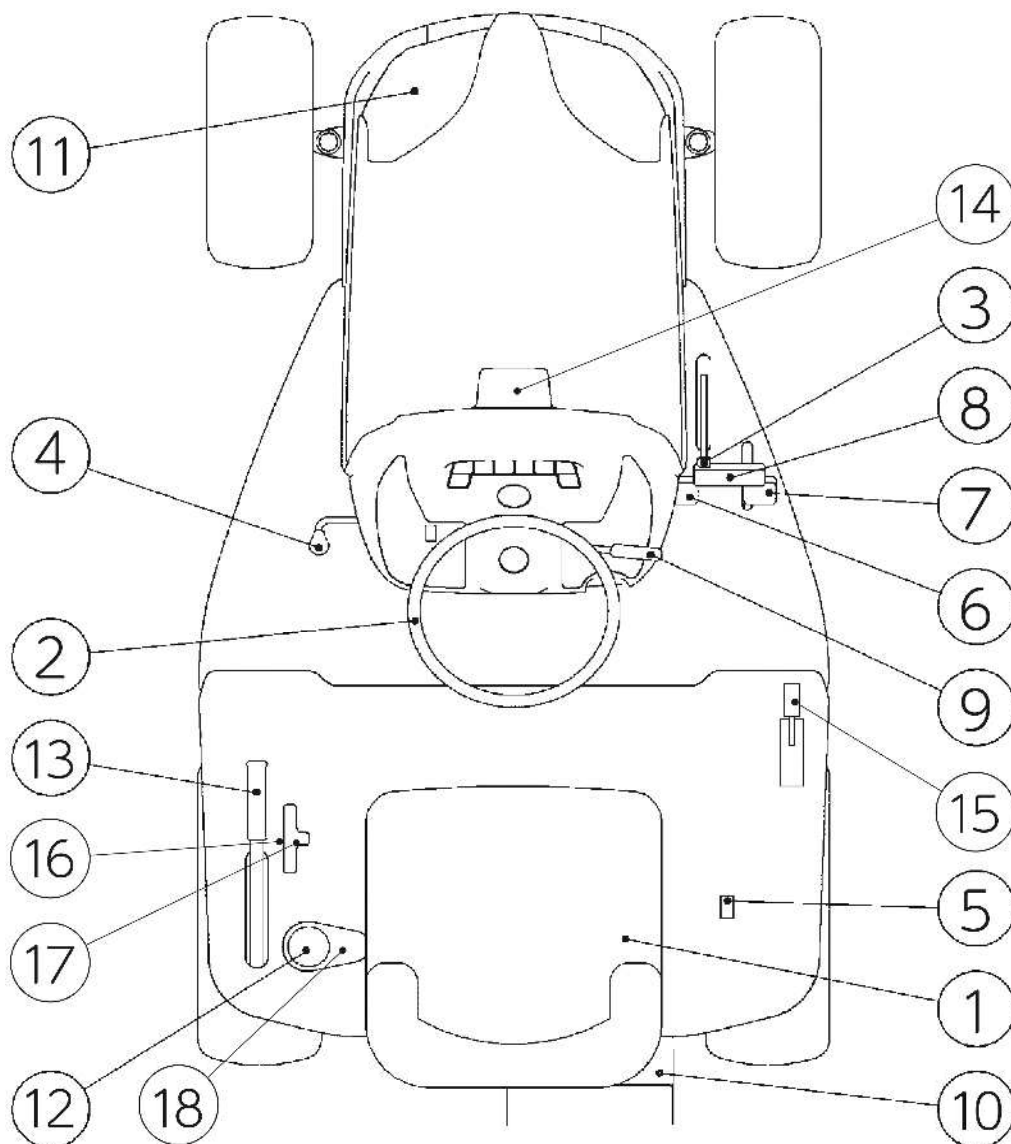
型式			ロータリーモア	
切断幅			1016mm	
駆動方法			ユニバーサルジョイント	
刃数			2	
刃の重合部			60mm	
寸法	全長	770mm		
	全幅	1070mm		
	全高	445mm		
重量	デッキ	55kg		
	連結部	3kg		
刈高さ調整1			ピンの差し替えにより7段階で調整可能	
刈高さ調整2			ダイヤルにより6段階で調整可能	
刈高さ1			ピンの差し替えにより30~120mm	
刈高さ2			ダイヤルにより30~90mm	

仕様

コレクタ

型式		ダンプコレクタ	備考
寸法	全長	1220mm	機械取付状態
	全幅	970mm	機械取付状態
	全高	990mm	機械取付状態
重量		50kg	
コンテナ容量		320リットル	
ダンプ高さ		580mm	
ダンプ方法		油圧シリンダ	
気筒数		1	
ピストン・シリンダ 直径×ストローク		20×40×150mm	
フルセンサシステム		リミットスイッチ	
セーフティスイッチ数		1	

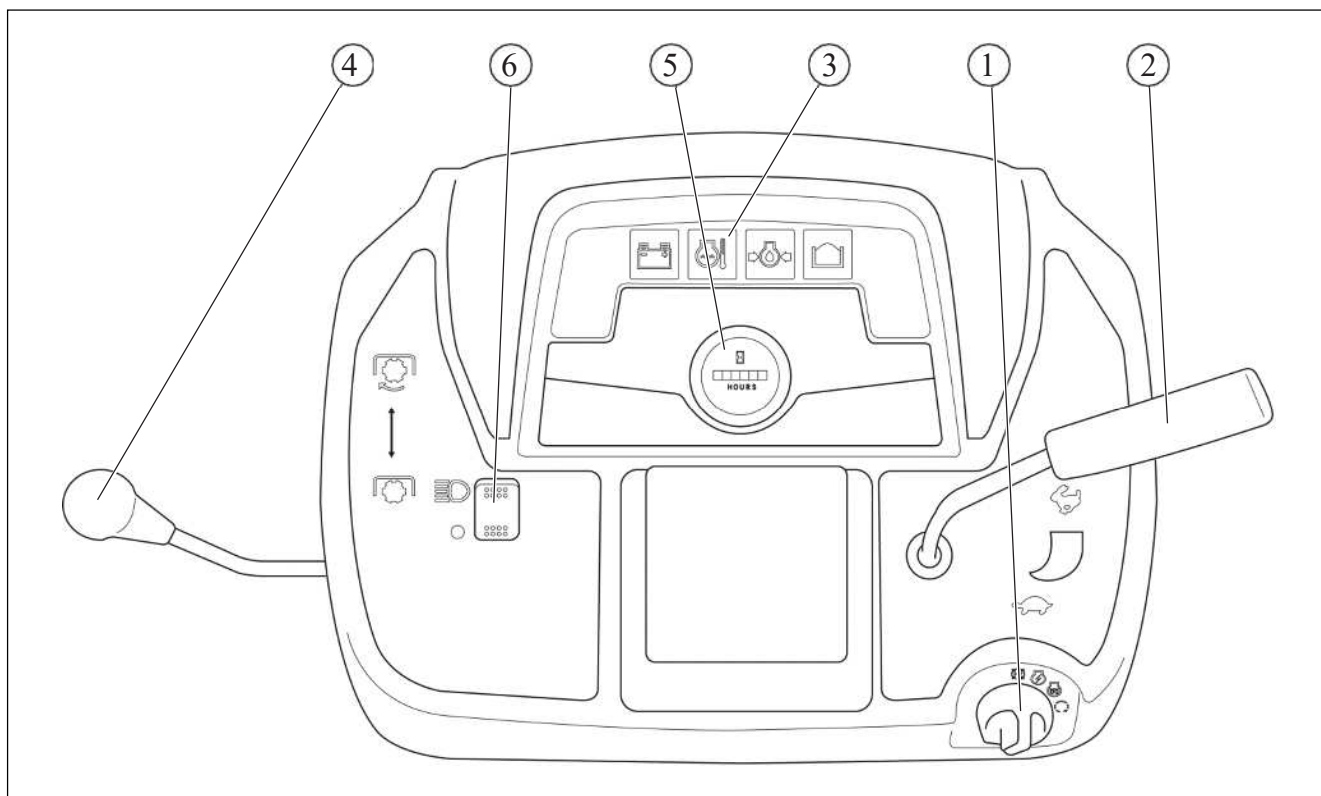
各部のなまえ



- | | |
|-----------------|------------------|
| (1) シート | (10) シューター |
| (2) ハンドル | (11) ヘッドライト |
| (3) パーキングロックペダル | (12) 燃料タンクキャップ |
| (4) PTO レバー | (13) クリーニングレバー |
| (5) コレクタダンプスイッチ | (14) ボンネットロックレバー |
| (6) HST 前進ペダル | (15) モア昇降レバー |
| (7) HST 後進ペダル | (16) 高さ調整ダイヤル |
| (8) ブレーキペダル | (17) 高さ調整インジケータ |
| (9) スロットルレバー | (18) 燃料計 |

制御装置、メータ





制御盤

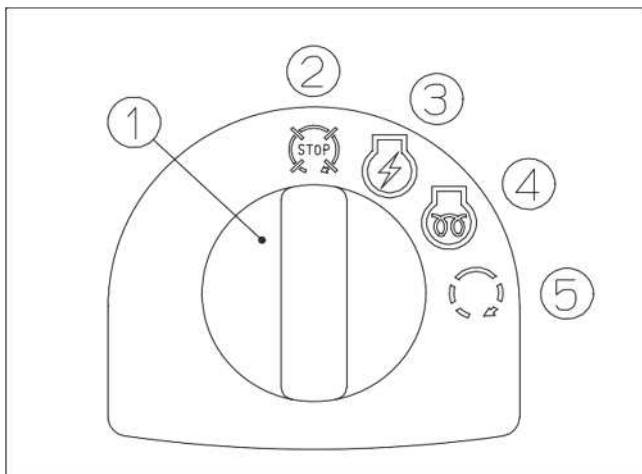


- | | |
|--------------|----------------|
| (1) スタータスイッチ | (4) PTO レバー |
| (2) スロットルレバー | (5) アワメータ |
| (3) モニタランプ | (6) ヘッドライトスイッチ |

制御装置、メータ

スタータスイッチ



-  : OFF 位置 : エンジンが停止し、すべての電気回路がオフになります。
-  : ON 位置 : エンジンを始動すると、キーがこの位置になり、運転中はその位置にとどまります。
-  : グロー位置 : この位置でエンジンが余熱されます。
-  : START 位置 : スタータモータがオンに切り替わります。



- (1) スタータスイッチ
- (2) OFF 位置
- (3) ON 位置
- (4) グロー位置
- (5) START 位置


スロットルレバー

このレバーを使用して、エンジン回転数を制御します。


-  : このレバーを「カメ」マークの方向に動かすと、エンジンが減速します。
-  : このレバーを「ウサギ」マークの方向に動かすと、エンジンが加速します。

モニタランプ


• チャージランプ :

-  : バッテリーが充電されていないときに点灯します。また、キーを ON (3) 位置または START (5) 位置まで回したときに、エンジンの停止中は点灯しますが、エンジンが始動するとすぐに消灯します。

• オイルプレッシャランプ :

-  : エンジンオイルが正常に循環せず、圧力が正常でない場合に点灯します。また、キーを ON (3) 位置または START (5) 位置まで回したときに、エンジンの停止中は点灯しますが、エンジンが始動するとすぐに消灯します。

• エンジン冷却水警告灯 :

-  : エンジン冷却水が高温になると点灯します。

重要

エンジン冷却水が高温になると、モニタランプが点灯し、同時に PTO レバーが「ON」(3) 位置にある間、ブザーが鳴ります。PTO レバーを「OFF」(1) 位置にすると、ブザーが停止します。


モニタランプが点灯している場合は、PTO レバーを「OFF」(1) 位置にし、エンジンをアイドリングまで減速し、消灯するまで待ってください。

モニタランプが消灯したら、エンジンを停止し、問題を解決してください (エンジン、ラジエータ周辺の草、ホコリなど)。その後、作業を再開します。

警告



ラジエータを点検するときは、必ずエンジンを十分に冷ましてください。冷却水が高温の間は、ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が噴き出すおそれがあります。

• コレクタランプ :

-  : 機械にコレクタが取り付けられている場合のみ機能し、コレクタがいっぱいになると点灯します。また、PTO レバーが「ON」位置にあるときはブザーが鳴ります。PTO レバーを「OFF」位置にすると、ブザーが停止します。コレクタが空のときは、ランプはオフになります。

PTO レバー

このレバーを使用して、PTO を入れて始動したり、解除して停止することができます。

-  : レバーをこのマークの位置にすると、ミッド PTO 軸が作動します。
-  : レバーをこのマークの位置にすると、ミッド PTO 軸が停止します。

重要

PTO クラッチを入れると、エンジン回転数が安全な回転数まで減速します。

重要

PTO を入れた状態でロータリーモアを後進した場合、後進速度は 1km/h に制限されます。

制御装置、メータ

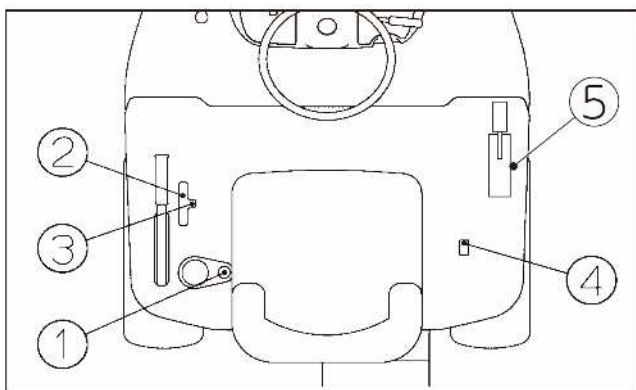
アワメータ

アワメータは、機械の運転時間をカウントし、表示します。
右端の数字は小数点第一位を表します。

ヘッドライトスイッチ

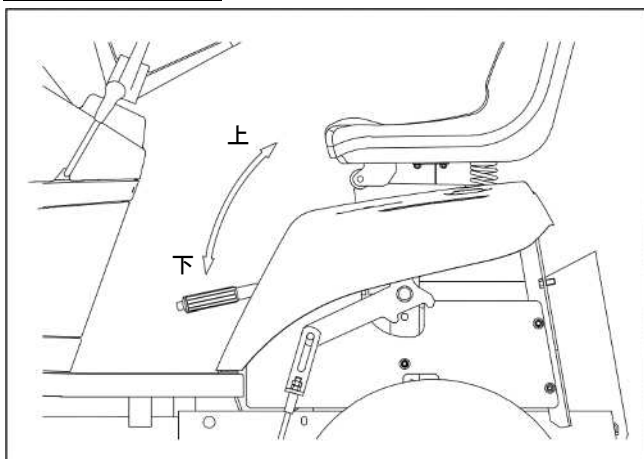
ヘッドライトスイッチがオンの間、フロントグリルのライトが点灯します。

フェンダー（ウィング）パネル



- (1) 燃料計
- (2) 高さ調整ダイヤル
- (3) 高さ調整インジケータ
- (4) コレクタダンプスイッチ
- (5) モア昇降レバー

モア昇降レバー



このレバーを使用して、リフトリンクを昇降します。

↓ この位置にすると、リフトリンクが下がります。

↑ この位置にすると、リフトリンクが上がります。

モア昇降レバーは上下2つの位置で固定されます。操作するときは、レバーのグリップの上にあるボタンを押します。

モア昇降レバーを上側の位置にするとモアデッキを上昇させ、ロータリーモアを前進及び後進することができます。

モア昇降レバーを下側の位置にすると、モアデッキを地面まで下げることができ、モア作業及び機械の点検をすることができます。

注意

機械の点検整備をおこなったり、機械から離れるときは、必ずモアデッキを地面まで下げてください。

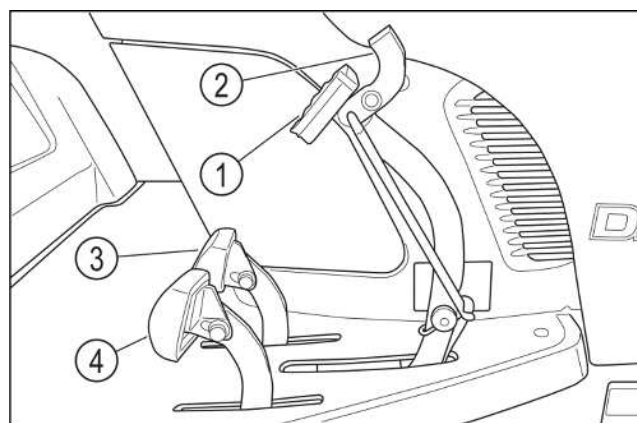
燃料計

燃料の残量を示します。

コレクタダンプスイッチ

ダンプシリンダを伸ばしたり、縮めたりし、コレクタの取り付け及び取り外しするときに、使用します。

制御ペダル



- (1) ブレーキペダル
- (2) パーキングロックペダル
- (3) HST 前進ペダル
- (4) HST 後進ペダル

ブレーキペダル

このペダルを踏むと、ロータリーモアが移動を停止します。

制御装置、メータ

パーキングロックペダル

ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ブレーキロックペダルをブレーキペダルに掛けると、駐車することができます。

ブレーキロックペダルを解除するには、ブレーキペダルを踏み込む、ブレーキペダルを離すと解除できます。

HST 前進ペダル

このペダルを踏むと、ロータリーモアが前進します。前進速度はペダルを踏んで制御し、ペダルを踏む力によって加速、減速します。

HST 後進ペダル

このペダルを踏むと、ロータリーモアが後進します。後進速度はペダルを踏んで制御し、ペダルを踏む力によって加速、減速します。



注意

ロータリーモアの点検整備をおこなったり、機械から離れるときは、必ずモアデッキを地面まで下げてください。

その他の制御装置

セーフティスイッチ

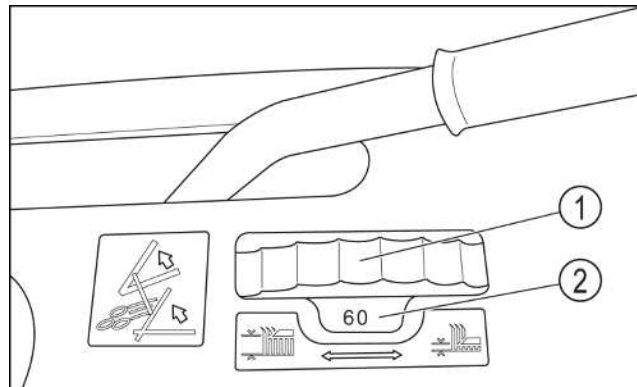
運転席、ブレーキペダル、PTO レバー、ボンネットにはそれぞれセーフティスイッチが取り付けられています。エンジンを始動する前に、ボンネットを確実に閉め、運転席に座り、ブレーキを踏んだまま、PTO レバーを OFF (OFF) 位置にしてください。



注意

セーフティスイッチの故障によりエンジンが始動しない場合、運転者が運転席を離れてもエンジンが停止しない場合は、必ず販売店にご相談ください。

高さ調整ダイヤル



- (1) 高さ調整ダイヤル
- (2) 高さ調整インジケータ

高さ調整ダイヤルにより、モアデッキの最低位置の高さを調整します。ダイヤルを前方 (↑) に回すと、最低位置の高さが低くなります。ダイヤルを後方 (↓) に回すと、最低位置の高さが高くなります。

重要

高さ調整ダイヤルのみを使用する場合、荒地では刈高さが均一ではなくなります。高さ調整ダイヤルとゲージホイールを併用してください。

高さ調整ダイヤルを回す前に、モア昇降レバーを一番上にしてください。

モアデッキを着脱するときは、高さ調整ダイヤルを一番低い位置 (↓) まで回してから行ってください。

クリーニングレバー

モアのシュートに草が詰まっている場合に、使用しません。使用する場合は、エンジンを停止してください。(73 ページ参照)

ボンネットロックレバー

ボンネットロックレバーはボンネットの開閉に使用します。(45 ページ参照)

作業前点検

作業中の事故、故障を防ぐには、ロータリーモアを良好な状態で維持することが重要です。日常作業を開始する前に、必ず以下の作業前チェックを行ってください。



点検前に、必ずロータリーモアを平坦で固い地面に駐車し、エンジンを止め、モアデッキを地面まで下げ、スタータキーを抜き、駐車ブレーキを掛け、PTO レバーを OFF 位置にし、刈刃の回転が完全に停止したことを確認してください。

・機械の重量バランスは、安全な作業の非常に重要な要素です。機械にキャビンなどの装備を取り付けるときは、機械のバランスについて販売店に問い合わせ、必ず指示に従ってください。

点検項目

点検、保守方法

1. 前回の作業でのすべての異常

「保守」の項を参照してください。

2. ロータリーモアの周りを歩きながら：

- ・タイヤ空気圧
- ・外装部品（カバーなどの破損、変形）
- ・オイル漏れ（エンジンオイル、トランスミッションオイル、燃料など）
- ・吸気口の点検、清掃
- ・エンジンオイル量の点検
- ・冷却水量の点検
- ・ファンベルトの点検
- ・燃料残量の点検
- ・燃料フィルタの点検
- ・トランスミッションオイル量の点検
- ・前輪、後輪の締付ボルト、ナットの点検
- ・ラジエータ、ラジエータスクリーンの清掃
- ・電気装置の点検
- ・刈刃の点検
- ・カバーなどの外装部品の破損、変形の点検
- ・モアのギヤケースからのオイルの漏れ
- ・ゲージホイルの点検、清掃
- ・ボルト、ナットの緩み、破損、紛失の点検
- ・ピン、クリップの緩み、破損、紛失の点検

3. 運転席に座りながら：

- ・ブレーキの点検
- ・シートの調節

4. エンジンの始動後：

- ・セーフティスイッチの操作の確認
- ・ハンドルの操作の点検

運転のしかた

エンジンの始動前

⚠ 注意

- ・エンジンを始動する前に、必ず 57 ページの定期点検表に従って、作業前点検を行ってください。
- ・「安全に作業をするために」に記載されている指示に従ってください。
- ・機械、モアデッキの注意銘板の指示を守ってください。

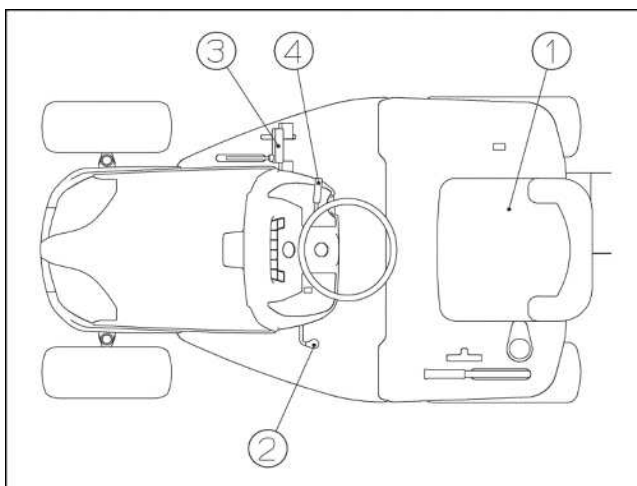
エンジンの始動

⚠ 警告

換気が十分でない閉め切った室内では絶対にエンジンを始動しないでください。必ず十分換気してください。排気ガスにより死亡に至るおそれがあります。

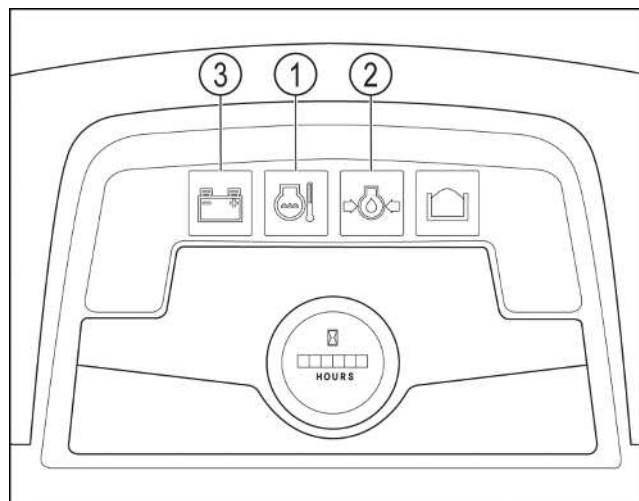
重要

エンジンを始動する前に、正しい姿勢で運転席に座り、ブレーキペダルを踏み、PTO レバーを OFF 位置 (☐) にしてください。さもないと、エンジンを始動できません。



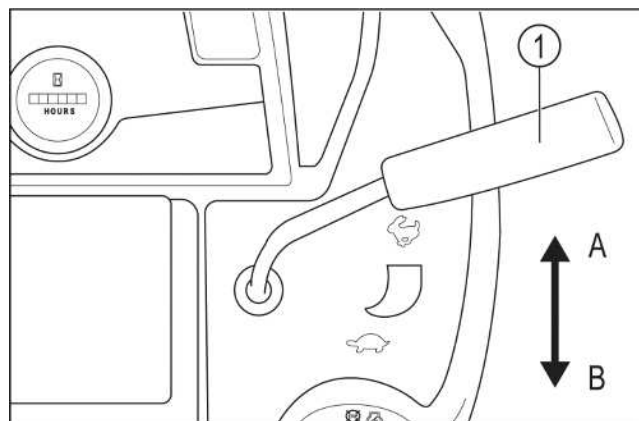
- (1) 運転席 (3) ブレーキペダル
(2) PTO レバー (4) スロットルレバー

1. ボンネットを確実に閉め、正しい姿勢で運転席に座ります。
2. PTO レバーを OFF 位置 (☐) にします。
3. ブレーキペダルを踏み込みます。
4. スタータキーをスタータスイッチに差し込み、キーを ON 位置 (⊕) にします。チャージランプ、オイルプレッシャランプの両方が点灯することを確認します。



- モニタランプ (2) オイルプレッシャランプ
(1) オーバーヒート警告 (3) チャージランプ

5. スロットルレバーを中速位置、すなわち高速と低速位置 (←と→) の間に入れます。



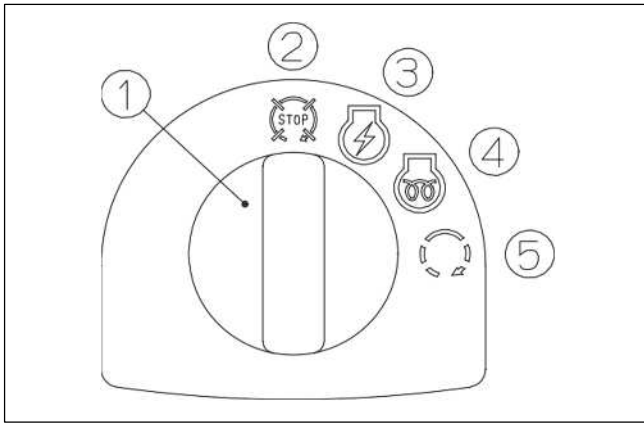
- (1) スロットルレバー (A) 高速 (B) 低速

6. キーをグロー位置 (⊕) にし、約 5~10 秒間、そのまま維持します。

重要

グロー位置に 10 秒以上入れないでください。グロープラグが焼き切れるおそれがあります。エンジンの始動に失敗した場合は、20 秒以上待つてからやり直してください。

運転のしかた



- (1) スタータスイッチ
- (2) OFF 位置
- (3) ON 位置
- (4) グロー位置
- (5) START 位置

7. スタータスイッチを START 位置 (5) にすると、スタータが作動してエンジンが始動します。

重要

スタータスイッチを START 位置 (5) に 10 秒以上入れないでください。エンジンの始動に失敗した場合は、スイッチを STOP (1) 位置に戻し、20 秒以上待ってからやり直してください。さもないと、バッテリーの放電が早まります。

- 8. エンジンが始動したらすぐに、スタータスイッチから手を離します。スイッチが自動的に ON 位置 (3) に戻ります。
- 9. チャージランプ、オイルプレッシャランプが消灯することを確認します。

重要

オイルプレッシャランプが点灯したままの場合は、すぐにエンジンを停止し、エンジン潤滑システムをチェックしてください (43 ページを参照)。

- 10. エンジンが始動したら、エンジンを中速位置で 5 分以上アイドリングします。

重要

- エンジンが始動したら、絶対にスタータスイッチを START 位置 (5) にしないでください。スタータモータが破損します。
- エンジンオイルの粘度が高いため、アイドリング時間が不十分な場合エンジンの潤滑が十分に行われずエンジンの寿命が短くなります。

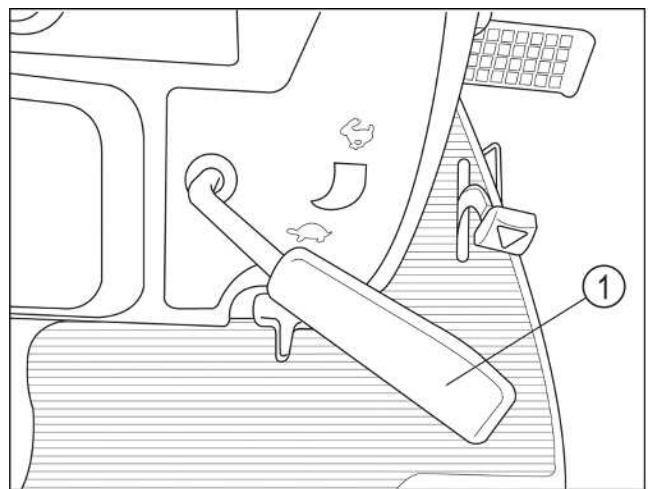
注意

暖機の基準と気温の関係 :

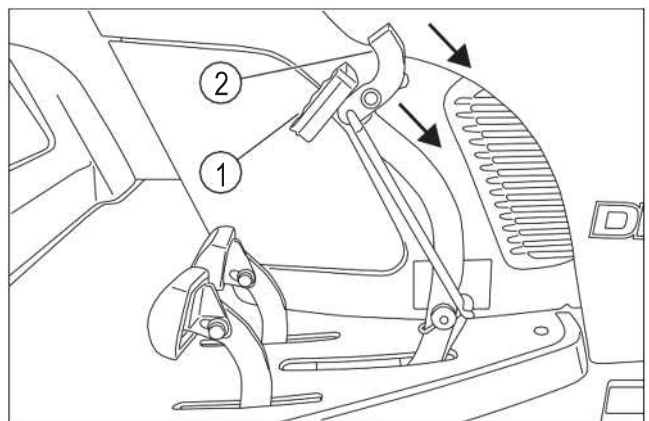
気温	必要な暖機時間
0°C超	5~10分
0°C~-10°C	10~20分
-10°C~-20°C	20~30分
-20°C未満	30分超

エンジンの停止

1. スロットルレバーを低速位置 (4) にしてエンジンを減速します。



(1) スロットルレバー



(1) ブレーキペダル (2) パーキングロックペダル

運転のしかた

⚠ 注意

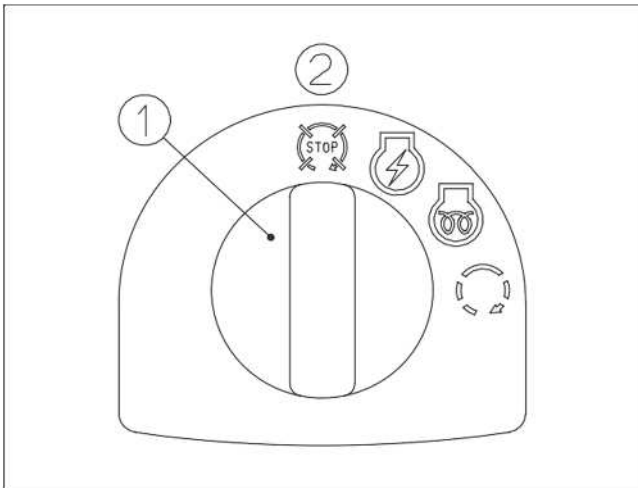
機械を平坦で固い地面に駐車し、ブレーキペダルまたはパーキングロックペダルが確実に掛かっていることを確認してください。

2. スタータスイッチを STOP (⏹) 位置にしてエンジンを停止します。

重要

- 高速で動作しているときは、エンジンを絶対に不意に停止しないでください。
- 長時間の運転後は約 5 分間、エンジンをアイドリングしてから、エンジンを停止してください。エンジンを不意に停止させた場合、オーバーヒートにより焼付きが生じるおそれがあります。

3. スタータキーを抜き、キー穴にキャップを確実にかぶせます。



(1) スタータスイッチ (2) STOP 位置

⚠ 注意

機械から離れるときは、必ずエンジンを停止し、子供や許可を得ていない人が機械を始動しないようにスタータキーを抜いてください。

走行

⚠ 注意

- 機械の操作を十分に理解する前に、広く平坦な障害物のない見通しの良い場所で必ず運転し、各制御装置の機能を確認してください。
- 機械の転倒、横滑りなどの事故を防ぐため、隆起、溝、土手、段差、坂、傾斜、軟弱地盤、水たまりなどがないか、事前に圃場をチェックしてください。

1. エンジンを始動します (39 ページ「エンジンの始動」を参照)。
2. 昇降レバーを引いて (↑)、モアデッキを地面から起こします。

⚠ 注意

モアデッキを上げずに高速走行を開始すると、刈刃が石や切り株にぶつかり機械の故障や重大事故を招くおそれがあります。

3. 駐車ブレーキまたはブレーキペダルのロックを解除します。
4. スロットルレバーを高速位置 (↻) にしてエンジンを加速します。

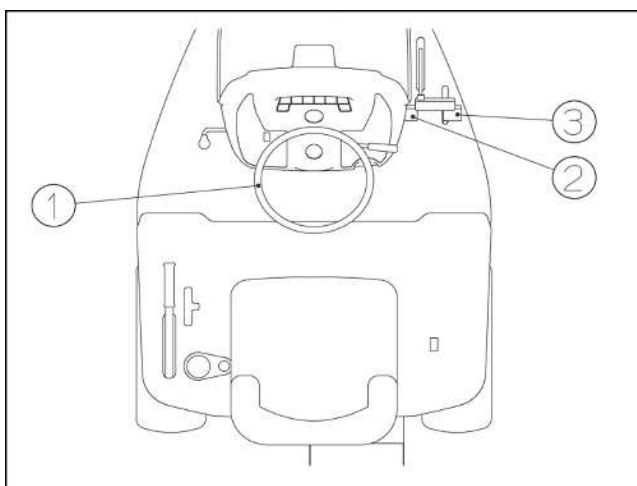
重要

機械の前進を開始する前に機械の前方および周囲の安全を確認してください。

⚠ 警告

- 高速走行時は不意にハンドルを切らないでください。非常に危険です。
- 傾斜地で絶対に急旋回しないでください。ロータリーモアが転倒したり落下したりしないように、徐々に速度を落としゆっくりとハンドルを切ってください。

運転のしかた



- (1) ハンドル
(2) HST 前進ペダル
(3) HST 後進ペダル

5. HST 前進ペダルを軽く踏むと、ロータリーモアがゆっくりと走行し始めます。
6. ロータリーモアを後進させるときは、HST 後進ペダルを軽く踏むとロータリーモアがゆっくりと後進し始めます。

！ 注意

- HST ペダルを不意に踏まないでください。ロータリーモアが急発進し非常に危険です。
- 走行方向を変える前にロータリーモアを必ず完全に停止してください。
- 後進時はロータリーモアの後方の安全を確認してください。
- ハンドルを大きく操作したり、急発進、急停止したりすると、HST の寿命が短くなります。

停止

1. HST ペダルから足を離します。
2. スロットルレバーを低速 (🐢) 位置にしてエンジンを減速します。
3. ブレーキペダルを踏み駐車ブレーキを掛けます。

！ 注意

ロータリーモアを平坦な地面に駐車し、駐車ブレーキが確実に掛かっていることを確認してください。

4. 昇降レバーを下にして (↓) モアデッキを地面まで下げます。

！ 注意

思わぬ事故を防ぐため、ロータリーモアを停止するときは確実にモアデッキを地面まで下げてください。

この機械を手で押す方法

1. PTO レバーをOFFにし、エンジンを停止します。
2. トランスミッションのアンロードバルブを本機前方へ90°回します。
3. パーキングロックペダルを解除します。
4. この機械を手でゆっくりと押します。

！ 注意

このロータリーモアには、専用のけん引部品がありませんので、けん引は禁止です。

ロータリーモアの保守・点検・調整

以下にお客様が行うことができる保守項目を説明します。本書に記載されていない異常や問題については、販売店に点検整備をご依頼ください。

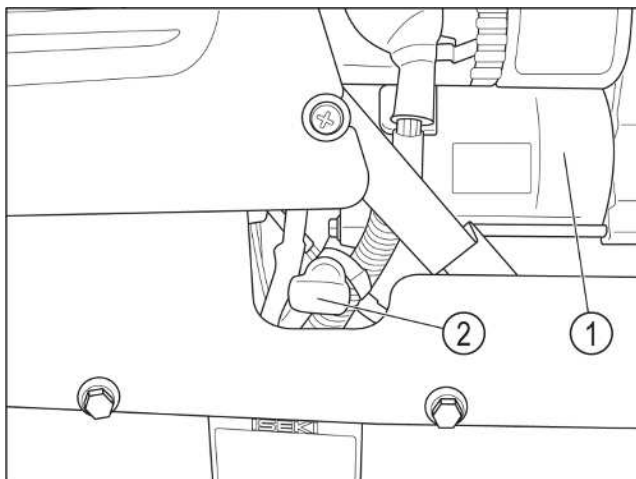
警告

ロータリーモアのグリスアップ、点検整備を行うときは、

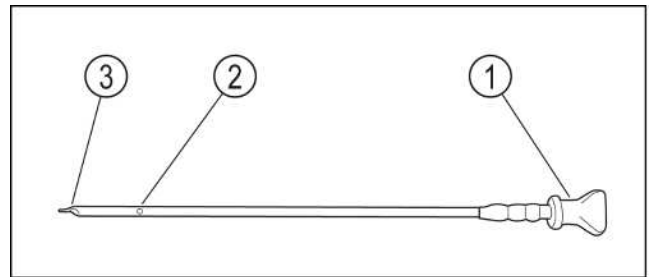
- 平坦で固い地面の上で行ってください。
- エンジンを停止しスタータキーを抜いてください。
- パーキングロックペダルを確実に掛けてください。
- 昇降レバーを下にして(↓)モアを地面まで下げてください。
- PTO レバーを OFF 位置 () にしてください。
- エンジンが十分に冷えてからロータリーモアの点検整備を行ってください。これらの項目を念頭に置いて事前に安全を確認してから保守作業を開始してください。

エンジンオイル量

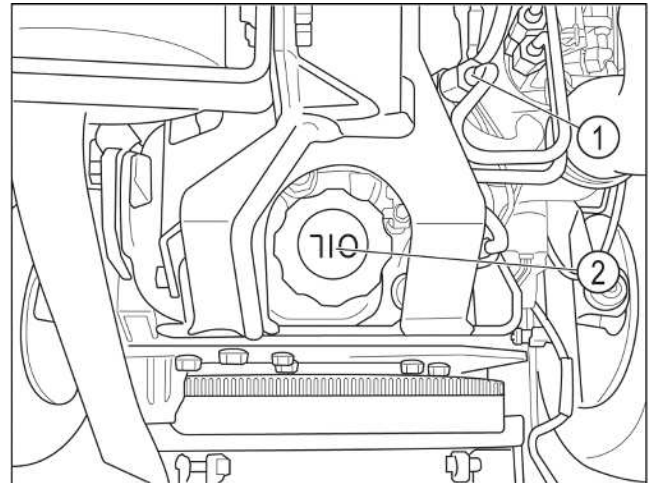
1. エンジンの右側にあるエンジンの検油ゲージ(オイルゲージ)を引き抜きます。
2. オイルゲージの端を乾いた布で拭きます。
3. オイルゲージをエンジンに確実に差し込みます。
4. オイルゲージをもう一度引き抜き、オイル量が上限と下限の間にあることを確認します。



(1) エンジン (2) 検油ゲージ



(1) 検油ゲージ (2) 上限 (3) 下限



(1) エンジン (2) 注油キャップ

5. オイル量が下限よりも低い場合、エンジンの注油口からエンジン内のオイルと同じオイルを上限まで補充します。エンジンの注油キャップを上引っ張って外してください。

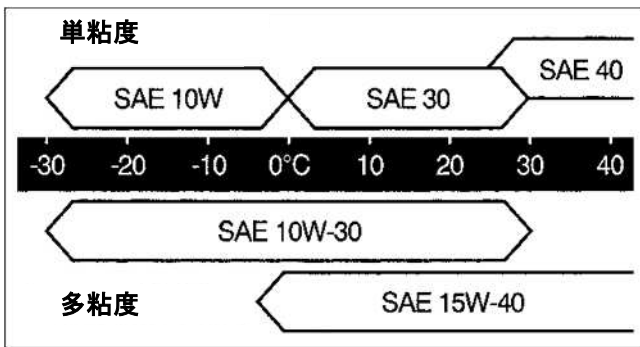
注意

エンジンを停止し 5 分以上待ってからオイル量をチェックしてください。運転直後はエンジンオイルが高温のため、ヤケドをするおそれがあります。また、オイルがオイルパンに戻るには時間がかかります。

重要

- 異なるオイルを絶対に補充しないでください。異なるオイルを追加すると元のオイルの品質が劣化します。
- オイル量が上限を超えないようにしてください。オイルが多すぎるとエンジンの故障を引き起こします。
- API規格のグレードがSAE10W-30 CC等級以上の品質のオイルを使用してください。
- 気温に応じて適切な粘度のオイルを使用してください。

ロータリーモアの保守・点検・調整



⚠ 注意

必ずオイルタンクのキャップを閉めた状態で、フェンダー内サイドカバーを取り付けてください。

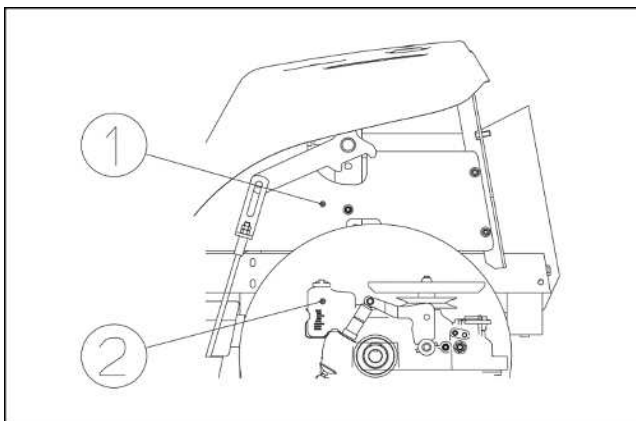
重要

トランスミッションオイルは油圧トランスミッション (HST) のオイルと共通です。ホコリ、水などの異物がオイルに混ざらないように十分注意してください。

トランスミッションオイル量

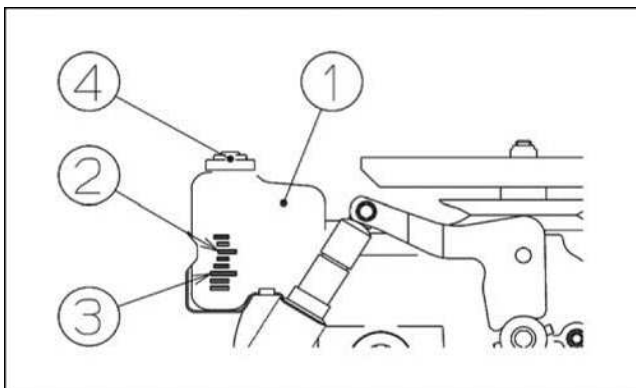
オイルチェック

1. 左側フェンダー内側のサイドカバーを外します。
2. HST の手前にある HST オイルタンクのオイル量をチェックします。



(1) フェンダー内サイドカバー (2) HST オイルタンク

3. オイル量



(1) HST オイルタンク (3) 下限
(2) 上限 (4) オイルタンクのキャップ

4. オイル量が足りない場合検油ゲージの上限までトランスミッションオイルを注ぎます。

HST オイル：油圧作動油 ISO VG32 - VG46 使用

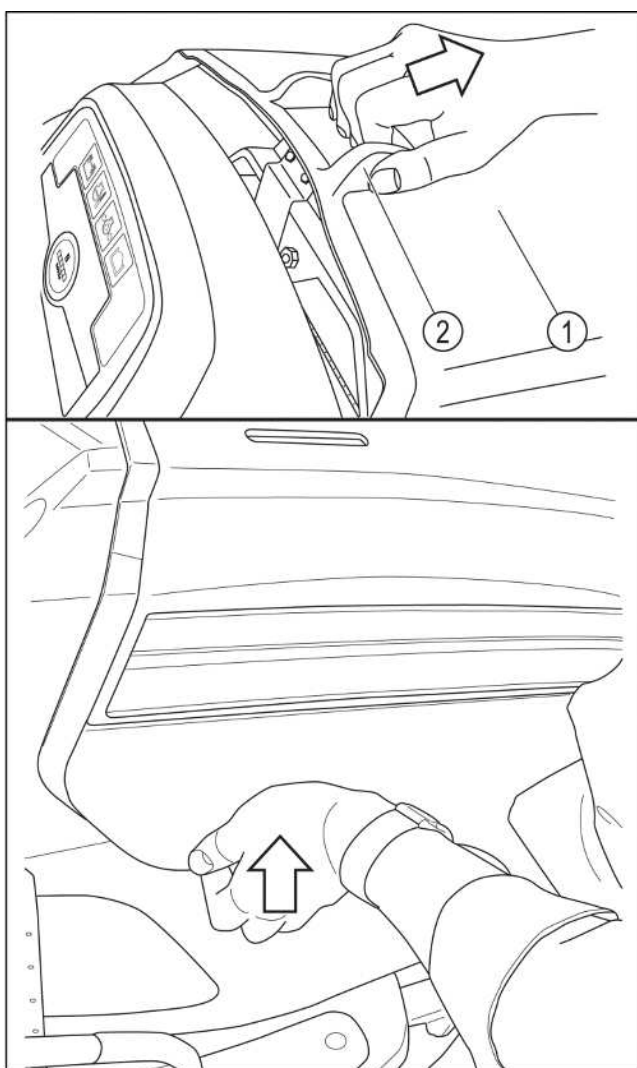
ロータリーモアの保守・点検・調整

冷却水量

警告

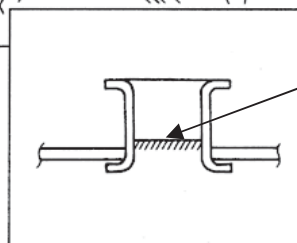
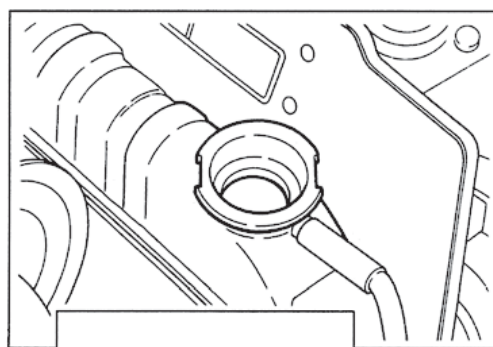
運転中や運転直後は、絶対にラジエータキャップを外さないでください。ラジエータ内の水は非常に高温で、加圧されているため、ヤケドを負うおそれがあります。エンジンが十分に冷えてから冷却水量を点検してください。

1. ボンネットを開きます。



(1) ボンネット (2) ボンネットのロック

ボンネットのロックを矢印の方向に引きもう一方の手でボンネットの支持側を開きます。



フィラーネックの底部

ボンネットを開きラジエータキャップを取り外します。水量がフィラーネックの底部までであることを確認します。水量がこれよりも低い場合は規定レベルまで水を補充します。

注意

ラジエータキャップを確実に締めてください。熱湯がキャップから噴き出すおそれがあり、非常に危険です。

ロータリーモアの保守・点検・調整

燃料残量

フェンダーパネルの左側にある燃料計で燃料残量を確認してください。

「F」の文字は上限を表します。
「E」の文字は下限を表します。

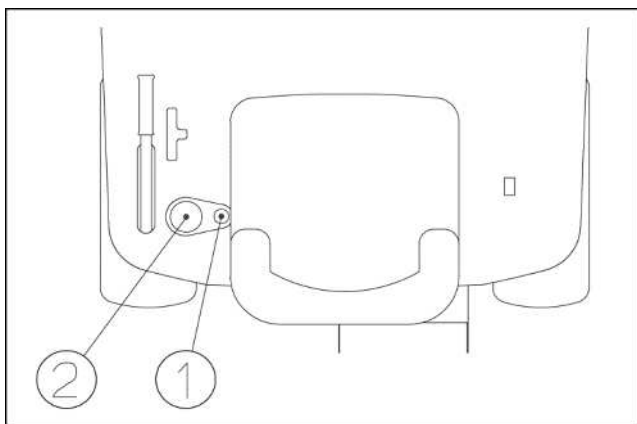
燃料の補充は必要に応じて運転前に行ってください。

燃料容量： 18.0 リットル

⚠ 危険

燃料を補充するときは以下の項目に従ってください。さもないと、火災を招くおそれがあります。

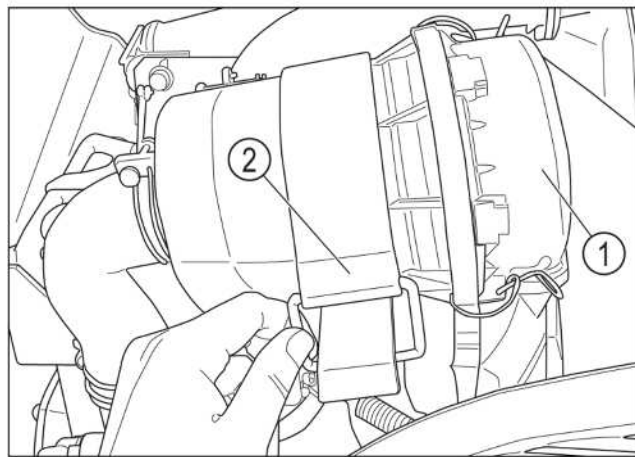
- ・燃料を補充する前に、必ずエンジンを停止し、エンジン、加熱部が十分に冷えるまで待ってください。
- ・火花、火気などを燃料タンクに近づけないでください。
- ・喫煙しないでください。
- ・こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。



(1) 燃料計 (2) 給油口

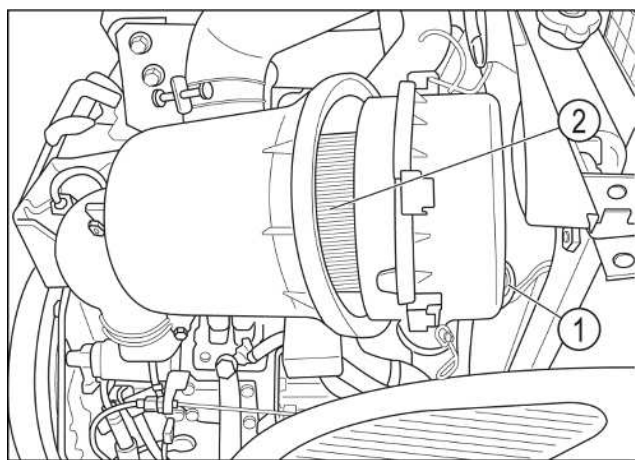
エアクリーナ

1. エアクリーナはラバーバンドでエンジンに固定されています。このバンドを外しエアクリーナを手で取り外します。



(1) エアクリーナ (2) ラバーバンド

2. バキュームバルブを取り外し内部にたまったホコリを排出します。ホコリが湿っている場合は乾いた布で拭き取ってください。



(1) バキュームバルブ (2) エレメント

3. フックを取り外します。エレメントをエアクリーナから引き出します。
4. 片手で持ち軽くたたいてホコリを取り除きます。
5. たたたいただけではエレメントがきれいにならない場合は、圧縮空気でホコリを吹き飛ばしてください。エレメントの内側から外側に圧縮空気を吹き付けてください。
6. 圧縮空気を吹き付けただけではエレメントが十分にきれいにならない場合は、中性洗剤に30分ほど浸してから、真水で洗い流してください。その後常温で乾かします。

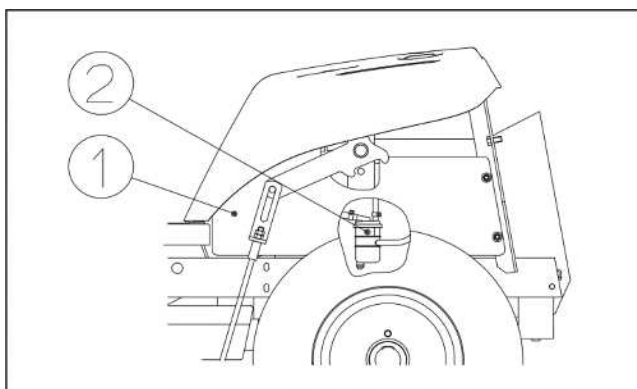
ロータリーモアの保守・点検・調整

7. 清掃後取り外しと逆の順番でエレメントを取り付けます。

重要

- ・エレメントをコンクリート壁などの硬い物体にぶつけないでください。
- ・破損したエレメントは新しいものに交換してください。
- ・絶対にエアクリーナエレメントを取り付けずにエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因になります。

燃料フィルタ



(1) フェンダー内サイドカバー (2) 燃料フィルタ

1. 燃料フィルタはフェンダーの左下にあります。フィルタを点検するときは、サイドカバーを外します。
2. フィルタカップの底にゴミや水がたまっていないかフィルタを確認します。
3. ゴミや水が底にたまっている場合は、燃料フィルタを取り外し燃料フィルタカップから燃料を排出し清掃します。エレメントは洗浄できません。ゴミや水が大量にたまっている場合、または300時間ごとにエレメントを交換してください。
4. 燃料フィルタを取り付けるときは、燃料が漏れないように十分注意してください。
5. スタータスイッチをON位置にし、燃料ポンプを作用してエア抜きを行います。(エンジンを始動する必要はありません。)

燃料ホースの点検

燃料ホースは、ひび割れや燃料漏れがないか100時間ごとにチェックしてください。ホースが破損している場合は新しいホースに交換してください。

ファンベルト

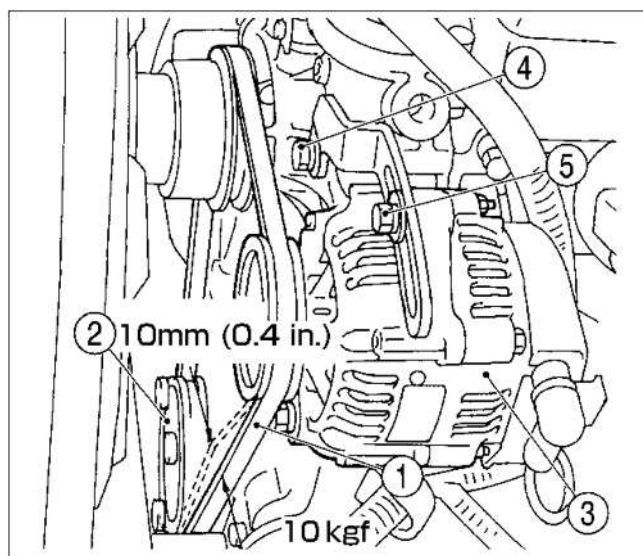


警告

- ・ファンベルトをチェックする前に、必ずエンジンを止めスタータキーを抜いてください。
- ・ヤケドを防ぐためエンジン、アクセサリを十分に冷ましてください。

ファンベルトは、ボンネットを開けるとエンジンルームの右下から確認できます。ベルトの張り、損傷の有無をチェックしてください。

ベルトのオルタネータとクランクシャフトプーリの中間点を10kgfの力で指で押し下げ、たわみ量を確認します。たわみ量が約10mmであれば張りは適切です。



- (1) ファンベルト (2) クランクシャフトプーリ (3) オルタネータ (4) 固定ボルト (5) 調整ボルト

ベルトのたわみ量が不適切な場合は、以下の手順に従って修正してください。

1. オルタネータの固定ボルト、調整ボルトを緩めます。
2. オルタネータを外側に引っ張りベルトの張りを強くします。固定ボルトを締めオルタネータを引っ張りながら、ボルトを調整します。
3. ベルトのたわみ量をチェックして張りが適切か確認します。適切な場合は固定ボルト、調整ボルトを確実に締めます。

重要

ベルトの不具合が見つかった場合は、販売店に交換をご依頼ください。

ロータリーモアの保守・点検・調整

ミッド PTO の保守

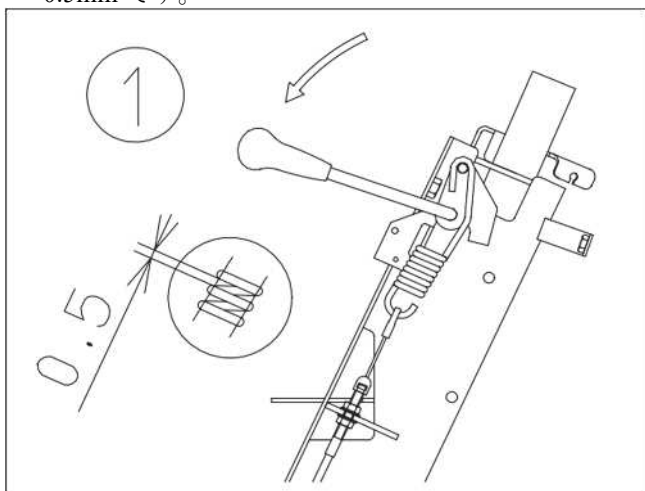
長期間運転すると、ミッド PTO ベルトが伸び、ベルトの張りが弱くなり、ベルトの調整が必要になります。運転前にベルトの張りを点検し、必要な場合は張りを調整してください。ベルトが緩い状態で運転を行うと、効率の低下だけでなくベルトの損傷の原因にもなります。



警告

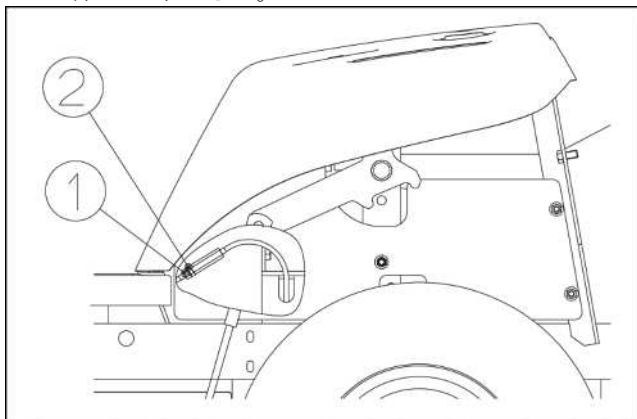
ミッド PTO の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。ヤケドを負うおそれがあります。

1. ボンネットを開きます。
2. ミッド PTO レバーを「ON」位置にし、クラッチスプリングが適切に伸びるか確認します。伸びた状態でのスプリングコイル間の適切なクリアランスは 0.5mm です。



(1) レバーを「ON」位置にします。

3. スプリングが十分に伸びない場合は、ロックナットを緩め、スプリングの伸びが適正になるまで調整ボルトを回します。調整後は必ずロックナットを確実に締めてください。

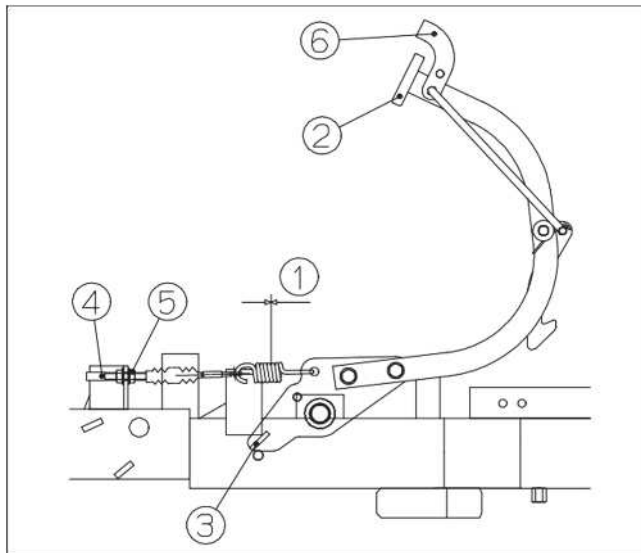


(1) 調整ボルト (2) ロックナット

重要

- ベルトが伸びすぎたり破損している場合は、新しいベルトに交換してください。
- 必ず以下の純正ベルトを使用してください。

ブレーキの調整



- | | |
|-------------------------|------------------------|
| (1) スプリングコイルの
クリアランス | (4) ブレーキケーブル
クリアランス |
| (2) ブレーキペダル | (5) ロックナット |
| (3) ストップ | (6) パーキングロック
ペダル |

1. ブレーキペダル②を踏み、パーキングロックペダル⑥を掛け、スプリングコイル①のクリアランスが 0.3 mm になるようにブレーキケーブル④を調整します。
2. ブレーキケーブル④を調整したら、ロックナット⑤を適切に締めます。

HST の中立位置



警告

長時間使用すると、HST ユニットの中立位置がずれて、機械の停止や前進と後進の切り替えができなくなるなど、さまざまな問題が発生するおそれがあり非常に危険です。

重要

- HST ユニットが正常に動作しない場合は、販売店に修理をご依頼ください。
- HST ユニットの中立位置の調整は、販売店が行う必要があります。

ロータリーモアの保守・点検・調整

速度の調整

重要

速度の調整が必要な場合は、販売店に修理をご依頼ください。

最大走行速度
前進： 11km/h
後進： 6km/h

重要

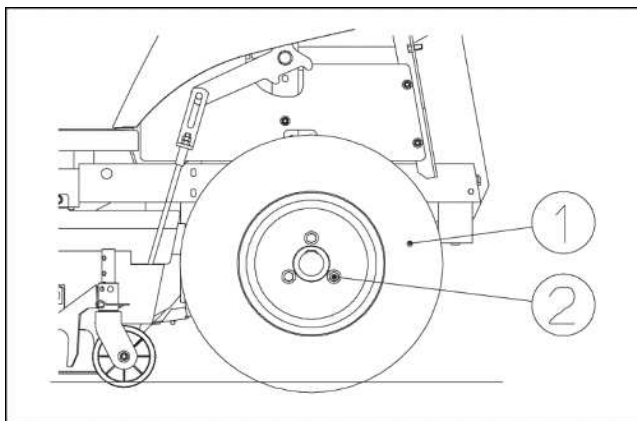
PTO を入れた状態でロータリーモアを後進した場合、後進速度は 1 km/h に制限されます。

注意

安全に作業するために、最大後進速度が毎時 6km 以上になった場合は調整してください。

ホイール締付ボルトの点検

ホイール締付ボルトに緩みがないか確認します。緩んでいるボルトはすべて、規定レベルまで締め付けてください。



(1) 後輪 (2) ボルト/M12×25

規定の締付トルク：

後輪： 79.4～93.1 N·m
810～950 kgf·cm

バッテリー

危険

- バッテリーにより爆発性ガスが発生します。喫煙をせず、火花や火気をバッテリーに近づけないでください。できるだけ早く爆発性ガスを消散させるため、バッテリーの充電は十分換気された場所で行ってください。
- バッテリー液は腐食性が高く、ヤケドの原因になります。皮膚や衣服に飛び散ったときは、すぐに洗い流してください。酸が目に着したときは、すぐに水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- ブースタケーブルを使用するときは、十分な安全対策を講じてください。

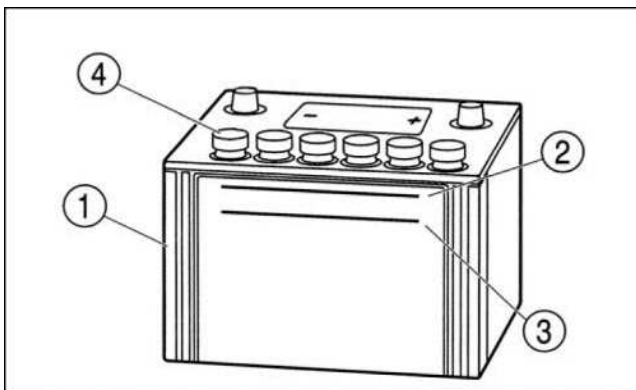
■ 電解液量の点検

バッテリーは機械のラジエータの後部に取り付けられています。電解液量が上限と下限の間にあるか確認してください。液量が下限付近または下限を下回っているときは、上限まで蒸留水を追加してください。

ロータリーモアの保守・点検・調整

警告

電解液量が下限よりも低い状態でバッテリーを使用したり充電したりしないでください。ケーシング内の劣化により、バッテリーが爆発したり、寿命が短くなります。



(1) バッテリー (2) 上限
(3) 下限 (4) フィラープラグ

重要

電解液量は、上限と下限の間で維持する必要があります。液量が多すぎると、電解液があふれ、他の製品の腐食の原因になります。

■ バッテリーの取り扱い

警告

- ・バッテリー端子を正しく接続してください。
- ・バッテリーからの配線をきれいに保ち、コネクタを締めてください。配線の汚れや緩みは火災を招くおそれがあります。
- ・バッテリーを外すときは負極ケーブルを最初に外し、接続するときは正極ケーブルを最初に接続してください。
- ・バッテリーを交換するときは、現在のバッテリーと同じ容量のバッテリーを使用してください (44B 19 L)。

1. 気温が下がるとバッテリーの性能も低下します。そのため、冬季のバッテリーの点検整備は特に注意が必要です。
2. バッテリーは使用してなくても放電するため、毎月または2カ月に1度、最大限まで充電してください。
3. 長期間使用しない場合は、バッテリーを機械から取り外し、直射日光の当たらない乾燥した場所で保管してください。

重要

バッテリーの急速充電は行わないでください。バッテリーの寿命が短くなります。

注意

バッテリーをごみ箱に入れしないでください。自治体の法律に従ってリサイクルしてください。

重要

ロータリーモアを運転せずに長期間保管するとバッテリーが自然放電します (特に冬季)。ロータリーモアを1カ月以上保管する場合は、バッテリーのマイナス端子を外してください。初めてまたは長期保管後に運転するときは、バッテリーの充電量が十分に確認してください。(バッテリー電圧の測定が可能な場合は、電圧が12.5Vを超えているか確認してください。) ロータリーモアを6カ月以上保管するときは、バッテリーを充電してください。バッテリーを充電するときは、フィラープラグを外してください。

注意

バッテリーをごみ箱に入れしないでください。自治体の法律に従ってリサイクルしてください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧が不適切な場合、タイヤが摩耗し、機械の性能に悪影響を及ぼします。空気圧が高すぎると上下振動が大きくなり、低すぎると走行時の抵抗が大きくなり、出力損失を引き起こします。

GT216	タイヤサイズ	空気圧
前輪	16 × 6.50 - 8	190kPa
後輪	20 × 8.00 - 10	170kPa



ロータリーモアの保守・点検・調整

警告

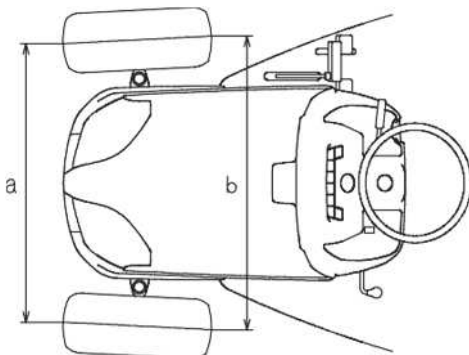
- タイヤ空気圧を本書の規定値に設定してください。空気圧が高すぎると、タイヤが爆発し、重大事故を招くおそれがあります。
- タイヤのコードまで届く切れ目やひび割れがあるタイヤを使用しないでください。タイヤが爆発するおそれがあります。
- タイヤ、チューブ、リムの交換が必要なときは、販売店にご相談ください。この作業は、特にタイヤの取り扱いに詳しい整備工が行う必要があります。

ハンドルの点検

ハンドルを左右に軽く回して、ハンドルがスムーズに回るか確認してください。

タイヤのトーインが適切に設定されていることを確認してください。トーインの設定が不適切な場合、機械の操縦が不安定になり、左右いずれかの方向に曲がりやすくなったり、ハンドルが不意に回ったりします。

トーイン (b-a) は2~6mm でなければなりません。



注意

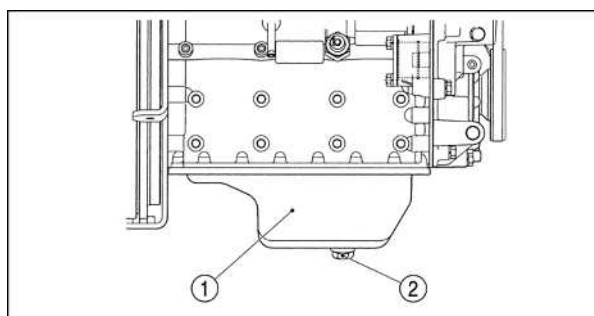
ハンドルやタイヤのトーインで異常が見つかった場合は、販売店に補正をご依頼ください。ハンドルの補正には専用工具と特別な研修が必要です。

エンジンオイルの交換

重要

- エンジンオイルは、運転時間に応じて新しいオイルと交換してください。古いオイルを使用し続けると、エンジンの故障を引き起こします。
- 最初の交換は運転開始から 50 時間後に行い、その後は 150 時間ごとに交換してください。エンジンオイルを交換するときは、ロータリーモアを平坦で固い地面に駐車してください。エンジンオイルドレンはエンジンオイルパンの底部にあり、ロータリーモアの左側から確認できます。

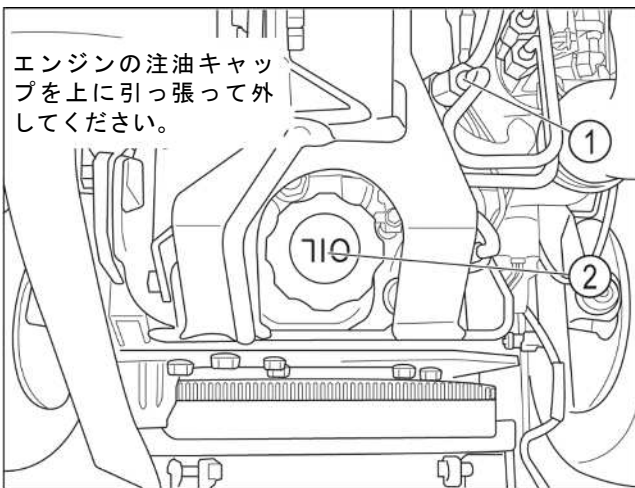
1. オイルドレンの下にトレイなどを置いて、排出されたオイルを受け止めます。
2. 事前にエンジンを 10 分程度暖機して、オイルを温め、粘度を下げて完全に排出できるようにしてください。



(1) オイルパン (2) ドレンプラグ

3. ドレンプラグを外して、使用済みのオイルを完全に排出します。
4. 使用済みのオイルが完全に排出されたら、ドレンプラグを元に戻します。
5. 注油キャップをシリンダヘッドの上部から取り外し、新しいエンジンオイルをオイル注油口から注入します。指定のオイルを必ず使用してください。

ロータリーモアの保守・点検・調整



エンジンオイル容量： 2.2 リットル

6. エンジンオイルの交換後、エンジンを始動し、しばらくの間アイドリングします。
7. その後エンジンを停止し、エンジンオイルがオイルパンに落ちるまで待ちます。オイル量を確認し、上限にあるかチェックします。オイル量が上限よりも低い場合は、上限まで補充してください。

重要

絶対に上限より上に注入しないでください。エンジンの故障を招くおそれがあります。

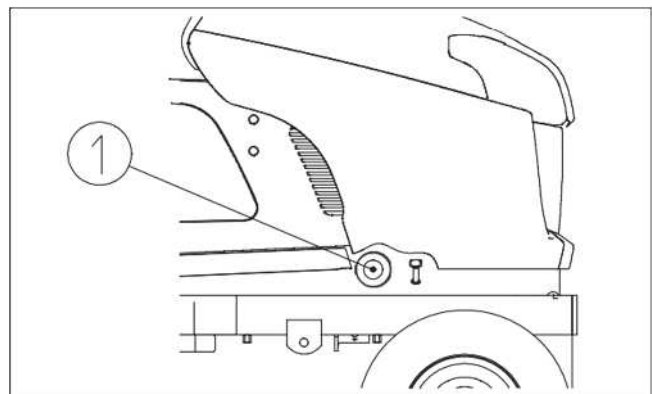
8. ドレンプラグ、オイルフィルタからのオイル漏れがないことを確認します。

エンジンオイルフィルタの交換

重要

・エンジンオイルフィルタの交換は最初の運転から 50 時間後に行い、その後は 300 時間ごとに交換してください。
・エンジンオイルフィルタを交換する場合は、販売店に依頼することを推奨します。この作業には専用工具が必要です。自身でフィルタを交換する以外の選択肢がない場合は、以下の指示を守ってください。

1. 「エンジンオイルの交換」の指示に従ってエンジンオイルを完全に排出します。
2. フィルタを交換するときは、エンジンオイルフィルタの下にオイルを受けるためのぼろきれを置いてください。エンジンオイルフィルタはシリンダブロックの右側にあります。



(1) エンジンオイルフィルタ

3. フィルタレンチを使用してフィルタを緩め、外します。
4. Oリングに新しいオイルを塗り、新しいフィルタを取り付けます。パッキンがエンジンのシール面に接触するまでフィルタを締め込み、さらにフィルタレンチでねじを 2/3 回転させ締め込みます。
5. 「エンジンオイルの交換」を参照してオイルを注入します。

トランスミッションオイルの交換

重要

・トランスミッションオイルの交換は最初の運転から 50 時間後に行い、その後は 300 時間ごとに交換してください。
・HST、トランスミッションオイルの交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。
・HST とトランスミッションのオイルタンクはオリフィスと連結されています。

トランスミッションオイルの交換

トランスミッションの交換が必要な場合は販売店にご相談ください。

エア抜き

HST オイルの交換後は必ずエア抜きを行ってください。

1. オイル量をチェックします。
2. 機械の駆動軸をジャッキスタンドの上に載せ車輪を床から離します。
3. エンジンを始動しアイドリングします。
4. 前進ペダルと後進ペダルを交互に踏みます。

ロータリーモアの保守・点検・調整

5. 機械が移動を開始したらエンジン回転数を上げます。
6. トランスアクスルが完全に応答するまで急発進、急停止を繰り返します。
7. ジャッキスタンドを外して、機械の車輪を床につけます。
8. オイル量を再チェックし補充します。

重要

トランスミッションオイルは油圧トランスミッション (HST) のオイルと共通です。ホコリ、水などの異物がオイルに混ざらないように十分注意してください。

重要

エレメントを固いもので、または手に乗せて絶対にたたかないでください。エレメントレのY端部シールのへこみは、破損の原因になります。

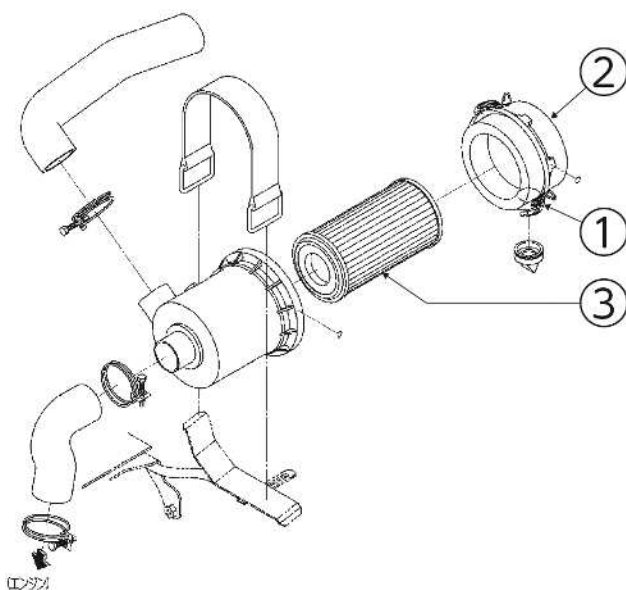
重要

エレメントとエアクリーナ本体との間に十分な密着が得られない場合は、エンジンの重大な損傷が発生する恐れがあります。

エアクリーナエレメントの交換

エアクリーナは、ロータリーモアのボンネットを開けて、エアクリーナエレメントを交換します。

1. エアクリーナエレメントを取り外すには、①クリップを外し、②カバーASSYを取り外してください。
2. エアクリーナ本体から③エレメントを引き出します。エアクリーナ内部の汚れを清掃してください。
3. 新しいエレメントをエアクリーナ本体に挿入し、エレメントの端部がエアクリーナ内部に接触するまで差し込んでください。



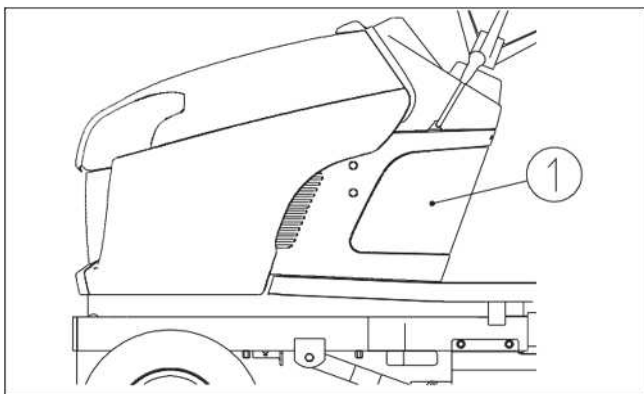
ロータリーモアの保守・点検・調整

吸気口の点検、清掃

重要

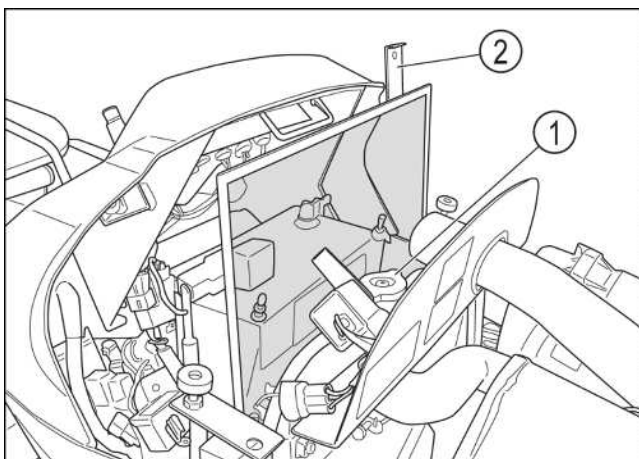
- 吸気口にゴミやホコリが詰まると、ラジエータの冷却効率が下がり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。吸気口の詰まりがないか、毎日運転後に確認してください。
- 枯れ草を刈ったりホコリの多い場所で運転するときは、詰まりを防ぐため 1 日に数回吸気口を確認してください。

1. 吸気口のスクリーンはハンドルの下にあります。布などを使用してホコリを払ってください。



(1) 吸気口のスクリーン

ラジエータの清掃



(1) ラジエータ (2) ラジエータスクリーン

重要

- ラジエータスクリーン、ラジエータにゴミやホコリが詰まると、ラジエータの冷却効率が下がり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。ラジエータ、ラジエータスクリーンの詰まりがないか毎日運転後に確認してください。
- 枯れ草を刈ったりホコリの多い場所で運転するときは、詰まりを防ぐため 1 日に数回ラジエータスクリーンとラジエータを確認してください。

ラジエータ①はエンジンの後ろ、ラジエータスクリーン②はラジエータの後ろにそれぞれあります。

1. ラジエータスクリーンを上引き出します。
2. 柔らかいブラシでラジエータスクリーンのホコリを払います。
3. 圧縮空気または水を両側から交互に送って、ラジエータのフィンの詰まりを掃除します。
4. ラジエータスクリーンを取り付け直します。

重要

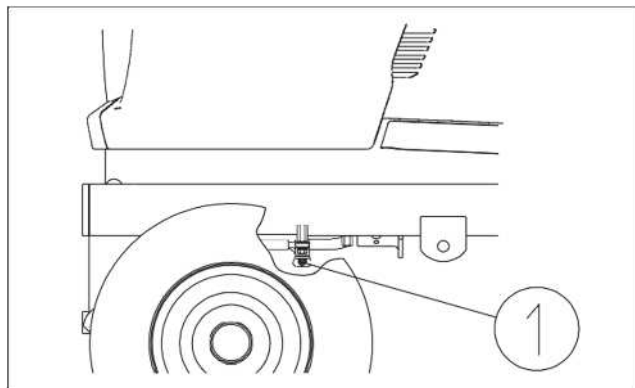
- 過度に圧縮された空気や水は使用しないでください。冷却ファンブレードが変形するおそれがあります。
- 配線や電気装置に水を直接掛けないでください。
- 水道水を使用してラジエータを洗った後は自然乾燥させてください。

冷却水の交換



警告

運転中や運転直後は、絶対にラジエータキャップを外さないでください。加圧された蒸気や熱湯が吹き出し、ヤケドを負うおそれがあります。エンジンが十分に冷えるまで待ってください。



(1) ドレンプラグ

エンジン冷却水のドレンプラグはエンジンの左下にあります。

ロータリーモアの保守・点検・調整

1. 冷却水受けをドレンプラグの下に置きます。
2. ラジエータキャップ、ドレンプラグを外し、冷却水をラジエータ、エンジンシリンダブロックから完全に排出します。
3. 冷却水が完全に排出されたら、ラジエータ内部を洗い流し、ドレンプラグを確実に締めます。
4. 冷却水の注入口から流れ出るまで、規定の不凍液濃度の冷却水を注入します。ラジエータキャップを締め直します。

冷却水容量

ラジエータ	3.0 リットル
-------	----------

警告

必ずラジエータキャップを確実に締めてください。沸騰した冷却液が噴出するおそれがあり、非常に危険です。

重要

- 冷却液が凍結するとエンジンが損傷するおそれがあります。
- 水と不凍液の混合比は不凍液のメーカー、気温によって異なります。
- 事前に水と不凍液を十分に混ぜ合わせてください。

5. 注入後エンジンを始動し、約5分間アイドリングします。その後冷却水量を確認します。水量が低い場合は冷却水を補充してください(45ページを参照)。

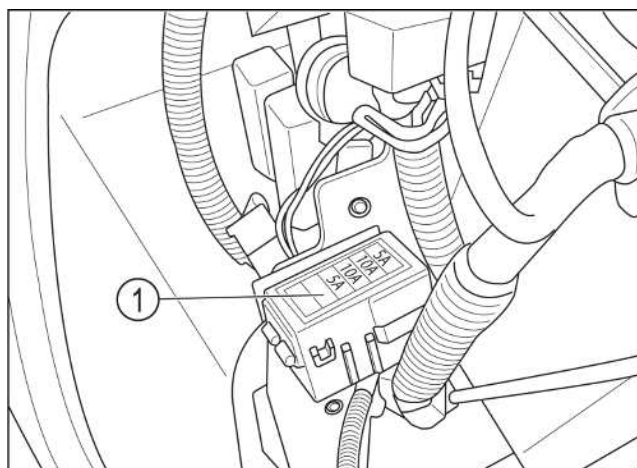
重要

冷却水がない状態でエンジンを作動しないでください。エンジンが動かなくなり、完全に破損します。

ヒューズ、配線の点検

ヒューズボックスは、機械のエンジンルーム内部の右側にあります。

ヒューズ容量	アプリケーション
5A	ソレノイド
10A	メインAC
10A	ヘッドライト
5A	コレクタAC



(1) ヒューズボックス

重要

- ヒューズやスローブローヒューズが切れたときは、必ず問題を特定して修正してください。原因が不明な場合は販売店にご相談ください。
- 必ず規定のヒューズを使用してください。容量の大きいヒューズは電気アクセサリ、配線の焼損の原因になります。
- スローブローヒューズが焼き切れた場合は、正規のスローブローヒューズを使用してください。

オルタネータ、スタータモータにはそれぞれスローブローヒューズがあります。

警告

配線カバーが破損した場合はすぐに絶縁テープで修繕してください。

注意

- 火災事故を防ぐため毎年販売店で機械の配線をチェックしてください。
- バッテリ、配線、マフラー、エンジン周りの草やゴミを取り除いてください。火がつくおそれがあります。

重要

ワイヤハーネスがクランプから外れたときは、すぐに固定し直してください。

ロータリーモアの保守・点検・調整

油圧系統の部品の保守

HST ユニット、コレクタダンプシリンダなど油圧系統の部品の調整や修理が必要なときは、販売店にご相談ください。自身で油圧系統の部品を調整、修理しないでください。

セーフティスイッチの点検

安全に作業するために安全装置が取り付けられています。運転前に以下の手順により各装置が適切に動作することを確認してください。



注意

セーフティスイッチの故障によりエンジンが始動しない場合、運転者が運転席を離れてもエンジンが停止しない場合は、すぐに販売店に修理をご依頼ください。

点検 4

1. ボンネットを開きます。
2. 運転席に座ります。
3. PTO レバーを OFF (OFF) 位置にします。
4. ブレーキペダルを踏みます。
5. キースイッチを START 位置 (START) にします。
エンジンが作動しないことを確認してください。

点検 1

1. 運転席に座ります。
2. PTO レバーを OFF (OFF) 位置にします。
3. ブレーキペダルは踏まないでください。
4. キースイッチを START 位置 (START) にします。
エンジンが作動しないことを確認してください。

点検 2

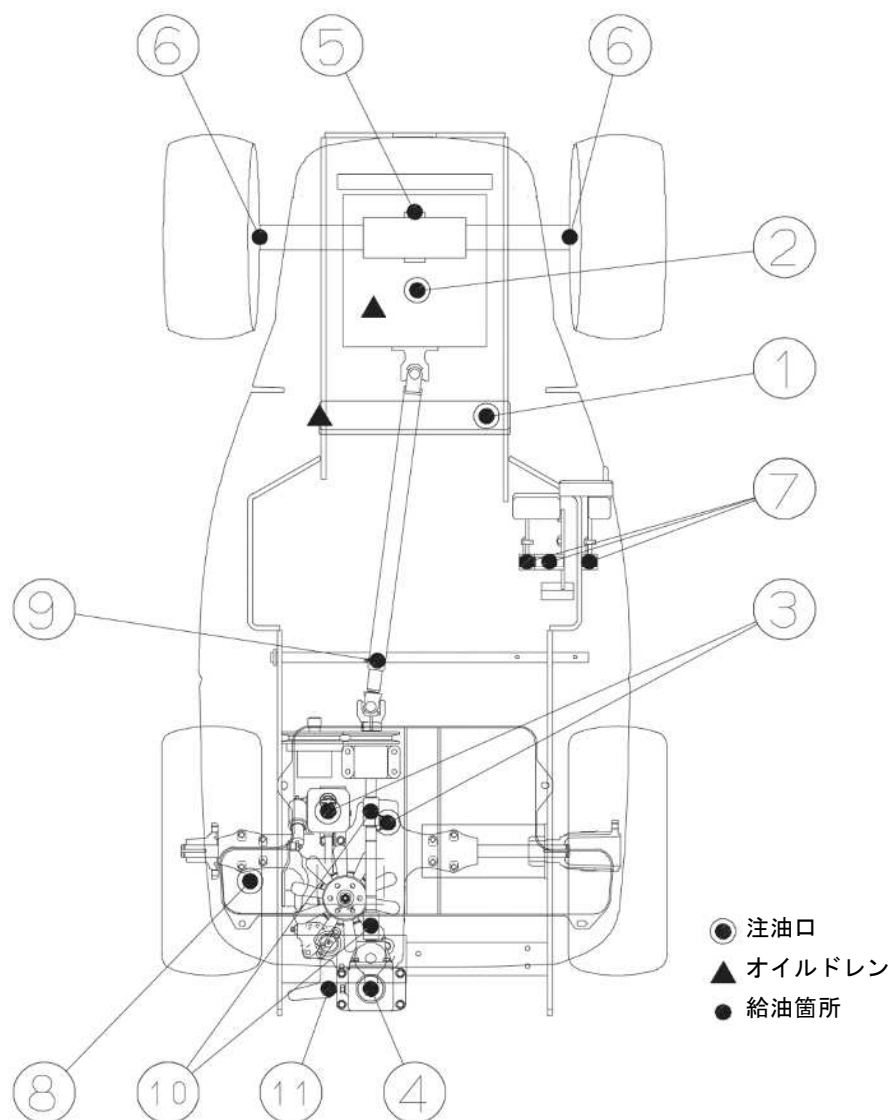
1. 運転席に座ります。
2. PTO レバーを ON (ON) 位置にします。
3. ブレーキペダルを踏みます。
4. キースイッチを START 位置 (START) にします。
エンジンが作動しないことを確認してください。

点検 3

1. 運転席に座ります。
2. PTO レバーを OFF (OFF) 位置にします。
3. ブレーキペダルを踏みます。
4. キースイッチを START 位置 (START) にします。
エンジンが作動、始動することを確認してください。
5. 運転席から離れます。
エンジンが停止することを確認してください。

ロータリーモアの保守・点検・調整

給油・給水一覧表



参照番号	注油箇所	潤滑油	量：リットル
1	ラジエータ	L.L.C (ロングライフクーラント) 50% 真水50%	3.0
2	エンジン	API規格 SAE10W-30 CC等級以上	2.2
3	トランスミッションケース HSTオイルタンク	油圧作動油 ISO VG32 - VG46	2.5
4	ベベルギヤケース	ギヤオイルSAE80	0.24
5	センタピボット	グリス	必要に応じて
6	ナックルアーム	グリス	必要に応じて
7	ブレーキハブ/HSTハブ	グリス	必要に応じて
8	燃料	軽油	18.0
9	駆動軸	グリス	必要に応じて
10	駆動軸	グリス	必要に応じて
11	HSTテンションアーム	グリス	必要に応じて

ロータリーモアの保守・点検・調整

定期点検一覧表

○: 点検、補充、調整 ●: 交換 △: 清掃、洗浄
★: 正規の点検整備施設での交換、点検整備を推奨

	運転前	最初の50時間★	100時間	150時間★	200時間	300時間★	400時間	450時間★	500時間	600時間★	毎月	毎年★	2年ごと★	間隔	判断基準	参照ページ
エンジンオイル	○	●		●		●		●		●				最初の50時間後に交換し、その後は150時間ごとに交換。	規定レベルを維持。	43 51
エアクリーナエレメント	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△		●		50時間ごとに清掃。毎年または必要に応じて交換。		46 53
ラジエータ冷却水	○												●	2年ごとに交換。	規定レベルを維持。	45 54
燃料	○														燃料タンクは常に満タンにする。	46
燃料フィルタ	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○		●	●	300時間ごとまたは毎年交換。	フィルタ内にゴミや水がないこと。	47
ファンベルト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				必要に応じて交換。	たわみ量10mm	47
電解液量		○	○	○	○	○	○	○	○	○				必要に応じて電解液を補充。	液量を適切に維持。	49
バッテリー状態	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	必要に応じて充電または交換。		49
エンジンオイルフィルタ		●				●				●				最初の50時間後に交換し、その後は300時間ごとに交換。		52
トランスミッションオイル	○	●	○			●		○		●				最初の50時間後に交換し、その後は300時間ごとに交換。	規定レベルを維持。	44 52
ブレーキペダルの遊び	○														30mm	48
ハンドル	○					★				★				300時間ごとにチェック。	異常がないこと。	51
ハンドルの連結部のボールジョイント						○				○				300時間ごとにチェック。	ボールジョイントが緩んでいる場合は再度締め付け。	-
タイヤ空気圧	○														前輪：190 kPa 後輪：170 kPa	50
トーイン						★				★				300時間ごとに調整。	2～6mm	51
ホイールボルト	○														緩みがないこと。	49
グリスアップ		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	50時間ごとにグリスを注入。		57
ラジエータスクリーン	△														詰まりのないこと。	54
ラジエータ	△														詰まりのないこと。	54
電気装置	○														すべてが適切に動作すること。	35 36
セーフティスイッチ	○														すべてが適切に動作すること。	56
吸気口	△														詰まりのないこと。	54
ボルト、ナット	○														緩みがないこと。	-
ゴム管			○	○	○	○		○	○					100時間ごとにチェック。		-

重要

- ・上記の点検整備間隔は通常使用時のものです。作業条件が通常よりも厳しい場合は、早期に点検整備を行うことを推奨します。
- ・専門技能や専用工具が必要な場合、保守作業が難しい場合は、販売店にご相談ください。

ロータリーモアの保守・点検・調整

機械の洗浄



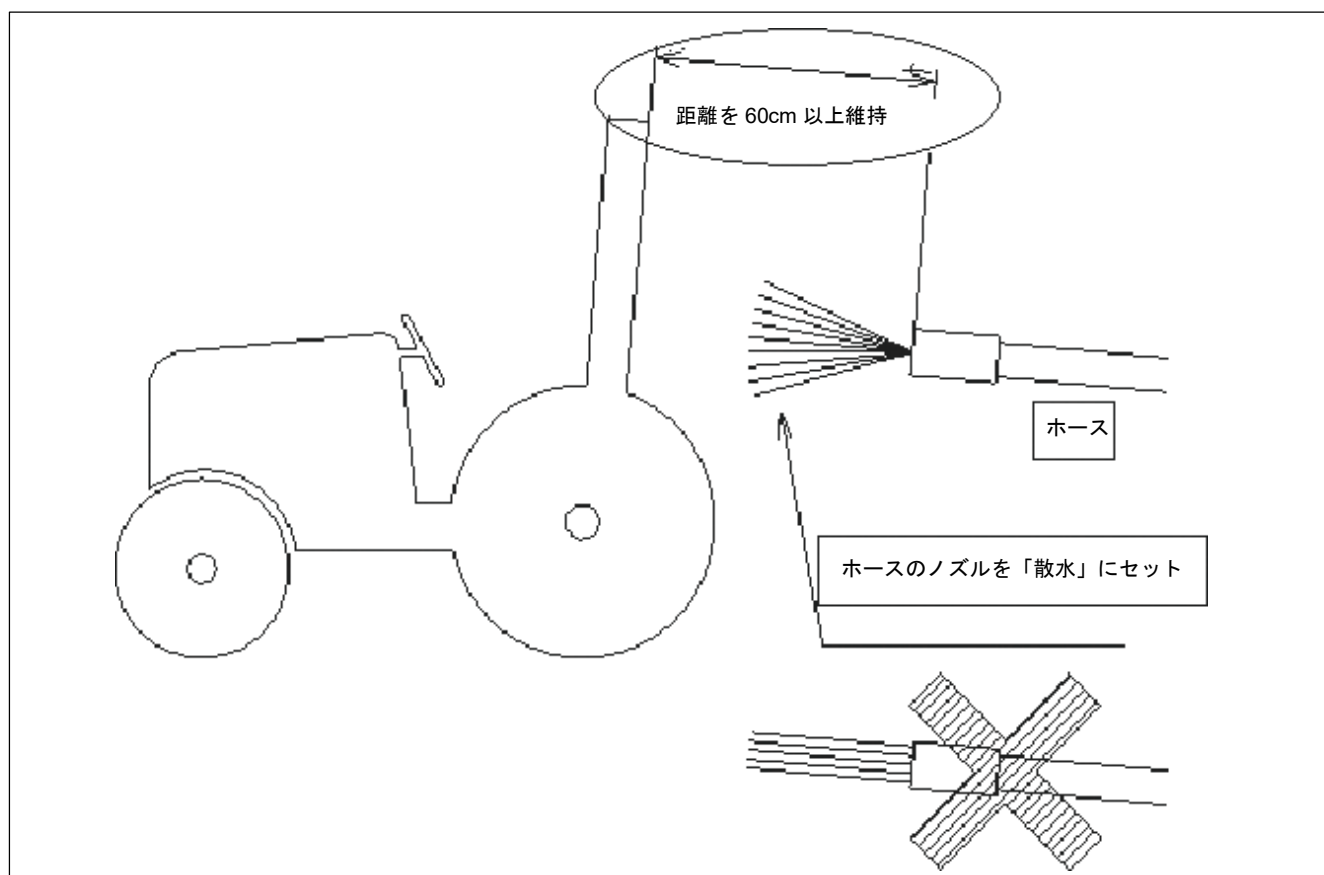
高圧洗車機を使用する場合は、必ず洗車機の取扱説明書、安全銘板の指示に従って使用してください。不正な使用はけがや機械の損傷を招くおそれがあります。



機械の損傷を防ぐため、ホースのノズルを「散水」にセットし、距離を 60cm 以上維持してください。特に電気部品やラベルに水が当たらないように注意してください。

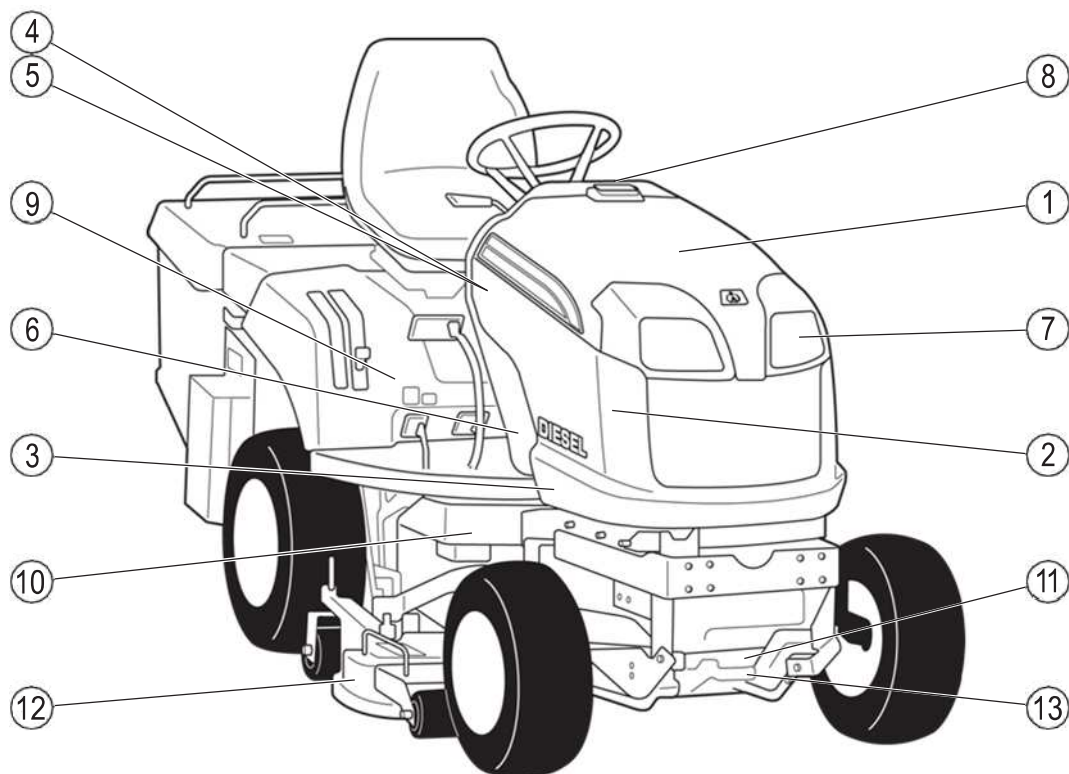
不適切な洗浄は以下の原因になるおそれがあります。

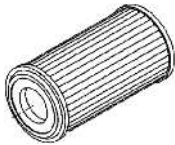

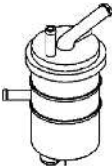



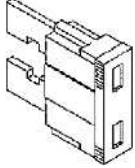
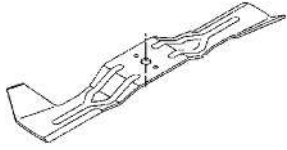
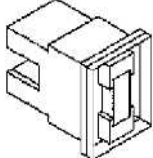

1. 電気部品のショート、破損による火災
2. 油圧ホースの破損によるオイル漏れ
3. 機械の破損、損傷
 - (1) ラベルのはがれ
 - (2) 電気部品、エンジン、ラジエータ、内装の損傷
 - (3) ゴム部品（タイヤ、シール）、樹脂部品の破損
 - (4) 塗装のはがれ



ロータリーモアの保守・点検・調整

主要消耗品一覧表



1	エアクリーナ エレメント		7	ヘッドランプ バルブ/12V23W	
2	燃料フィルタ		8	モニタランプ バルブ/12V3.4W	
3	エンジンオイル フィルタ		9	ベルト/HST VB027	
			10	ベルト/PTO VB031	
4	ヒューズ/ブレード/ 30V05A		11	ブレードA	
5	ヒューズ/ブレード/ 30V10A		12	ブレードB	
6	スローブローヒューズ 40A		13	ピン	

ロータリーモアの保管

■ 日常・短期保管

1. ロータリーモアを清掃してください。

重要

ロータリーモアを洗淨するときは、圧縮水が電気装置、オイルフィルタ、燃料フィルタに直接掛からないようにしてください。スタータキーを抜き、短絡を防ぐためにスイッチキー穴にキャップをかぶせてください。ラベルのはがれを防ぐため、洗淨するときは高圧水がラベルにかからないように注意してください。高圧洗車機を使用するときは、洗車機のノズルの先端とラベルの距離を60cm以上維持してください。

2. モアデッキを地面まで下げてください。



注意

モアデッキを上げたままにした場合、子供や許可を得ていない人が昇降レバーを操作すると、不意に下がり重大事故を招くおそれがあります。

3. ロータリーモアはできれば屋内に保管してください。屋外に放置しなければならない場合はカバーをしてください。



警告

屋外に放置しなければならない場合は、エンジン、マフラーなどの加熱部を完全に冷ましてから防水シートでカバーしてください。火災を招くおそれがあります。

4. 気温が非常に低いときは、バッテリーを外し、直射日光の当たらない暖かい乾燥した場所に保管してください。翌朝のエンジン始動が容易になります。



注意

保管前に必ずスタータキーを抜いてください。

■ 長期保管

1. ロータリーモアを清掃し、障害箇所の修理、交換、再調整などにより、すべての問題を修正してください。
2. 燃料タンクを満タンにしてください。
3. エンジンオイルを新しいものに交換し、エンジンを約5分間アイドリングして、すべての部品を十分に潤滑してください。
4. すべての潤滑箇所を潤滑してください。
5. すべての給油箇所のグリスアップを行ってください。
6. ボルト、ナットの緩みを確認し、緩んでいる場合は締め直してください。
7. タイヤ空気圧を規定より若干高くしてください。
8. モアデッキを取り外すか地面まで下げてください。



注意

モアデッキを上げたままにした場合、子供や許可を得ていない人が昇降レバーを操作すると、不意に下がり重大事故を招くおそれがあります。

9. 雨やホコリから守るためロータリーモアに防水シートを掛けてください。



警告

ロータリーモアに防水シートを掛けるときは、エンジン、マフラーなどの加熱部が完全に冷えるまで待ってください。火災を招くおそれがあります。

10. バッテリーを取り外して充電し、電解液量を調整し、子供が近づかず、直射日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。

11. 月に1度、バッテリーを満充電してください。



注意

保管前に必ずスタータキーを抜いてください。

ロータリーモアの保管

■ 長期保管後の運転

1. 必ず運転前点検を行ってください。
2. エンジン性能と寿命を最大限に確保するため、負荷を掛ける前にエンジンを約 30 分間アイドリングしてください。



排気ガスには非常に有毒なため、エンジンを始動するときは排気ガスを十分に換気してください。

ロータリーモアの不調診断について

エンジン

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> スタータモータが機能しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルが踏まれていない。 PTOレバーがOFF (OFF) 位置にない。 バッテリーが満充電されていない。 バッテリー端子がきちんと接続されていない。 コネクタの内部配線の不良。 シートのセーフティスイッチの不良。 スタータスイッチの故障。 スタータモータの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏む。 OFF位置にする。 充電する。 端子を清掃し、確実に接続する。 配線し直す。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> スタータモータは機能するが、エンジンが始動しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料切れ。 燃料に水が混入している。 燃料に空気が混入している。 燃料ホースの詰まり。 燃料フィルタの目詰まり。 クランキングスピードが遅い。 余熱が不十分。 スロットルレバーが低速 (L) 位置にある。 エンジンオイルの粘度が高すぎる。 エアクリーナの目詰まり。 圧縮が不十分。 噴射タイミングが不適切。 噴射ノズルの詰まり。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料を補充する。 燃料フィルタから水を抜く。 噴射ポンプのエア抜きを行う。 燃料ホース内部を清掃する。 洗浄またはエレメントを交換する。 バッテリーを充電する。 規定時間予熱する。 中速位置にする。 粘度の低いオイルに交換する。 エレメントを清掃する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> エンジンが不規則に回転する、またはすぐにエンストする。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料系統に空気が混入している。 アースが不適切。 燃料フィルタの目詰まり。 燃料系統の漏れ。 噴射ポンプの不良。 	<ul style="list-style-type: none"> 空気が混入した原因を特定し、エア抜きを行う。 アースポイントを磨き、接続し直す。 清掃またはエレメントを交換する。 ジョイントを確実に締める、または破損したホースを交換する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> エンジンロックが発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンオイル量が少なすぎる。 エンジンがオーバーヒートしている。 冷却水の温度が上昇しない。 噴射ポンプの不良。 噴射ノズルの不良。 バルブのクリアランスが不適正。 	<ul style="list-style-type: none"> オイルを上限まで追加する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。

ロータリーモアの不調診断について

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> エンジン出力が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料切れ エアクリーナの目詰まり。 エンジンが過負荷状態である。 燃料が不適切。 エンジンがオーバーヒートしている。 スロットルレバーが高速 (H) 位置にない。 圧縮が不十分。 バルブのクリアランスが不適切。 噴射ポンプの不良。 噴射ノズルの不良。 噴射タイミングが不適切。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料を補給する。 エレメントを清掃する。 刈高さを上げるか、ロータリーモアの速度を落とす。 適切な燃料を使用する。 エンジンを冷却する。 シフトを確実に行う。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> エンジンがオーバーヒートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの冷却液量が少ない。 ファンベルトの緩み。 ラジエータフィン、スクリーンの目詰まり。 エンジンオイル量が少ない。 吸気口の詰まり。 エンジンが過負荷状態である。 エンジンオイルフィルタの目詰まり。 冷却水温度警告灯が切れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 補充する。 適切に張る。 清掃する。 エンジンオイルを上限まで補充する。 吸気口のスクリーンを清掃する。 刈高さを上げるか、ロータリーモアの速度を落とす。 販売店に交換を依頼する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> オイルプレッシャランプが点滅している。 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンオイル量が少ない。 エンジンオイルの粘度が低い。 エンジンオイルフィルタの目詰まり。 オイルポンプの故障。 油圧スイッチの故障 	<ul style="list-style-type: none"> オイルを上限まで追加する。 粘度の高いオイルに交換する。 販売店に交換を依頼する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> 排気ガスが白い。 	<ul style="list-style-type: none"> エアクリーナの目詰まり。 エンジンオイル量が多すぎる。 燃料噴射が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> エレメントを清掃する。 オイルを上限まで排出する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> 排気ガスが黒い。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料が不適切。 吸気系統の詰まり。 排気系統の詰まり。 燃料噴射率が高すぎる。 噴射ノズルの圧力が不十分。 噴射タイミングが不適切。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な燃料を使用する。 エアクリーナエレメントを清掃する。 マフラーの詰まりを確認し、清掃する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> 低速でエンストする。 	<ul style="list-style-type: none"> 噴射ポンプの不良。 噴射ノズルの不良。 バルブのクリアランスが不適正。 	<ul style="list-style-type: none"> 販売店に相談する。 販売店に相談する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> エンジンが空回りする。 	<ul style="list-style-type: none"> ガバナーの詰まり。 エンジンオイルがシリンダに漏れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 販売店に相談する。 販売店に相談する。

ロータリーモアの不調診断について

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> 燃料消費量が多すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料が不適切。 吸気通路の詰まり。 エンジンが過負荷状態である。 燃料漏れ。 バルブのクリアランスが不適正。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な燃料を使用する。 エアクリーナ、吸気ホースの内部を清掃する。 刈高さを上げるか、機械の速度を落とす。 破損した部品を新しいものに交換し、ジョイントを確実に締める。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> チャージランプが点滅している。 	<ul style="list-style-type: none"> 配線の不良。 電解液量が少ない。 ファンベルトの緩み。 オルタネータの故障。 レギュレータの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> 端子の緩み、汚れ、短絡、接地不良を解消する。 蒸留水を上限まで補充する。 適切に張る。 販売店に相談する。 販売店に相談する。

ブレーキシテム

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> ブレーキの効きが悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルの遊びが大きすぎる。 HST内のブレーキディスクの摩耗。 	<ul style="list-style-type: none"> ペダルの遊びを調整する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルがスムーズに戻らない。 	<ul style="list-style-type: none"> リターンスプリングの疲労または不良。 連結部の潤滑不良。 	<ul style="list-style-type: none"> 交換する。 注油箇所に給油する。

昇降システム

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> モアデッキが上昇しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ロックラッチが溝から外れない。 作業機昇降ロッドの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> 押しボタンが外れていないか確認する。 ロッドの変形を確認する。 適切な長さに修正する。
<ul style="list-style-type: none"> モアデッキが下降しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ロックラッチが溝から外れない。 高さ調整システムが作動している。 モアデッキの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> 押しボタンが外れていないか確認する。 ロッドの変形を確認する。 高さ調整ダイヤルを最低位置にセットする。 適切な長さに修正する。

ロータリーモアの不調診断について

ステアリング装置

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> • ハンドルが重く切りづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> • タイヤ空気圧が低い。 • ステアリングギヤにグリスが塗布されていない。 • ステアリングギヤの歯の間にゴミが挟まっている。 • ナックルスピンドルにグリスが塗布されていない。 • ステアリングギヤのベアリングの破損。 	<ul style="list-style-type: none"> • 規定通りに調整する。 • グリスアップを行う。 • ゴミを取り除きギヤの歯を清掃する。 • グリスアップを行う。 • 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> • ハンドルが左右どちらかへとられる。 	<ul style="list-style-type: none"> • タイヤ空気圧が不揃いである。 • トーインが不適切。 • タイロッドの端が過度に摩耗している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 前後のタイヤ空気圧を規定圧力に調整する。 • 販売店に相談する。 • 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> • ハンドルの遊びが大きすぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> • タイロッドの端が過度に摩耗している。 • ステアリングコラムシャフトが過度に摩耗している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 販売店に相談する。 • 販売店に相談する。

HST（油圧トランスミッション）

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> • ロータリーモアが走行しない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 駐車ブレーキが掛かっている。 • エンジン回転数が低すぎる。 • トランスミッションオイル量が少ない。 • 油圧管に空気が混入している。 • HSTペダルの調整不良。 • HSTユニットの不良。 	<ul style="list-style-type: none"> • 解除する。 • エンジンを加速する。 • 上限まで補給する。 • 販売店に相談する。 • 販売店に相談する。 • 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> • HSTペダルを操作していないのにロータリーモアが徐行する。 	<ul style="list-style-type: none"> • HSTの中立点が不適正。 • HSTユニットの不良。 	<ul style="list-style-type: none"> • 販売店に相談する。 • 販売店に相談する。

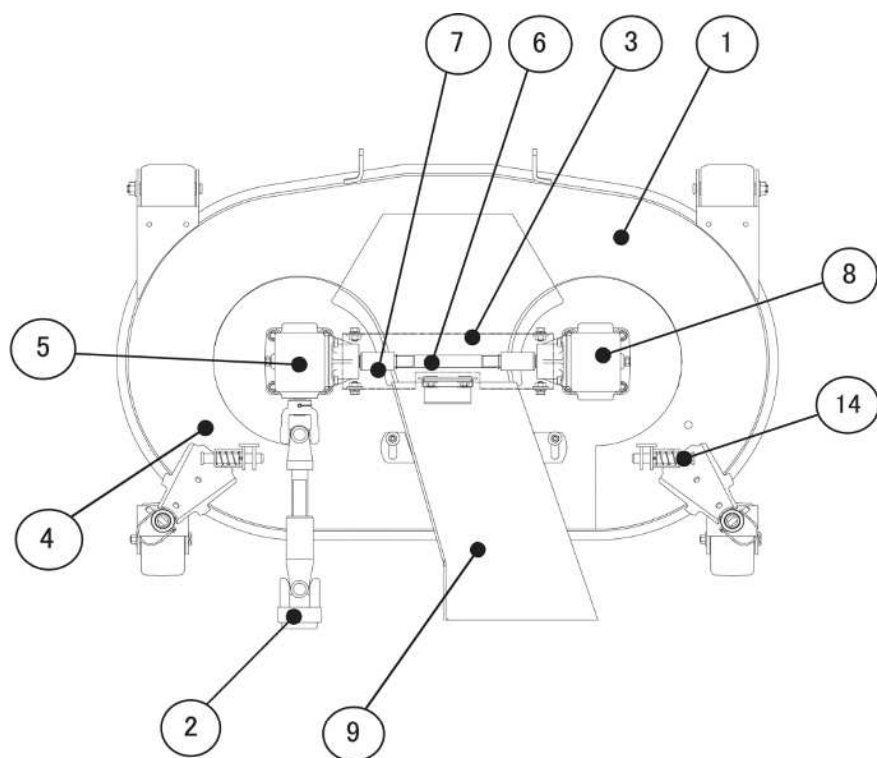
電装品

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーが充電されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • スローブローヒューズの溶解。 • 配線の不良。 • ファンベルトの緩み。 • バッテリーの故障。 • オルタネータの故障。 • レギュレータの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> • 故障原因を特定して修理し、新しいスローブローヒューズを取り付ける。 • 配線の端子の緩み、アース、短絡を確認し、障害箇所を修理する。 • 規定通りにベルトを張る。 • 端子の緩み、腐食箇所、電解液量を修正するか、新しいバッテリーを取り付ける。 • 販売店に相談する。 • 販売店に相談する。

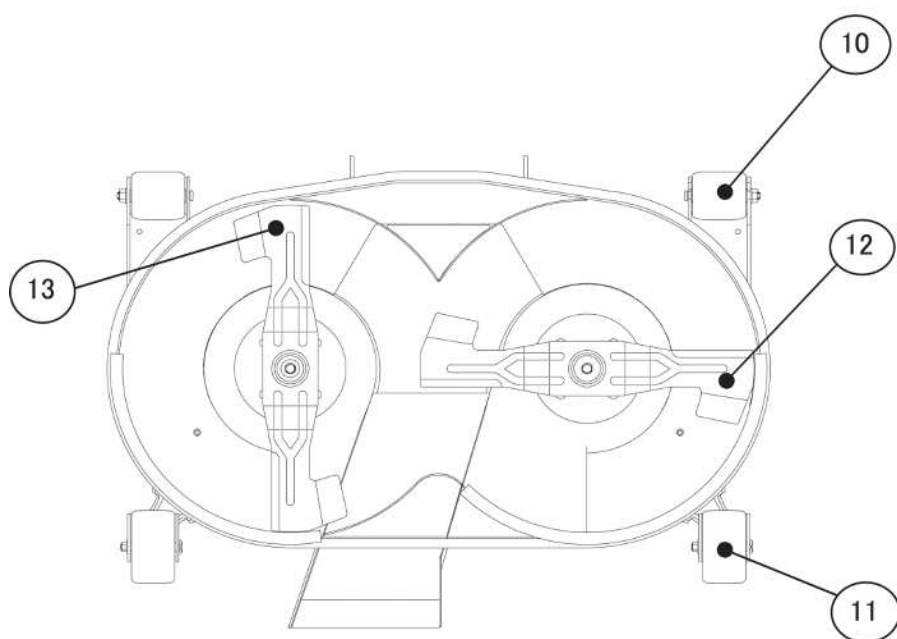
ロータリーモアの不調診断について

故障状況	原因	処理
•ヘッドランプが暗い。	<ul style="list-style-type: none"> •バッテリー容量が少ない。 •スイッチまたは配線の接点の不良。 	<ul style="list-style-type: none"> •バッテリーを充電する。 •接点、アースポイントを清掃し締める。
•ヘッドランプが点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> •電球切れ。 •ヒューズ飛び。 •接点の不良。 	<ul style="list-style-type: none"> •切れた電球を交換する。 •配線を確認し、飛んだヒューズを新しいものに交換する。 •各接点を清掃し確実に締める。
•モニタランプが点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> •接点の不良。 	<ul style="list-style-type: none"> •コネクタを接続し直す。
•コレクタダンプシリンダが機能しない。	<ul style="list-style-type: none"> •バッテリー容量が少ない。 •レギュレータの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> •販売店に相談する。 •販売店に相談する。
•燃料ポンプが機能しない。	<ul style="list-style-type: none"> •ヒューズ飛び。 •燃料ポンプの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> •配線を確認し、飛んだヒューズを新しいものに交換する。 •販売店に相談する。
•燃料遮断弁が機能しない。	<ul style="list-style-type: none"> •ヒューズ飛び。 •遮断弁の故障。 	<ul style="list-style-type: none"> •配線を確認し、飛んだヒューズを新しいものに交換する。 •販売店に相談する。

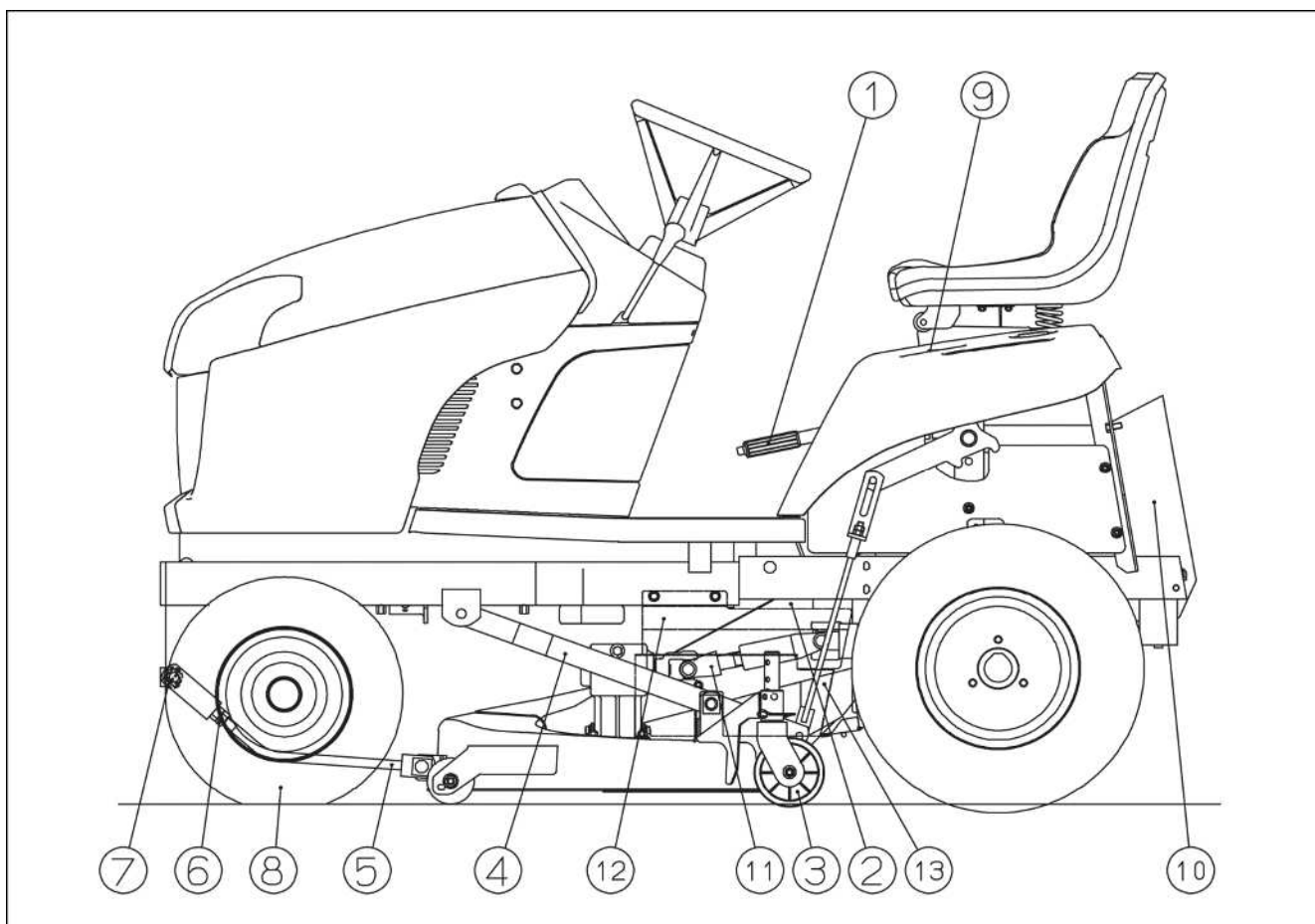
モアの主要コンポーネントの名称



- (1) モアデッキ
- (2) 駆動軸
- (3) 軸カバー
- (4) ウォータホースプラグ
- (5) 入力ベベルギヤケース
- (6) 軸心
- (7) カップリング
- (8) ベベルギヤケース (右側)
- (9) 排出口カバー
- (10) フロントローラー
- (11) ゲージホイール
- (12) 刃 (左側)
- (13) 刃 (右側)
- (14) ピン/モアマウント



モアデッキの取付け、取外し



- | | | | |
|--------------|------------|--------------|------------------|
| (1) 昇降レバー | (4) 後方リンク | (7) リングクリップ | (10) シュート |
| (2) モア排出口カバー | (5) 前方リンク | (8) 前輪 | (11) 駆動軸 |
| (3) ゲージホイール | (6) ロックナット | (9) 高さ調整ダイヤル | (12) ジョイントカバー |
| | | | (13) ジョイントカバー/モア |

モアデッキの取付け、取外し

警告

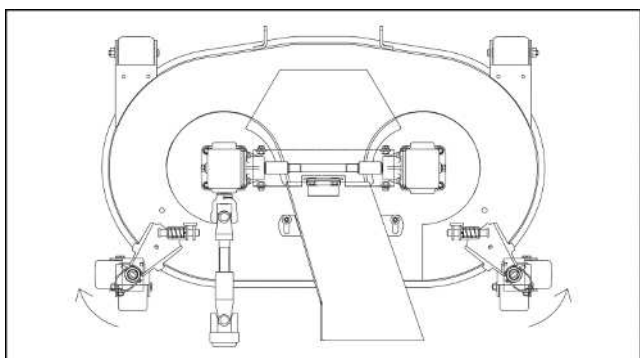
- モアデッキを機械に脱着するときは、
- 平坦で固い地面の上で行ってください。
 - 駐車ブレーキを確実に掛けてください。
 - PTO レバーを STOP (🛑) 位置にします。

モアデッキの取付け

モアデッキを機械に取り付け、その後、駆動軸を連結します。

■ モアデッキの取付け

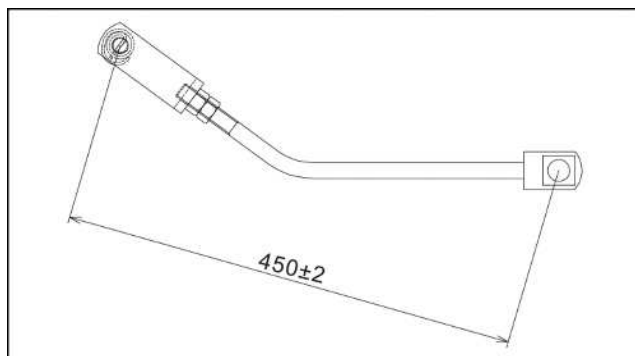
1. ジョイントカバー⑫を取り外します。
昇降レバー①でモアリンクを最高位置まで持ち上げます。
高さ調整ダイヤル⑨を最低位置にセットします。
2. モアデッキのゲージホイール③を最低位置にセットします (71 ページを参照)。
3. モアデッキを取り付ける前に、リアゲージホイール③を左右にセットします。



4. モアデッキを機械の下に置きます。
5. モアデッキの排出口カバー②を機械のシュート⑩に差し込みます。
6. 後方リンク④をピンでモアデッキに取り付けます。
7. 駆動軸⑪を機械に取り付けます。
8. 前方リンク⑤を機械、モアデッキに取り付けます。
ジョイントカバー⑬⑭を取り付けます。
9. 昇降レバー①を引いて、モアデッキを持ち上げます。
10. モアデッキのゲージホイール③をまっすぐにセットします。

重要

- モアデッキを脱着するときは、高さ調整ダイヤル⑨をいっぱい回してモアデッキを下げてください。
- モアデッキを取り付けるときは、モアデッキの底面と地面の間隔が 135mm あることを確認してください。
- モアデッキが前後に傾いているときは、前方リンク⑤の長さを調整してください。
前方に傾いているときは、前方リンク⑤の長さを短くしてください。
後方に傾いているときは、前方リンク⑤の長さを長くしてください。



モアデッキの取外し

取付けと逆の順番でモアデッキを取り外します。最初に駆動軸を取り外し、次にモアデッキを取り外してください。

注意

必ず機械の PTO 軸のユニバーサルジョイントを外してください。

重要

必ず取り外した部品を保管してください。

モアの操作

操作前

注意

- 草刈り作業を開始する前に、必ず標準コレクタまたはデフレクタを装備してください。コレクタまたはデフレクタを取り付けずに草刈りをしてください。ロータリーモアによって芝、石などが飛散し、非常に危険です。
- ロータリーモアの運転方法を理解し、本書をよく読んで、安全注意事項を頭に入れてください。
- すべてのセーフティカバー、ガードが取り付けられていることを確認してください。
- 刃のボルトが確実に締められていることを確認してください。
- ロータリーモアを作業場に移動する前に、作業場全体を確認し、安全に作業するために、石、木材、空き缶、ピン、ワイヤなどの障害物をすべて取り除いてください。
- ロータリーモアの操作により、子供、動物、居合わせた人が負傷し、木、建物などが損傷することがないようにしてください。
- ロータリーモアの転倒、落下、横滑りなどの事故を防ぐため、隆起、溝、土手、段差、坂、傾斜、軟弱地盤、水たまりなどがいないか、事前に圃場をチェックしてください。

2. 必要な刈高さに合わせて設定穴を選び、ピンを差し込んでスプリングクリップピンで固定します。設定穴と刈高さの関係を示したラベルがモアデッキに貼られています。

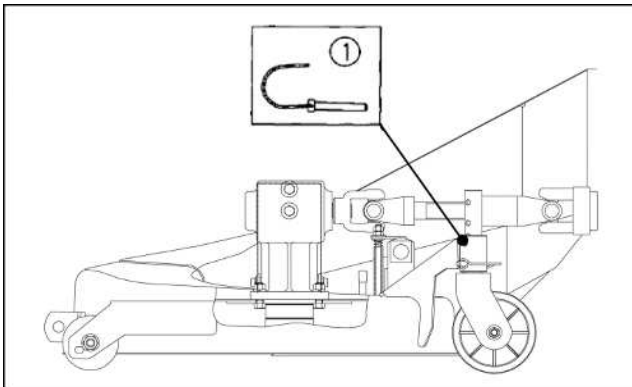
120 (4.7)	H	Y — A
90 (3.5)	H	Y — B
70 (2.8)	H	Y — C
60 (2.4)	H	X — B
50 (2.0)	H	Y — D
40 (1.6)	H	X — C
30 (1.2)	L	Y — E

3. 左右のゲージホイールは同じ刈高さに設定する必要があります。
4. 昇降レバーでモアデッキを下げます。

注意

昇降レバーを操作する前に運転席に座り、安全を確認してからモアデッキを下げてください。

刈高さ調整



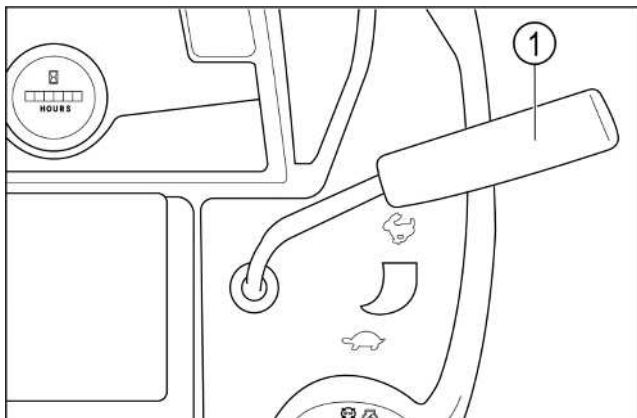
(1) スプリングクリップピン

1. 昇降レバーでモアデッキを持ち上げます。

モアの操作

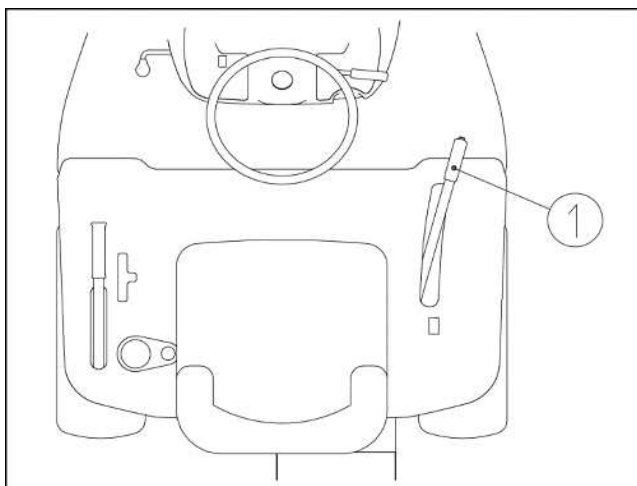
草刈り作業の開始

1. エンジンを始動し、スロットルレバーを低速 (🐢) 位置と高速 (🐇) 位置の間の中速位置にします。



(1) スロットルレバー

2. 昇降レバーを引いてモアデッキを持ち上げます。



(1) 昇降レバー

3. 駐車ブレーキを解除します。
4. HST 前進ペダルをゆっくりと踏み込んで、機械を作業場に移動します。

注意

作業を開始する前に、リアゲージホイールを前進にセットし、芝生をいためないようにインサートピンでロックしてください。

5. HST ペダルからゆっくりと足を離してロータリーモアを停止します。
6. 昇降レバーでモアデッキを下げます。
7. コレクタを最下位置まで下げます。(コレクタ装着時)

8. PTO レバーを ON (🔘) 位置にします。

重要

コレクタが最下位置でないとき、PTO レバーを ON (🔘) 位置にすると、エンジンが停止します。

重要

PTO クラッチを入れると、エンジン回転数が安全な回転数まで下がります。

重要

PTO を入れた状態でロータリーモアを後進した場合、後進速度は 1 km/h に制限されます。

⚠️ 注意

モアに問題が発生したときは、すぐに販売店に修理を依頼してください。

⚠️ 警告

- PTO レバーが ON (🔘) 位置になるとすぐに、刈刃が回転し始め刈り取った草や石が排出口から排出されます。そのため、PTO レバーを操作する前に、排出した草や石が届く範囲に人や動物がいないこと、建物、車などの物がいないことを確認してください。
- 刈刃は、芝地や牧草地でのみ、モアデッキを下げた状態で作動させてください

9. スロットルレバーを高速位置 (🐇) にしてエンジン回転数を上げます。

10. HST 前進ペダルを徐々に踏み込むと、ロータリーモアが走行を開始します。

⚠️ 注意

必ず十分な低速で草刈りを開始し、徐々に走行速度を上げてください。

重要

ハンドルの下にある吸気口のスクリーン、ラジエータスクリーンは常にきれいにしておいてください。スクリーンが目詰まりした状態で操作を続けしないでください。エンジンがオーバーヒートし、エンジンの焼付きを招くおそれがあります。

モアの操作

モアデッキ、草が詰まったシュートの清掃

刈った草がモアデッキから排出されない場合や、モアのシュートが詰まっている場合は、すぐに作業を中止し、詰まった草を取り除いてください。

シュート③内の排出口が詰まっている場合

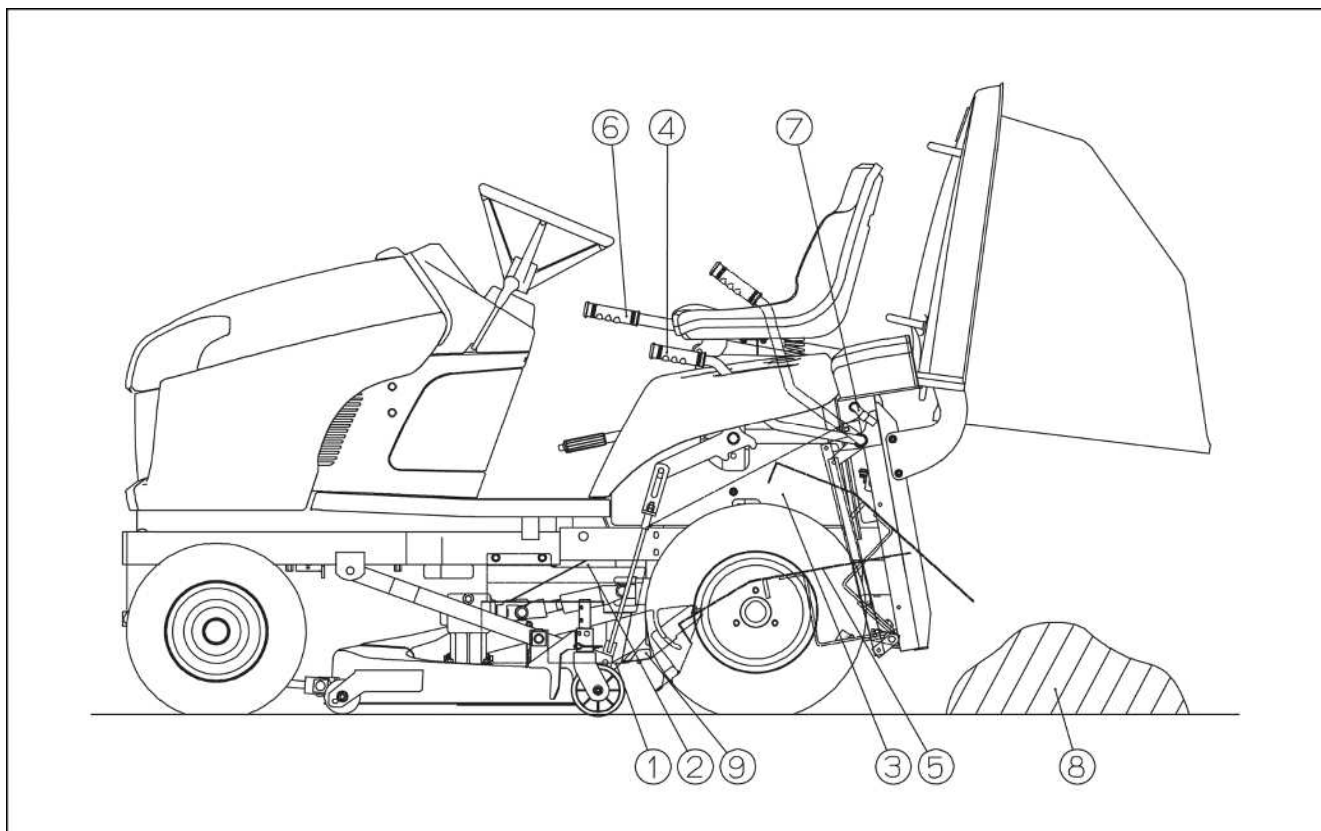
1. PTO レバーを OFF (☒) 位置にし、昇降レバーを上移動して、モアデッキを最高位置まで上昇させます。
2. ダンプレバー⑥を下に移動するか、ダンプスイッチ (LAE タイプ) を押して、コレクタの中身を捨てます。
3. エンジンを停止し、スタータキーを抜きます。

4. クリーニングレバー④を引き上げ、シュート③から詰まった草⑧を取り除きます。
5. 底板⑨を押し下げ、シュートの正面に詰まった草を取り除きます。

危険

シュートやモアデッキから詰まった草を取り除く前に、エンジンを停止し、スタータキーを寝てください。

6. クリーニングスティック⑦で残りの草をかき出します。



- | | | |
|--------------|----------------|-----------------|
| (1) モアデッキ下板 | (4) クリーニングレバー | (7) クリーニングスティック |
| (2) モア排出口カバー | (5) クリーニングプレート | (8) 詰まった草 |
| (3) シュート | (6) コレクタダンプレバー | (9) 底板 |

モアの操作

緊急停止

- 以下の異常が発生したときは、すぐに機械、モアデッキを停止してください。
 - 異音
 - 異常振動
 - 異臭
 - 刃の障害物への衝突
 - 機械の障害物への衝突
- 問題の原因を特定し、すぐに修正してください。または、販売店にご相談ください。問題の原因を特定、修正せずに、機械の操作を継続しないでください。異物に衝突したときは、モアを点検して破損がないか確認し、モアを再始動し操作する前に修理を行ってください。
- 作業者が運転席から離れると安全システムによりエンジンが自動的に停止します。小枝、小石などの障害物を取り除くために機械を離れるときは、PTOレバーをOFF位置にし、駐車ブレーキを掛けてください。

草刈り作業の中止

1. HST ペダルから足を離します。
2. スロットルレバーを低速位置 (👉) にしてエンジンを減速します。
3. ブレーキペダルをロックします。



注意

機械を平坦で固い地面に駐車し、ブレーキペダルのロックが確実に掛かっていることを確認してください。

4. PTO レバーを STOP (🛑) 位置にします。
5. スタータスイッチを STOP (🛑) 位置にしてエンジンを停止します。

重要

• 高速で動作しているときは、絶対にエンジンを不意に停止しないでください。
• 長時間の運転後は約 5 分間エンジンをアイドリングしてから、エンジンを停止してください。エンジンを不意に停止させた場合、オーバーヒートにより焼付きが生じるおそれがあります。

6. 必ずスタータキーを抜いてください。

効率的な草刈り

重要

- 必ずフルスロットル (👉) で草刈りを行ってください。
- 切断する草の高さなどの条件に応じて十分な走行速度を選択してください。
- 吸気口およびラジエータのスクリーンにゴミが詰まっているときは、すぐに清掃してください。スクリーンが目詰まりしている状態で作業を継続しないでください。
- モアの詰まりを防ぐため、できれば午後や夕方など草に露が付いていないときに草刈りを行ってください。
- モアデッキをきれいに保ってください。
- 刃端に損傷がないか確認してください (77 ページを参照)。
- 草が高く生長する前に頻繁に刈ることを推奨します。
- 短く刈りすぎると芝生を傷めるおそれがあります。緑の芝生を維持するため、芝生の長さの 1/3 以上を刈らないでください。

- 走行速度が低速の方がきれいに草刈りを行えます。機械が振動しない走行速度を選択してください。
- 急旋回すると芝生を傷めます。旋回するときは十分に速度を落としてください。
- 刈刃を頻繁に研ぐと仕上がりが美しく、装置への負荷が減って経済的な運転につながります。

1. 背の高い草を刈る場合

- i. 2 回に分けて草刈りを行ってください。最初に次の仕上げに十分な高さまで草を刈ります。次に想定した高さに仕上げます。2 回目の走行は左右に 20cm ずらすか 1 回目の走行と直角になるようにすると美しく均等に仕上がります。
- ii. 1 回の走行で仕上げるときは十分に遅い走行速度を選択してください。また、場合によっては、通常作業の切断幅の半分または 1/3 に設定する必要があります。

2. 濡った草や濡れた地面で草刈りを行う場合

- i. タイヤによる芝生の損傷のおそれがある場合は、芝生や地面が十分に乾くまで待ってください。
- ii. 濡れた草を刈るときは運転中の刈高さが予想よりも低くなりがちのため、乾いた草を刈るときよりも高い刈高さに設定する必要があります。
- iii. 十分に遅い走行速度を選択し、急発進、急旋回、急停止は避けてください。芝生を傷めるおそれがあります。

モアの操作

3. 湿り気の少ない草や枯れ草を刈る場合

- i. 風向を考慮に入れ、ゴミが作業者に当たらない方向に前進してください。
- ii. 吸気口のスクリーンが目詰まりしないように作業してください。

重要

- ホコリの多い環境で機械を操作するときは、冷却水温度警告灯に注意してください。
- スクリーンが詰まったときは、作業を継続しないでください。エンジンの故障を招くおそれがあります。

モアの主要部品の点検、保守

⚠ 注意

- ・機械の点検整備は、平坦で固い地面の上で行ってください。
- ・エンジンを停止しスタータキーを抜いてください。
- ・駐車ブレーキを確実に掛けてください。
- ・昇降レバーを押し下げて(↓)モアを地面まで下げてください。
- ・PTOレバーをSTOP位置(🛑)にします。
- ・エンジンが十分に冷えてから機械の点検整備を行ってください。

これらの項目を念頭に置いて、事前に安全を確認してから保守作業を開始してください。

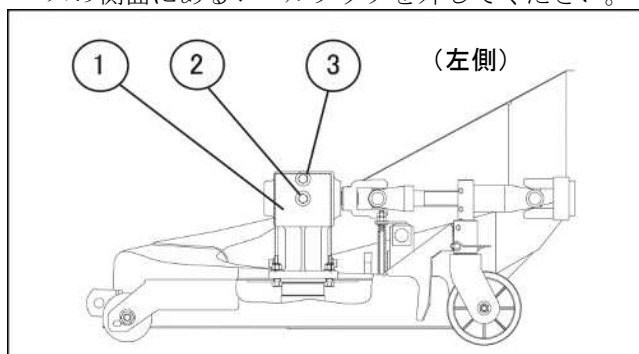
ベベルギヤケースの点検、交換

- ・ベベルギヤケースのオイル量の点検

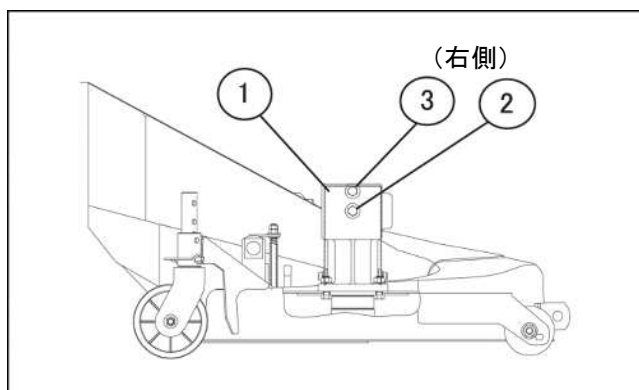
重要

50時間ごとにオイル量を確認してください。

1. ベベルギヤケース（左側、右側）：ベベルギヤケースの側面にあるレベルプラグを外してください。



- (1) ベベルギヤケース（左側） (3) 注油プラグ
(2) レベルプラグ



- (1) ベベルギヤケース（右側） (3) 注油プラグ
(2) レベルプラグ

2. レベルプラグの穴から少量のオイルがあふれているか確認してください。あふれている場合、量は正常です。あふれていないときは、オイル差しなどを使用してプラグ穴からギヤオイル SAE80 を補充してください。

オイル	ギヤオイル SAE80	
容量	各ベベルギヤケース	0.3 リットル

重要

レベルプラグを取り付ける前に、必ずねじ山をシールテープで覆ってください。オイルがプラグから漏れるおそれがあります。

- ・オイルの交換

重要

オイルの交換は最初の運転から 50 時間後に行い、その後は 300 時間ごとに交換してください。

1. レベルプラグ、注油プラグを抜きます。その後、ギヤケースを傾けてオイルをすべて排出します。
2. 注油プラグからギヤオイルを補給します。
3. プラグのねじ山をシールテープで覆い、取り付け直します。

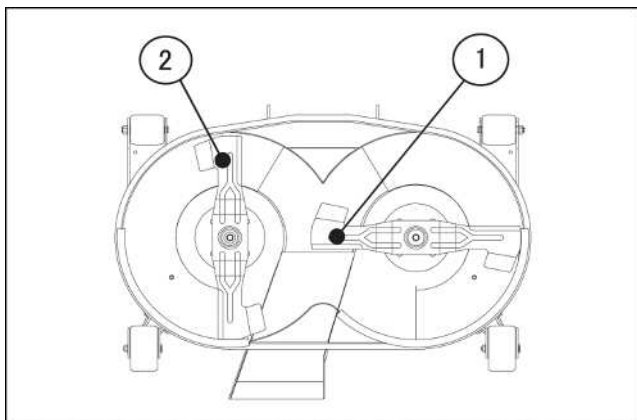
重要

ギヤケースマウントに漏れたオイルを布で完全に拭き取ってください。

モアの主要部品の点検、保守

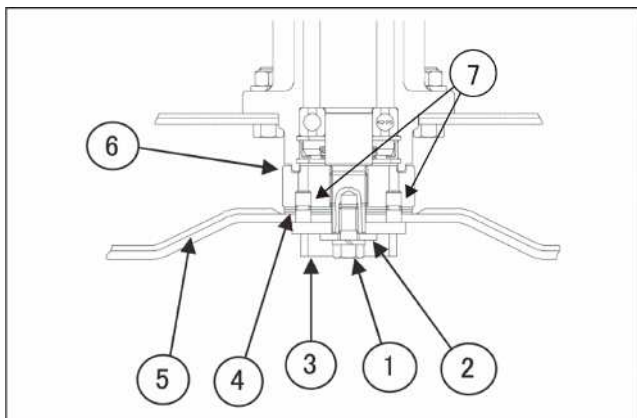
刃の点検、交換

・左右の位置の点検



- (1) 刃 (左側)
(2) 刃 (右側)

1. 左側の刃①と右側の刃②が互いに直角になっていることを確認してください。
2. 刃が直角でない場合は以下の方法で調整してください。



- (1) ボルト (M10) (3) プレート (5) 刃
(2) ワッシャ (4) シム (1.2) (6) カラー (刃)
(7) シアピン

1. 刃⑤のボルト①のうち1つを取り外します。
2. カラー⑥アセンブリを取り外します。
3. 左側の刃①と右側の刃②が互いに直角になるように、カラー⑥アセンブリを取り付けます。

4. 木片で刃を固定してボルト①を締めます。

締付トルク : 590kgf・cm

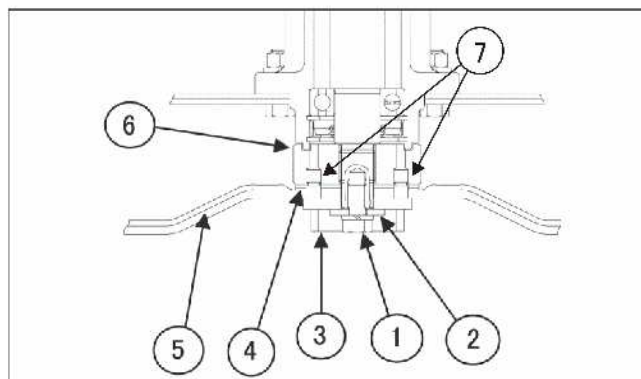
5. 刃を取り付けたら、刃を手で回して問題がないことを確認します。

⚠ 危険

刃に触れないでください。刃を取り扱う前に手袋をしてください。

・刃の高さの点検

1. 左側の刃と右側の刃⑤のボルト①を外し、次にワッシャ②、プレート③、刃⑤、シム④を外します。
2. シム④を刃の上または下に置き、シム④の位置を変更して刃の高さを調整します。
3. 両方の刃の頭部の高さが同じであることを確認します。



- (1) ボルト (M10) (3) プレート (5) 刃
(2) ワッシャ (4) シム (1.2) (6) カラー (刃)
(7) シアピン

⚠ 注意

それぞれの刃に 3 つのシムが取り付けられています。それぞれの刃のシムの数が 3 であることを確認してください。それぞれの刃に 3 つのシムが取り付けられていないと、刃、ベベルギヤケースが損傷するおそれがあります。

・刃の点検 ・交換

1. モアデッキを上下逆さにします。

⚠ 注意

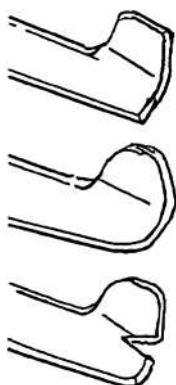
モアデッキを上下逆さにするときは、足にぶつけないように注意してください。

2. 刈刃の変形、損傷を確認します。

モアの主要部品の点検、保守

重要

- 刃端が摩耗により丸くなっているときに刃のクリアランスを大きくすると、草が切断されません。刃の確認を適時行い、摩耗した刃はすぐに交換してください。
- 刈高さを低くしたり、砂及び石が多い場所で運転を行った場合、刃が急速に摩耗します。刃のチェックをより頻繁に行ってください。



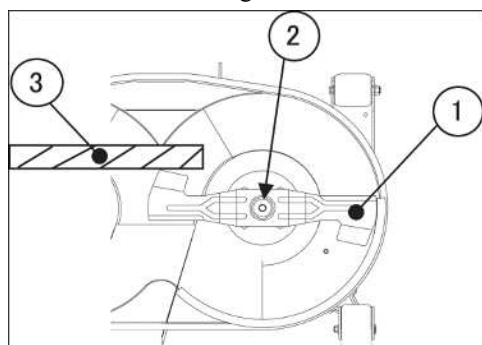
- a. 新しい刃
- b. 端が丸くなった刃
- c. 過度に摩耗した刃は非常に危険です。すぐに新しい刃と交換してください。

重要

シアピンは、刃が大きな衝撃を受けた時にシアピンが折れることで機械を保護します。

3. 刃が損傷や摩耗していたら、①刃とモアデッキの下図位置に③木片を入れてください。
4. ②ボルトを緩めて刃を取り外してください。新しい刃と新しいボルトで取り付けます。
5. 刃を固定した状態で、刃のボルトを規定トルクで締め付けてください。

締め付トルク： 590 kgf-cm



(1) 刃 (2) ボルト (M10) (5) 木材

⚠ 危険

刃を交換するときは必ず新しいボルトを使用してください。

重要

刃を手で回して、モアデッキと接触しないことを確認してください。

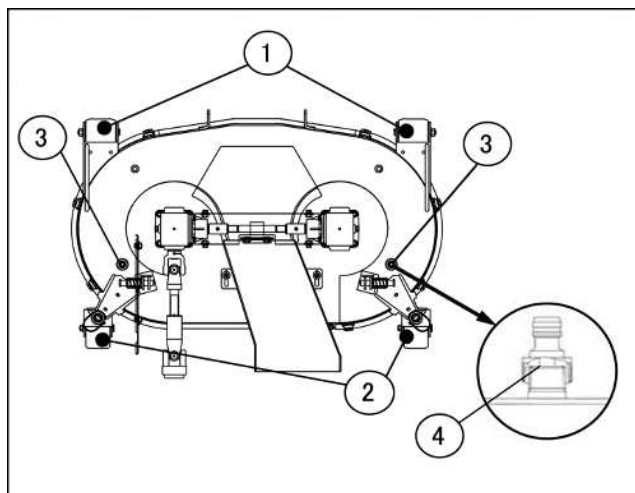
6. モアデッキごとに2種類の刃があります。刃を正しい位置に取り付けてください。
7. 70 ページの「モアデッキの取付け、取外し」を参照して、モアデッキを機械に正しく連結してください。

ゲージホイールの点検

ゲージホイールはモアの後部に取り付けられているため、他の部品よりも障害物が衝突して変形しやすくなっています。ホイールがスムーズに回らないときや変形しているときは、すぐに新しいゲージホイールと交換してください。

ローラーの点検

ローラーがスムーズに回ることを確認してください。



- (1) フロントローラー (3) ウォータホースプラグ
(2) ゲージホイール (4) プレート

重要

- ホイール、ローラーがスムーズに回転しないときは、取り外して清掃してください。
- 取り付け直すときは、必ずグリスを十分に塗布してください。

モアの主要部品の点検、保守

モアデッキの清掃

1. 運転前に軸カバーを取り外し、カバー下にたまった草やゴミを取り除いてください。さもないと、ベアリング、オイルシールが破損します。



清掃後は必ず取り外したカバーを元に戻してください。

2. ウォータホースプラグ③の使用前に、ウォータホースプラグからプレート④を取り外してください。ウォータホースプラグからモアデッキに水を注ぎ、刃を回します。
3. 草刈り後は、モアデッキの下側、ブレードを清掃し、たまった草やゴミを取り除いてください。特に濡れた草を刈った後は、必ず洗い流してください。濡れた草やゴミをたまったままにすると、性能が劣化します。

重要

ウォータホースプラグ③の使用後は、プレート④をウォータホースプラグに取り付け直してください。

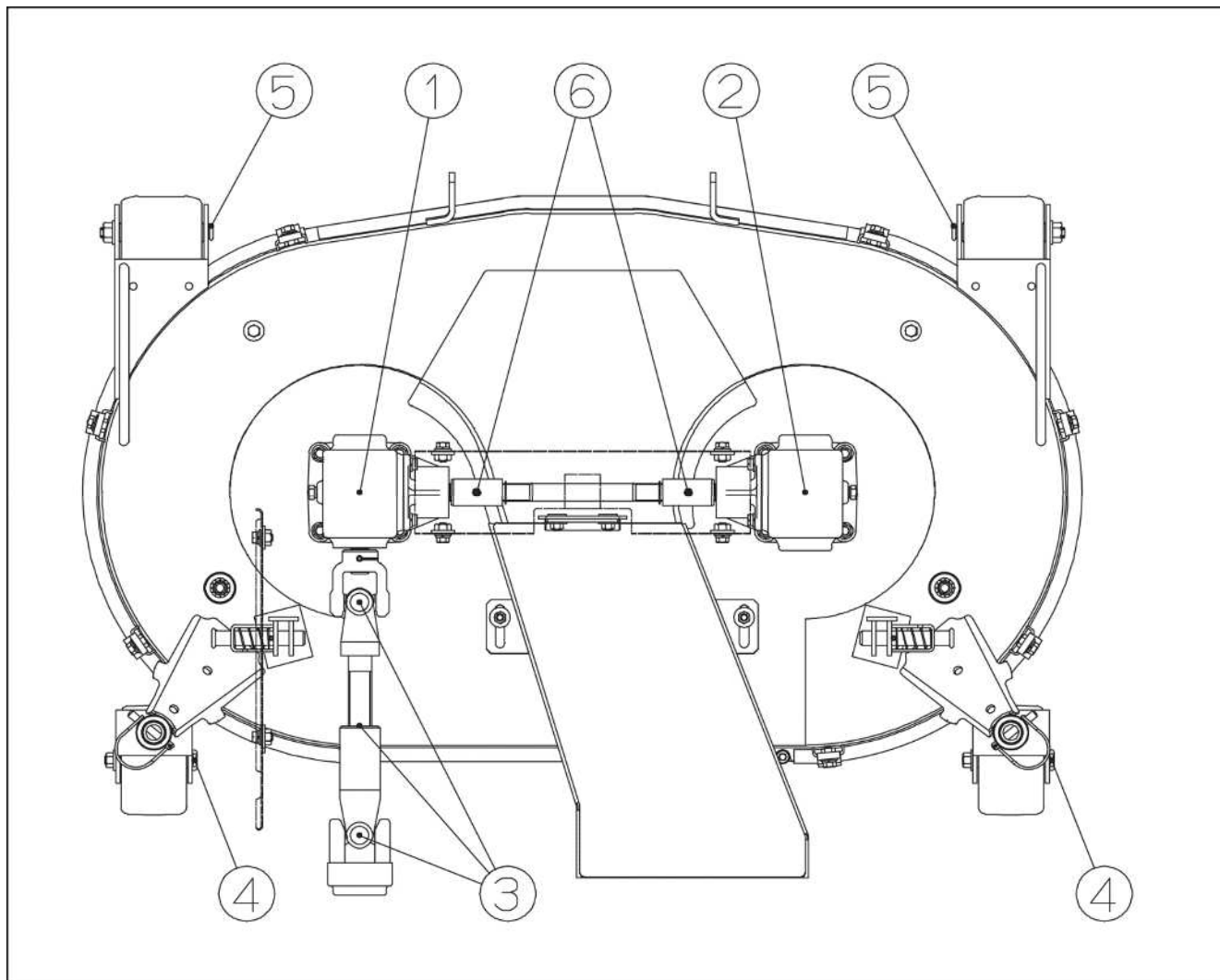


水を注いでモアデッキを洗浄するときは、必ずエンジンを減速してください。

モアの主要部品の点検、保守

給油・給脂一覧

以下の軸の端にはすべてグリスが塗布されています。定期的にごグリスアップを行ってください。また、ギヤケースを定期的に整備し、オイルの補充、交換を行ってください。



参照番号	注油箇所	潤滑油	量：リットル
1	ベベルギヤケース（左側）	ギヤオイルSAE80	0.3
2	ベベルギヤケース（右側）	ギヤオイルSAE80	0.3
3	駆動軸	グリス	グリスがあふれるまで注入してください。
4	ゲージホイール		必要に応じて
5	フロントローラー		必要に応じて
6	駆動軸		

モアの主要部品の点検、保守

定期点検一覧表

○: 点検、補充、調整

●: 交換

チェック箇所	運転前	点検、整備間隔 (運転時間)					以降の間隔	判断基準	参照 ページ
		50	100	150	200	300			
刃	○							変形、破損、摩耗、亀裂が見られた場合は交換する。	77
ベベルギヤケース (左側、右側)		●	○	○	○	●	最初の50時間後に交換し、その後は300時間ごとに交換する。	規定レベルを維持。	76
ローラー、 ゲージホイール	○							スムーズに回ること。	78
給油箇所		○	○	○	○	○	50時間ごとにグリスアップを行う。		80
ボルト、ナット	○							緩みがないこと。	-
ピン、クリップ	○							紛失、変形がないこと。	-

重要

- 上記の点検整備間隔は通常使用時のものです。作業条件が通常よりも厳しい場合は、早期に点検整備を行うことを推奨します。
- 専門技能や専用工具が必要な場合、保守作業が難しい場合は、販売店にご相談ください。

モアの保管

モアデッキを長期間保管するときは、以下のようにデッキを整備してから保管してください。

1. モアデッキを清掃します。特に、刃、モアデッキの下側から草やゴミを取り除いてください。
2. ローラー、軸に絡まっている草などを取り除きます。
3. 軸カバーを取り外し、モアデッキの上部を清掃します。軸に絡まっている草などを取り除いてください。
4. 錆をすべて落とし、塗料がはげた箇所を正規の補修用塗料で補修します。
5. 取り外した部品を必ず元に戻してください。
6. 紛失したピン、クリップがあれば、新しいものに交換します。
7. 各部品の破損を確認し、破損した部品を修理するか新しいものに交換して、次の運転に備えます。

重要

交換時は必ず正規の部品を使用してください。

8. すべての給油箇所のグリスアップを行います。
9. 緩んだボルト、ナットを適切に締め、紛失した場合は新しいものに交換します。
10. 乾いた場所にモアデッキを保管します。下に木れんがを置き、カバーを掛けてください。



注意

モアデッキを機械に取り付けられた状態で保管するときは、子供や許可を得ていない人が昇降レバーを操作し、思わぬ事故が引き起こされるのを防ぐため、地面まで下げてください。

モアの不調診断について

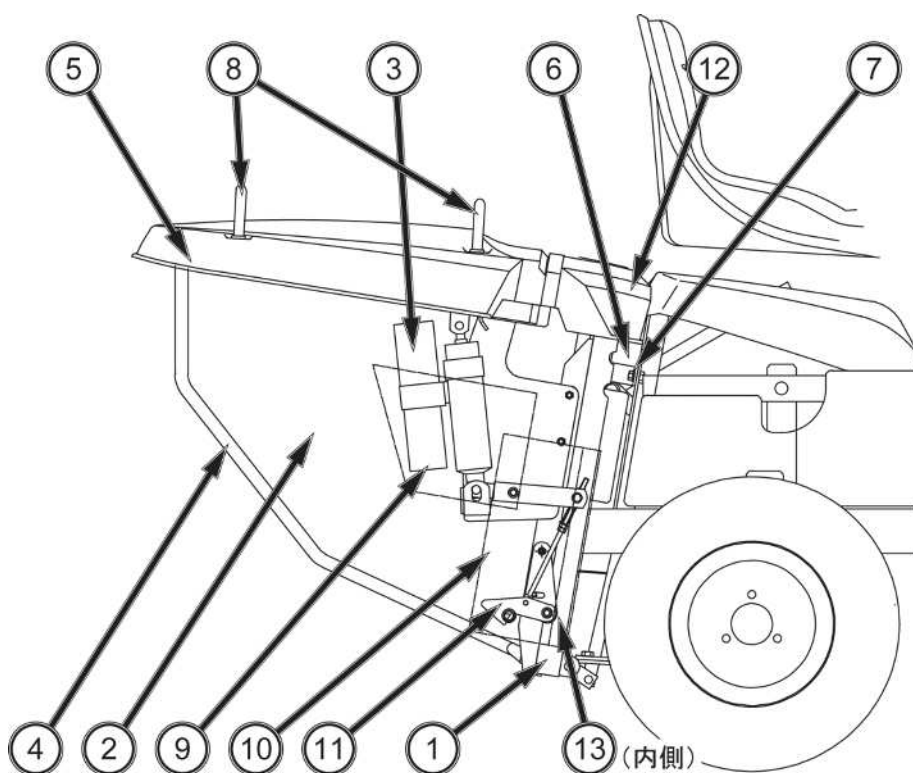
故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> 排出不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ミッドPTOのベルト、ドライブ。 刃が上下逆に取り付けられている。 草が濡れている。 草丈が高すぎる。 走行速度が速すぎる。 エンジン回転数が低すぎる。 排出口、モアデッキ内部の詰まり。 草が密集している。 刃の取付け不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ベルトを確認し調整する。 正しく取り付け直す。 草が乾くまで待つ。 2回に分けて草刈りを行う。 十分に速度を落とす。 エンジンをフルスロットル (🏎️) で作動する。 清掃する。 2回に分けて草刈りを行うか、切断幅を狭くする。 十分に速度を落とす。 刃を適切に取り付ける。
<ul style="list-style-type: none"> 草が刈れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ミッドPTOのベルト、ドライブ。 走行速度が速すぎる。 エンジン回転数が低すぎる。 刃の摩耗、破損。 刃が上下逆に取り付けられている。 刃の取付け不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ベルトテンションスプリングを調節するか、新しいベルトに交換する。 速度を落とす。 エンジンをフルスロットル (🏎️) で作動する。 新しいものと交換する。 正しく取り付け直す。 刃を適切に取り付ける。
<ul style="list-style-type: none"> 刈高さが不均一。 	<ul style="list-style-type: none"> モアが地面に対して平行でない。 走行速度が速すぎる。 刃の摩耗。 モアデッキ内に草が詰まっている。 ゲージホイールの調整不良。 草丈が高すぎる。 2つの刃が同じ高さ、正しい角度で取り付けられていない。 刃の変形。 	<ul style="list-style-type: none"> モアの取付けを調整する。 速度を落とす。 新しいものと交換する。 清掃する。 適切に調整する。 2回に分けて草刈りを行う シムで補正し、刃を正しくセットする。 新しいものと交換する。
<ul style="list-style-type: none"> 芝生がはがれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 刈高さが低すぎる。 モアが地面に対して平行でない。 旋回速度が速すぎる。 地面の段差が大きすぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲージホイールで補正する。 モアの取付けを調整する。 ゆっくりと旋回する。 刈る方向を変える。
<ul style="list-style-type: none"> 騒音、振動が大きすぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> 刃の破損、バランス不良。 刃の締付ボルトが緩んでいる。 モア内に草が詰まっている。 ミッドPTOベルトの張りが弱い。 ジョイントカバーの変形、干渉。 ギヤの破損。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しいものと交換する。 590 kgf・cmで締め直す。 清掃する。 ベルトの張りを調整する。 修理する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> エンジン出力が低すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> エンジン回転数が低すぎる。 走行速度が速すぎる。 異物が刃と刃の支持部の間に挟まっている。 エンジンの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> フルスロットル (🏎️) で草刈りを行う。 速度を落とす。 清掃する。 販売店に相談する。
<ul style="list-style-type: none"> ゲージホイールが回らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 異物が軸に挟まっている。 ホイールの破損。 グリス不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃する。 新しいものと交換する。 グリスを塗布する。

モアの不調診断について

故障状況	原因	処理
• 刃が回転しない。	<ul style="list-style-type: none">• 刃の締付ボルトが緩んでいる。• 異物が刃または刃の支持部に挟まっている。• シアピンの破損。• ギヤの破損。• ミッドPTOベルトの滑り、破損。	<ul style="list-style-type: none">• 590 kgf・cmで締め直す。• 清掃する。• 新しいものと交換する。• 販売店に相談する。• PTOケーブルを調整するか新しいベルトに交換する。
• モアが上昇しない。	<ul style="list-style-type: none">• モアデッキの内部に草や泥が詰まっている。	<ul style="list-style-type: none">• 清掃する。

コレクタの主要コンポーネントの名称

(アシストシリンダ付きローダンプコレクタ)



- (1) コレクタフレーム
- (2) コンテナ
- (3) ダンプシリンダ
- (4) コンテナフレーム
- (5) 上部カバー
- (6) クリーニングスティック
- (7) 取付けナット
- (8) ハンドル
- (9) シリンダカバー
- (10) リンクカバー
- (11) ロックプレート
- (12) サブカバー
- (13) フルセンサ

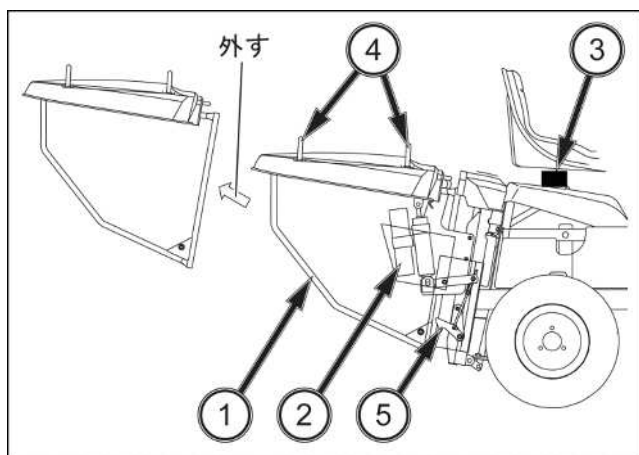
コレクタの取付け、取外し

警告

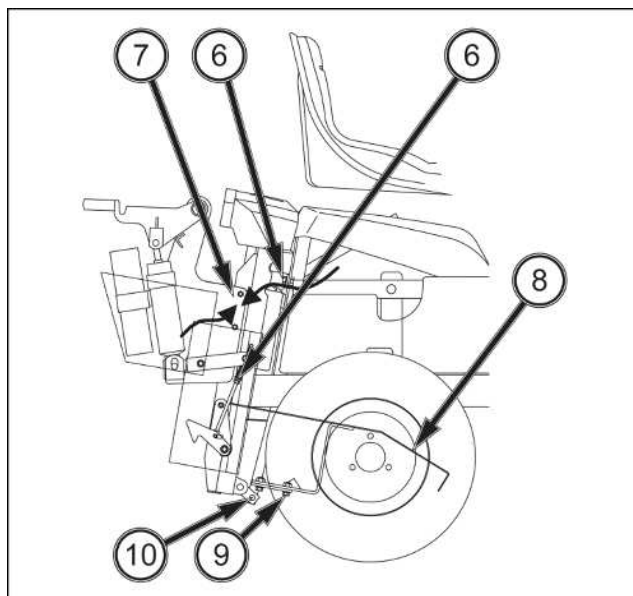
- コレクタをモアデッキに脱着するときは、
- ・平坦で固い地面の上で行ってください。
 - ・駐車ブレーキを確実に掛けてください。
 - ・PTO レバーを STOP (🛑) 位置にします。
 - ・エンジンを始動しないでください。

ローダンプコレクタの取外し

1. コレクタダンプスイッチ③を押して、ダンプシリンダ②を伸ばした後、ロックをロックプレート⑤から外します。
2. コンテナ①をハンドル④でつかみ、後部を最初に持ち上げて取り外します。



3. クリーニングプレート⑧、COMP ピン⑩を固定している4つのボルト⑨を外します。
4. クリーニングプレート⑧をシュートから取り外します。
5. コレクタの電気コネクタ⑦をメインハーネスから外します。
 - ・シリンダのハーネス.....コレクタフレームの右上
 - ・コレクタのセーフティスイッチのハーネス (ワンポイント)コレクタフレームの左上



6. コレクタフレームを機械に固定している2つのボルトと2つのナット⑥を外し、コレクタフレームを取り外します。

- | | |
|-----------------|----------------|
| (1) コンテナ | (6) 取付けボルト、ナット |
| (2) ダンプシリンダ | (7) 電気コネクタ |
| (3) コレクタダンプスイッチ | (8) クリーニングプレート |
| (4) ハンドル | (9) 取付けボルト |
| (5) ロックプレート | (10) COMPピン |

ローダンプコレクタの取付け

取り外しと逆の順番でコレクタを取り付けます。

重要

取り外した部品を必ず保管してください。

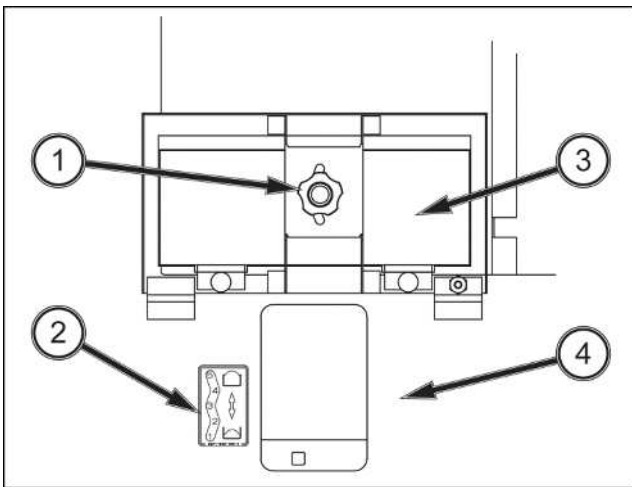
コレクタの操作

操作前

⚠ 注意

- ・ロータリーモアの運転方法を理解し、本書をよく読んで安全注意事項を頭に入れてください。
- ・すべてのセーフティカバー、ガードが取り付けられていることを確認してください。
- ・コレクタを操作する前に、コレクタがスムーズに開閉することを確認してください。

グラスリミットセンサの調整



- (1) アジャスタボルト (3) センサプレート
(2) 調整位置銘板 (4) コレクタフレーム

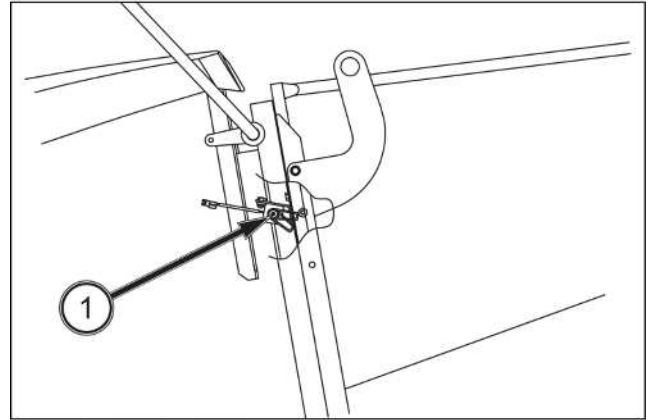
1. コンテナの充填速度はアジャスタボルト①を調整して変更します。
2. グラスリミットセンサのブザーを確認します。スタータスイッチを ON 位置にセットし（エンジンを始動しないでください）、PTO レバーを ON にセットします。センサプレート③を押したときにブザーが鳴ることを確認します。

⚠ 注意

ブザーの確認後、必ずスタータスイッチ、PTO レバーを OFF にしてください。

作業前点検

- ・作業前に、以下の箇所を点検してください。



(1) セーフティスイッチ

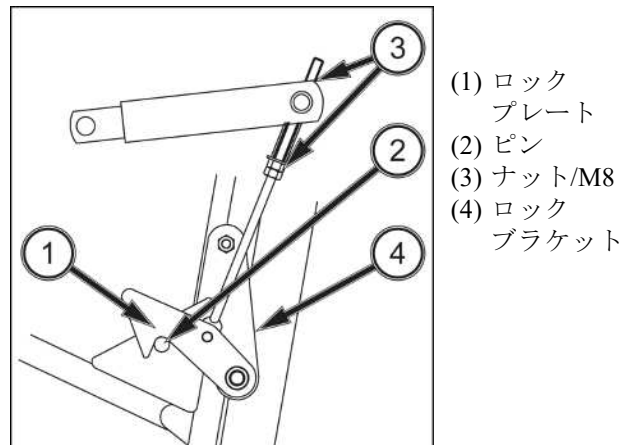
1. 刃の回転中に作業者がダンプコンテナを始動するとすぐにエンジンが停止することを確認してください。

⚠ 危険

セーフティスイッチにより、モアデッキの刃の回転中にコネクタの中身を捨てたときに、エンジンを強制的に停止します。草刈り作業を行う前に、この機能が正常に機能することを必ず確認してください。

コレクタの操作

SBC402X-LAE4



- (1) ロックプレート
(2) ピン
(3) ナット/M8
(4) ロックブラケット

開：コンテナダンプスイッチの「UP」位置を押します。
閉：コンテナダンプスイッチの「DOWN」位置を押します。

コレクタの操作

草が排出されたことを確認した後、コンテナを閉めます。

コンテナが閉じられている場合でも、ロックプレート①がピン②で完全にロックされるまで、スイッチを押し続けてください。

ロックプレート①とピン②のクリアランスが大きすぎる場合は、ナット/M8③を調整してロックブラケット④を下げます。



注意

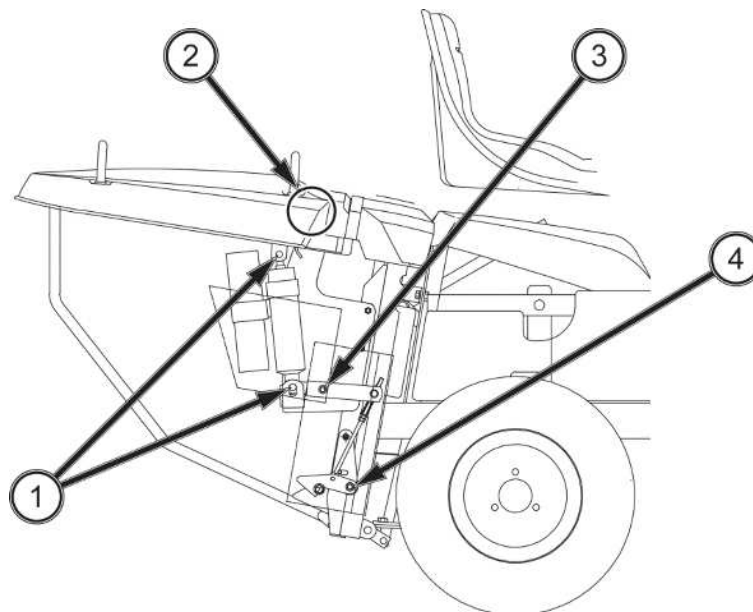
コンテナを開閉した後は、コンテナダンプスイッチを 30 秒以上押し続けしないでください。シリンダが破損するおそれがあります。

コレクタの主要部品の点検、保守

給油・給脂一覧

以下の箇所をグリスアップを定期的に行ってください。

(ローダンプコレクタ)



参照番号	注油箇所	潤滑油	量
1	ダンプシリンダ	オイルまたはグリス	必要に応じて
2	ダンプリンク		
3	ロックリンク		
4	ロックプレート		

定期点検一覧表

○: 点検、補充、調整 △: 紛失、変形時
●: 緩んでいる場合は修正 ★: 目詰まりしない。

チェック箇所	運転前	点検、整備間隔 (運転時間)					以降の間隔	判断基準	参照ページ
		50	100	150	200	250			
給油箇所		○	○	○	○	○	50時間ごとにグリスアップを行う。		89
ボルト、ナット	○							●	-
ピン、クリップ	○							△	-
コンテナネット	○							★	-

重要

- 上記の点検整備間隔は通常使用時のものです。作業条件が通常よりも厳しい場合は、早期に点検整備を行うことを推奨します。
- 専門技能や専用工具が必要な場合、保守作業が難しい場合は、販売店にご相談ください。

コレクタの保管

コレクタを長期間保管するときは、以下のようにコレクタを整備してから保管してください。

1. コレクタを掃除します。特にコンテナネットから草やゴミを取り除いてください。
2. リンクに絡まっている草などを取り除きます。
3. 錆をすべて落とし、塗料がはげた箇所を正規の補修用塗料で補修します。
4. 取り外した部品を必ず元に戻してください。
5. 紛失したピン、クリップがあれば、新しいものに交換します。
6. 各部品の破損を確認し、破損した部品を修理するか新しいものに交換して、次の運転に備えます。

重要

交換時は必ず正規の部品を使用してください。

7. すべての給油箇所のグリスアップを行います。
8. 緩んだボルト、ナットを適切に締め、紛失した場合は新しいものに交換します。
9. 乾いた場所にコレクタを保管します。下に木れんがを置き、カバーを掛けてください。



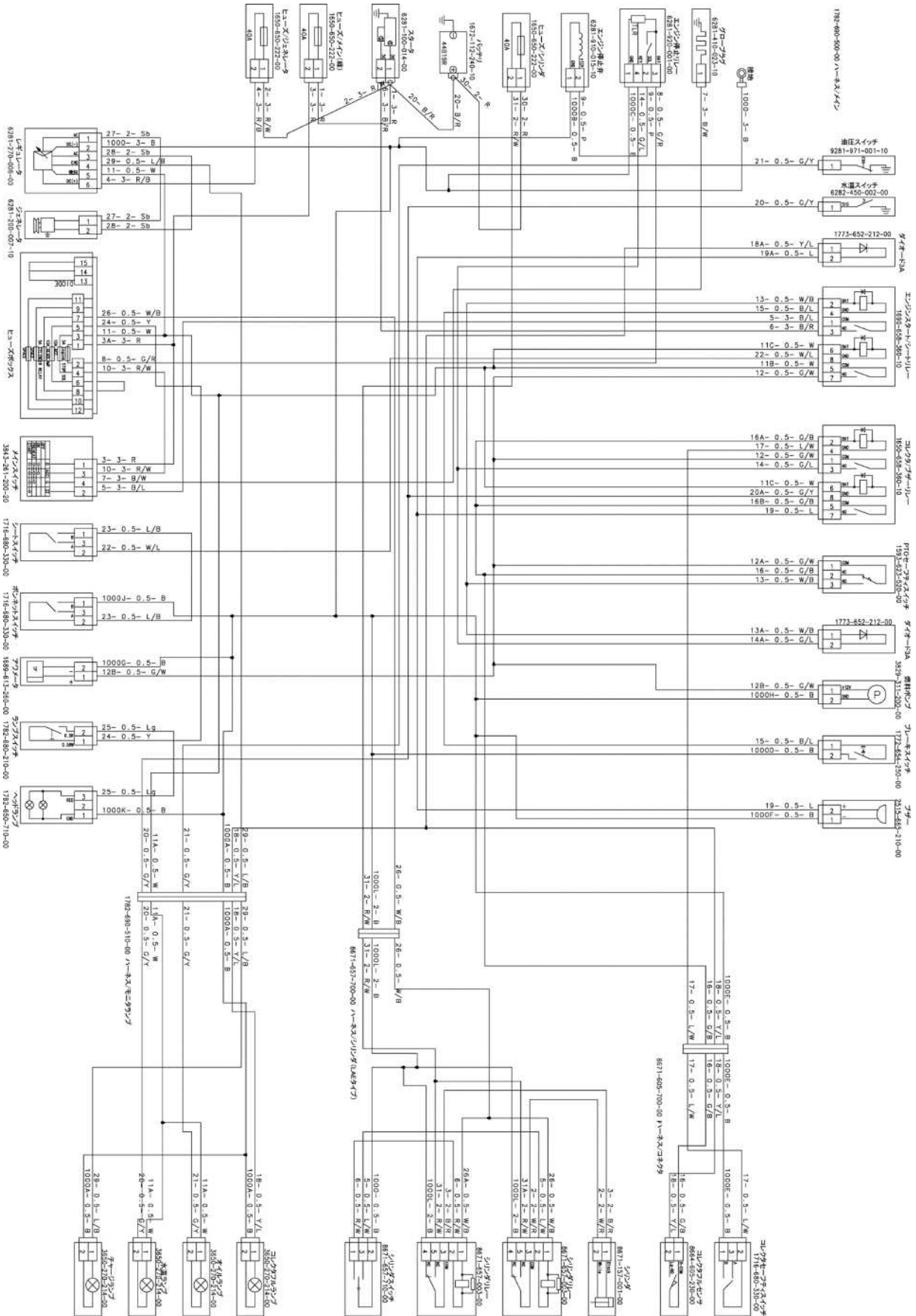
子供や許可を得ていない人がダンプレバーを操作して思わぬ事故が引き起こされるのを防ぐため、コレクタを機械に取り付けられた状態で保管するときは閉じてください。

コレクタの不調診断について

故障状況	原因	処理
<ul style="list-style-type: none"> • コンテナの充填速度の不良。 	<ul style="list-style-type: none"> • PTOベルトが摩耗している。 • ベルトの張りが弱い。 • コンテナのネットの目詰まり。 • シューターに草が詰まっている。 • モアデッキに草が詰まっている。 • クリーニングプレートの取付け不良。 • エンジン回転数が低すぎる。 • エンジン出力が低下。 • 草が濡れている。 • 草丈が高すぎる。 • 走行速度が速すぎる。 • 草が密集している。 • グラスリミットセンサの調整不良。 	<ul style="list-style-type: none"> • ベルトを新しいものと交換する。 • ベルトを確認し調整する。 • 清掃する。 • 詰まった草を取り除く。 • 詰まった草を取り除く。 • クリーニングプレートを正しくセットする。 • フルスロットル (🌀) で草刈りを行う。 • エンジンオイル、エアクリーナ、冷却水を確認し、ラジエータのネット、吸気口のネットを掃除する。 • 草が乾くまで待つ。 • 2回に分けて草刈りを行う。 • 十分に速度を落とす。 • 2回に分けて草刈りを行う。 • 適切に調整する。
<ul style="list-style-type: none"> • 騒音、振動が大きすぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ボルト、ナットの緩み。 • コレクタリンクの支点の不良。 • コレクタリンクのグリス不足。 	<ul style="list-style-type: none"> • 適切に締め直す。 • チェックし、必要な場合は販売店に相談する。 • コレクタリンクにグリスを注入する。
<ul style="list-style-type: none"> • コレクタが動かない。 	<ul style="list-style-type: none"> • コレクタリンクのグリス不足。 • 油圧システムの故障。(LAE) 	<ul style="list-style-type: none"> • コレクタリンクにグリスを注入する。 • 販売店に相談する。

電気配線

電気配線図





株式会社IHIアグリテック

〒390-8714 長野県松本市石芝1丁目1番1号
TEL (0263)88-0200 FAX (0263)27-0380
URL: www.ihl.co.jp/iat/

IHI Agri-Tech Corporation

1-1-1, Ishishiba, Matsumoto-shi, Nagano, 390-8714, Japan
URL: www.ihl.co.jp/iat/en/